

小 島 仕 切 沢 遺 跡

－ B 地点の調査 －

2025

本 庄 市 教 育 委 員 会

お じ ま し き り ざ わ い せ き
小 島 仕 切 沢 遺 跡

－ B 地点の調査－

2025

本庄市教育委員会

序

埼玉県北西部に位置する本庄市は、埼玉県指定史跡「鷲山古墳」、「雉岡城跡」をはじめ、数多くの遺跡と歴史的建造物に恵まれた地域です。

市内には旧石器時代から近世に至るまで500か所を超える遺跡が所在し、近代以降においても競進社模範蚕室や旧本庄商業銀行煉瓦倉庫等の蚕業・製糸業に関わる歴史的建造物が数多く残されています。

さて、本書に報告する小島仕切沢遺跡は、本庄台地北端部に所在する古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡です。

これまでに行われた周辺の発掘調査としては、小島仕切沢遺跡A地点、小島仕切沢南遺跡A地点の調査があり、これらの調査地点では飛鳥時代から平安時代にかけての集落域が検出されております。一方、本報告地点では新たに古墳時代中期の集落域が発見され、同時期の竪穴住居跡や多数の土師器が検出されました。

また、珍しい遺物として、大型の子持勾玉と袋状鉄斧がそれぞれ1点ずつ検出されております。ともに残存状況は非常に良好であり、文化財としての価値も非常に高いものであります。そのため、これらについては、将来的には地域の皆様をはじめ多くの方々に見て知っていただけるような形で公開していきたい、と考えております。

本書は、宅地造成に伴う道路敷設工事に先立って実施された発掘調査の成果をまとめたものでありますが、本庄市の歴史を考えるうえで重要な資料の1つでもあります。本書が学術的な資料としてはもとより、地域の歴史を理解するうえでの助けとなるよう、広く多くの皆様にご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたり、ご尽力いただきました株式会社横尾材木店様、野口勝利様をはじめ、様々なご協力、ご教示を賜りました関係諸機関並びに関係者の皆様に対しまして、心よりお礼を申し上げます。

令和7年2月

本庄市教育委員会
教育長 下野戸 陽子

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市小島六丁目 1357-1、1359-2、1359-3、1360-1、1360-2、1360-5、1367-1、1420 に所在する小島仕切沢遺跡B 地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宅地造成に伴う道路工事に先立つ事前の記録保存を目的として、令和 6 年度に実施した。
3. 発掘調査は、株式会社横尾材木店の委託を受けて、本庄市教育委員会が実施し、大熊季広・福岡佑斗が担当した。現地調査は、宮田忠洋（有限会社毛野考古学研究所埼玉支所）が専従した。
4. 発掘調査から報告書作成・刊行に至る経費は、株式会社横尾材木店が負担した。
5. 発掘調査面積は 980 m²である。
6. 発掘調査期間及び整理調査期間は、以下のとおりである。
発掘調査 自 令和 6 年 4 月 2 日 至 令和 6 年 8 月 9 日
整理調査 自 令和 6 年 8 月 10 日 至 令和 7 年 3 月 3 日
7. 発掘調査にかかわる基準点測量・遺構測量は田村貴広（有限会社毛野考古学研究所）、空中撮影は和久裕昭（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
8. 整理事業・報告書刊行に関わる業務は、有限会社毛野考古学研究所に委託した。
9. 本書の執筆は、第Ⅰ章を本庄市教育委員会事務局、第Ⅱ・Ⅲ章を車崎正彦（有限会社毛野考古学研究所）、第Ⅳ章を宮田・宮本久子（有限会社毛野考古学研究）が担当し、編集を福岡と宮田が行った。遺物の実測及び観察表は、恋河内昭彦（有限会社毛野考古学研究所）・宮本、遺物写真撮影については、井上太（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
10. 本書に掲載した出土遺物、遺構・遺物の実測図及び写真、その他本報告に関連する資料は、本庄市教育委員会で保管している。
11. 本報告にかかる発掘調査、整理事業及び報告書編集・刊行に関する本庄市教育委員会の組織は、下記のとおりである。

小島仕切沢遺跡B 地点発掘調査組織（令和 5・6 年度）

主体者	本庄市教育委員会		
	教 育 長	下野戸 陽子	
事務局	事 務 局 長	笠原 栄作	
文化財保護課	課 長	折茂 勝彦（令和5年度）	
	課 長	小川 知子（令和6年度）	
	課 長 補 佐	的野 善行（令和6年度）	
	課 長 補 佐	細野 房保（令和5年度）	
	課 長 補 佐	橋爪 里佳（令和5年度）	
	課 長 補 佐 兼		
	埋蔵文化財係長	的野 善行（令和5年度）	
	埋蔵文化財係長	大熊 季広（令和6年度）	
	主 任	鈴木 まゆみ	
	主 任	水野 真那	

専門員 徳山 寿樹（令和5年度）
主 事 福岡 佑斗
会計年度任用職員 中嶋 淳子、矢内 勲、新井 嘉人、高木 由香里、
落合 智恵美、倉林 美紀、黒澤 恵、立石 佳代子
調査支援員 宮田 忠洋（有限会社毛野考古学研究所）

12. 発掘調査及び本書の作成にあたって、下記の方々、諸研調査機関よりご助力・ご協力を賜った。
記して感謝いたします。（敬称略）

生野 一志、池田 匡彦、井上 真帆、加藤 隆則、金子 彰男、北山 直人、末木 啓介、外山 政子、
ナワビ アハマッド 矢麻、馬場 匡浩、林 道義、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、児
玉郡神川町教育委員会、児玉郡上里町教育委員会、児玉郡美里町教育委員会、埼玉県教育局教育
総務部文化財・博物館課史跡・埋蔵文化財担当、早稲田大学考古資料館

凡 例

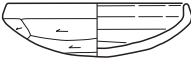

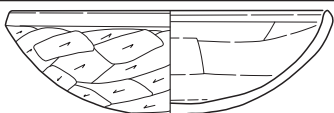



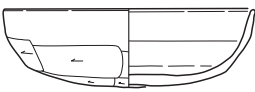

1. 遺構平面図中の北方位は座標北を、断面図の水準線数値は標高を示し、単位はmである。座標は、世界測地系第IX系を用いている。
2. 土層及び土器の色調、土層説明における含有量は、『新版 標準土色帖』2007年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。含有量は、面積割合によって、大量（50%以上）、多量（30%以上～50%未満）、少量（10%以上～30%未満）、微量（10%未満）とした。
3. 本書で使用した地図は、以下のとおりである。
第1図：本庄市都市計画図 1/2,500（平成10年測量、平成25年修正）
第2図：堀口万吉「Ⅱ 埼玉県の地形と地質」『新編埼玉県史 別編3 自然』1986
第3図：国土地理院発行 電子地形図25000「本庄」「伊勢崎」（平成26年調製）
4. 遺構図は、全体図を1/400、全体図割図を1/100、住居跡カマドの平面図・断面図を1/30、その他の遺構平面図・断面図を1/60で掲載した。なお、各挿図中にはスケールを付している。
5. 遺構図中のスクリーントーン及び破線等については、凡例を各挿図中に示した。
6. 挿図中における遺構名は以下のとおりである。また、遺構番号については平成30年度調査（小島仕切沢遺跡 2019）からの連番とした。なお、既報告（小此木 2019）では「SX：竪穴状遺構」とするが、本報告をもって、竪穴状遺構の略号SXをSFと改め、既報告（小此木 2019）掲載のSX-1は、SF-1に改める。本報告で第1号性格不明遺構の略号を改めてSX-1とする。
SI：竪穴住居跡、SK：土坑、SD：溝、P：ピット、SX：性格不明遺構
7. 本文中や土層説明中における火山噴出物は、1783（天明3）年に浅間山から噴出した浅間A軽石をAs-A、1108（天仁元）年に浅間山から噴出した浅間BテフラをAs-Bと表記した。
8. 遺物実測図は、土器完形・復元個体を1/4、土器破片・土製品・鉄製品を1/3、石製品を1/2・1/3で掲載した。なお、各挿図中にはスケールを付している。
9. 遺物番号は、遺物実測図・出土遺物観察表・写真図版ともに共通である。

10. 出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。なお、I－土師器坏分類については多量に出土した第26・31・33・37号住居跡についてのみ適用する。

A－法量・重量（単位はcm・g）、B－成形、C－整形・調整、D－胎土・材質、E－色調、
F－残存度、G－備考、H－出土層位・位置、I－土師器坏分類

11. 本文中及びピット計測表・出土遺物観察表における（ ）は復元値、[]は残存値を示す。

12. 本文中において使用した土師器坏の分類は以下に従った。

分類番号	実 測 図	内 容
a－1		口縁部が短く緩やかに直立もしくは内湾ぎみに立ち上がり、体部がやや浅い平底もしくは深い丸底形状。口径9～11cm前後。
a－2		a－1と形態は同じ。口径12～14cm前後。
a－3		a－1と形態は同じ。口径16～18cm前後。
b		口縁部が長く外反し、体部が浅い平底形状。口径15cm前後。
c		口縁部が直立ぎみに立ち上がり、口縁部直下からヘラケズリ。
d		口縁部が内湾しながら立ち上がり、体部が浅く底部が平底状。 内面に放射状や渦巻状のミガキを施すものがある。口径12cm前後。
e		口縁部が緩く内湾し、体部のヘラケズリによって口縁部と体部の境界が明瞭で、口径14～16cm前後。
f		口縁部が短く立ち上がり、扁平な平底形状。口径15～16cm前後。

目 次

序
例言
凡例
目次

第Ⅰ章	調査に至る経緯	1
第Ⅱ章	遺跡の地理的・歴史的環境	2
	第1節 地理的環境	2
	第2節 歴史的環境	2
第Ⅲ章	検出された遺構と遺物	4
	第1節 遺跡の概要	4
	第2節 基本層序	4
	第3節 検出された遺構と遺物	13
	1. 竪穴住居跡	13
	2. 土 坑	56
	3. 溝 跡	67
	4. 道状遺構	70
	5. ピット	71
	6. 性格不明遺構	78
	7. 遺構外出土遺物	78
第Ⅳ章	まとめ	79
写真図版		
報告書抄録		
奥付		

挿 図 目 次

第1図	調査区位置図	1	第13図	第26号住居跡遺構図(1)	13
第2図	埼玉県の地形	2	第14図	第26号住居跡遺構図(2)	14
第3図	周辺の主要遺跡	3	第15図	第26号住居跡出土遺物	15
第4図	基本層序	4	第16図	第27号住居跡遺構図	18
第5図	B地点全体図	5	第17図	第28号住居跡遺構図	18
第6図	B地点割図1	6	第18図	第29号住居跡遺構図	19
第7図	B地点割図2	7	第19図	第29号住居跡出土遺物	20
第8図	B地点割図3	8	第20図	第30号住居跡出土遺物	21
第9図	B地点割図4	9	第21図	第30号住居跡遺構図	21
第10図	B地点割図5	10	第22図	第31号住居跡遺構図(1)	22
第11図	B地点割図6	11	第23図	第31号住居跡遺構図(2)	23
第12図	B地点割図7	12	第24図	第31号住居跡出土遺物	24

第25図	第 32 号住居跡遺構図	26	第50図	第 44 号住居跡出土遺物	54
第26図	第 32 号住居跡出土遺物	27	第51図	第 45 号住居跡遺構図	55
第27図	第 33 号住居跡遺構図・出土遺物	29	第52図	土坑遺構図（1）	61
第28図	第 34 号住居跡遺構図	31	第53図	土坑遺構図（2）	62
第29図	第 35 号住居跡出土遺物	32	第54図	土坑遺構図（3）	63
第30図	第 35 号住居跡遺構図（1）	33	第55図	土坑遺構図（4）	64
第31図	第 35 号住居跡遺構図（2）	34	第56図	土坑遺構図（5）・出土遺物（1）	65
第32図	第 36 号住居跡遺構図・出土遺物	34	第57図	土坑出土遺物（2）	66
第33図	第 37 号住居跡出土遺物	35	第58図	第 2 号溝跡遺構図	67
第34図	第 37 号住居跡遺構図（1）	36	第59図	第 3 号溝跡遺構図	68
第35図	第 37 号住居跡遺構図（2）	37	第60図	第 4・5 号溝跡遺構図、第 5 号溝跡出土遺物	69
第36図	第 38 号住居跡遺構図	40	第61図	第 1 号道状遺構遺構図	70
第37図	第 38 号住居跡出土遺物	41	第62図	ピット遺構図（1）	71
第38図	第 39 号住居跡遺構図（1）	42	第63図	ピット遺構図（2）	72
第39図	第 39 号住居跡遺構図（2）・出土遺物	43	第64図	ピット遺構図（3）	73
第40図	第 40 号住居跡出土遺物	44	第65図	ピット遺構図（4）	74
第41図	第 40 号住居跡遺構図	45	第66図	ピット遺構図（5）	75
第42図	第 41 号住居跡遺構図	46	第67図	第 1 号性格不明遺構遺構図	78
第43図	第 41 号住居跡出土遺物	47	第68図	遺構外出土遺物	78
第44図	第 42 号住居跡遺構図（1）	48	第69図	古墳時代中・後期における 堅穴住居跡配置図	80
第45図	第 42 号住居跡遺構図（2）・出土遺物（1）	49	第70図	飛鳥時代から平安時代前期における 堅穴住居跡配置図	80
第46図	第 42 号住居跡出土遺物（2）	50	第71図	底部に突起のある坏集成	84
第47図	第 43 号住居跡出土遺物	51			
第48図	第 43 号住居跡遺構図	52			
第49図	第 44 号住居跡遺構図	53			

表 目 次

第 1 表	第 26 号住居跡土器類出土量	14	第23表	第 37 号住居跡出土遺物観察表（1）	37
第 2 表	第 26 号住居跡出土遺物観察表（1）	15	第24表	第 37 号住居跡出土遺物観察表（2）	38
第 3 表	第 26 号住居跡出土遺物観察表（2）	16	第25表	第 37 号住居跡出土遺物観察表（3）	39
第 4 表	第 26 号住居跡出土遺物観察表（3）	17	第26表	第 37 号住居跡出土遺物観察表（4）	40
第 5 表	第 28 号住居跡土器類出土量	18	第27表	第 38 号住居跡出土遺物観察表	41
第 6 表	第 28 号住居跡出土遺物観察表	19	第28表	第 39 号住居跡出土遺物観察表	44
第 7 表	第 29 号住居跡出土遺物観察表	20	第29表	第 40 号住居跡出土遺物観察表	45
第 8 表	第 30 号住居跡土器類出土量	21	第30表	第 41 号住居跡出土遺物観察表	47
第 9 表	第 30 号住居跡出土遺物観察表	21	第31表	第 42 号住居跡出土遺物観察表（1）	50
第10表	第 30 号住居跡土器類出土量	23	第32表	第 42 号住居跡出土遺物観察表（2）	51
第11表	第 31 号住居跡出土遺物観察表（1）	24	第33表	第 43 号住居跡出土遺物観察表	52
第12表	第 31 号住居跡出土遺物観察表（2）	25	第34表	第 44 号住居跡出土遺物観察表（1）	54
第13表	第 32 号住居跡出土遺物観察表	28	第35表	第 44 号住居跡出土遺物観察表（2）	55
第14表	第 33 号住居跡土器類出土量	29	第36表	土坑出土遺物観察表（1）	66
第15表	第 33 号住居跡出土遺物観察表（1）	29	第37表	土坑出土遺物観察表（2）	67
第16表	第 33 号住居跡出土遺物観察表（2）	30	第38表	第 5 号溝出土遺物観察表	70
第17表	第 33 号住居跡出土遺物観察表（3）	31	第39表	ピット一覧表（1）	75
第18表	第 34 号住居跡土器類出土量	31	第40表	ピット一覧表（2）	76
第19表	第 35 号住居跡出土遺物観察表	32	第41表	ピット一覧表（3）	77
第20表	第 36 号住居跡土器類出土量	35	第42表	遺構外出土遺物観察表	78
第21表	第 36 号住居跡出土遺物観察表	35	第43表	集積遺構出土土器の総量	81
第22表	第 37 号住居跡土器類出土量	35			

図版目次

図版 1	小島仕切沢遺跡 B 地点遠景 小島仕切沢遺跡 B 地点全景	第 62 号土坑 第 2 号溝跡 第 3 号溝跡 第 4 号溝跡 第 5 号溝跡
図版 2	第 26 号住居跡 第 26 号住居跡カマド 第 26～28 号住居跡遺物出土状態 第 26 号住居跡 D 1 遺物出土状態 第 27 号住居跡 第 28 号住居跡 第 29 号住居跡 第 29 号住居跡遺物出土状態	図版 8 第 1 号道状遺構 第 1 号道状遺構土層断面 調査区南西部ピット群 P-287 獣骨出土状態 第 1 号性格不明遺構 第 1 号性格不明遺構土層断面 基本層序 A 基本層序 B
図版 3	第 30 号住居跡 第 31 号住居跡 第 31 号住居跡カマド 第 31 号住居跡遺物出土状態 第 32 号住居跡 第 33 号住居跡 第 33 号住居跡遺物出土状態 第 33 号住居跡遺物出土状態	図版 9 堅穴住居跡出土遺物 (1) 図版 10 堅穴住居跡出土遺物 (2) 図版 11 堅穴住居跡出土遺物 (3) 図版 12 堅穴住居跡出土遺物 (4) 図版 13 堅穴住居跡出土遺物 (5) 図版 14 堅穴住居跡出土遺物 (6) 図版 15 堅穴住居跡出土遺物 (7) 図版 16 堅穴住居跡出土遺物 (8) 図版 17 堅穴住居跡出土遺物 (9) 図版 18 堅穴住居跡出土遺物 (10)・土坑出土遺物 (1) 図版 19 土坑出土遺物 (2)・溝出土遺物・ピット出土遺物・遺構外出土遺物
図版 4	第 33 号住居跡動物骨出土状態 第 34 号住居跡 第 35 号住居跡 第 36 号住居跡 第 37 号住居跡 第 37 号住居跡カマド 第 37 号住居跡遺物出土状態 第 38 号住居跡	
図版 5	第 39 号住居跡 第 40 号住居跡 第 41 号住居跡 第 40・41 号住居跡遺物出土状態 第 42 号住居跡 第 42 号住居跡遺物出土状態 第 42 号住居跡遺物出土状態 第 42 号住居跡遺物出土状態	
図版 6	第 43 号住居跡 第 44 号住居跡 第 44 号住居跡遺物出土状態 第 45 号住居跡 第 45 号土坑遺物出土状態 第 52 号土坑遺物出土状態 第 52 号土坑遺物出土状態 第 55 号土坑遺物出土状態	
図版 7	第 55 号土坑遺物出土状態 第 60 号土坑 第 61 号土坑遺物出土状態	

第 I 章 調査に至る経緯

令和 5 年 5 月 29 日（月）、本庄市小島六丁目 1357-1・4、1359-2・3、1360-1・2・5、1367-1、1420 において、宅地造成に伴う道路付設工事を計画している野口勝利氏より、同開発予定地に関する『埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて（照会）』の照会文書が、本庄市教育委員会に提出された。

これを受けて、市教育委員会は、埼玉県教育委員会発行の『埼玉県遺跡地図』（令和 4 年度版）をもとに、同地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しているか照会を行ったところ、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である小島仕切沢遺跡（埼玉県遺跡番号 No. 53-011）内に所在していることが判明した。

そのため、市教育委員会では、当該事業計画地について遺跡保存のための基礎資料を得るために試掘調査を行うこととし、令和 5 年 7 月 25 日（火）から同月 27 日（木）にかけて現地調査を実施した。

試掘調査の結果、事業予定地内にて保存対象となる埋蔵文化財として、竪穴住居跡と土坑、多数の土師器片が検出された。

この試掘調査の結果に基づいて、事業主と開発予定地に所在する埋蔵文化財の保存について協議を実施したが、計画変更等は困難であるため、事業予定地内において、工事により保存されない範囲を発掘調査し、記録保存の措置をとることとなった。また、事業主より、本発掘調査にかかる発注者は、株式会社横尾材木店となる旨の連絡があった。

かくして、令和 6 年 2 月 9 日（金）に発注者と本庄市の間で遺跡発掘調査委託契約を締結し、現地における発掘調査を実施する運びとなった。

発掘調査に関わる通知は、野口勝利氏より文化財保護法第 93 条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和 6 年 1 月 20 日付）が、本庄市教育委員会の進達文（令和 6 年 4 月 1 日付本教文発第 123 号）を副えて、埼玉県教育委員会に提出されている。

また、本庄市教育委員会より文化財保護法第 99 条に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」（令和 6 年 4 月 1 日付本教文発第 1 号）が、埼玉県教育委員会に提出されている。

さらに、埼玉県教育委員会から、開発工事着工前に発掘調査を実施する旨の指示が記された「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」（令和 6 年 4 月 1 日付教文資第 4-1378 号）が事業主に通知されている。

なお、現地における発掘調査は令和 6 年 4 月 2 日（火）から同年 8 月 9 日（金）の日程で行われた。

（本庄市教育委員会事務局）



第 1 図 調査区位置図

第Ⅱ章 遺跡の地理的・歴史的環境

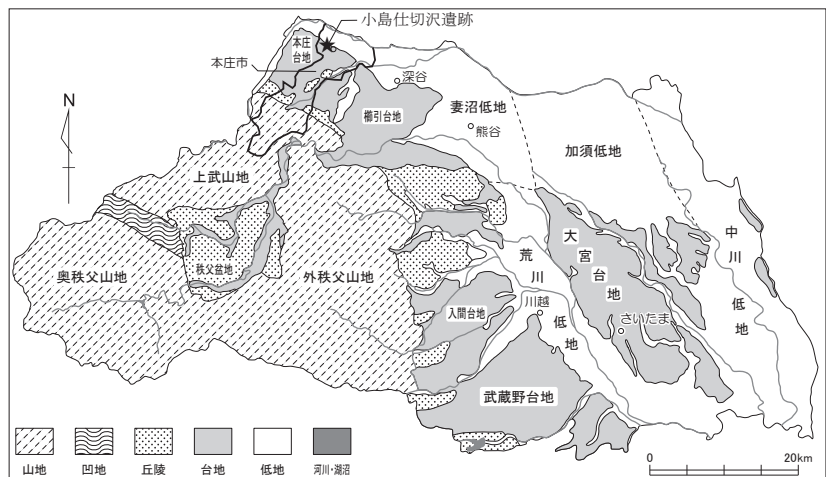
第1節 地理的環境

本遺跡は、埼玉県北西部の本庄市に所在し、JR 本庄駅の北西 1.5km に位置する（第2図）。本庄市の東は深谷市、西は児玉郡上里町・神川町、南は児玉郡美里町・秩父郡長瀬町・皆野町、北は群馬県伊勢崎市と接する。

本庄市の地形は、南西部の山地と丘陵、中央部の台地、

北東部の低地に大きく分けられる。山地は上武山地北縁の山々が連なり、谷筋は女堀川や小山川（旧身馴川）などの水源になっている。山地の北麓には児玉丘陵が半島状に幾筋も延び、丘陵の北東端は生野山や浅見山（大久保山）など残丘が発達している。児玉丘陵の北東に扇形に広がる本庄台地は緩やかに傾斜する平坦な台地で、西は神流川低地、北は妻沼低地、東は小山川で境される。妻沼低地は神流川低地から接続して東南東に開ける低地で、利根川の流向による自然堤防が発達している。

本遺跡が立地する本庄台地北縁部は、深谷断層の切り立った急段崖を境として利根川右岸の妻沼低地に臨み、崖下には湧水が多く、崖に沿って元小山川が流れている。



第2図 埼玉県の地形

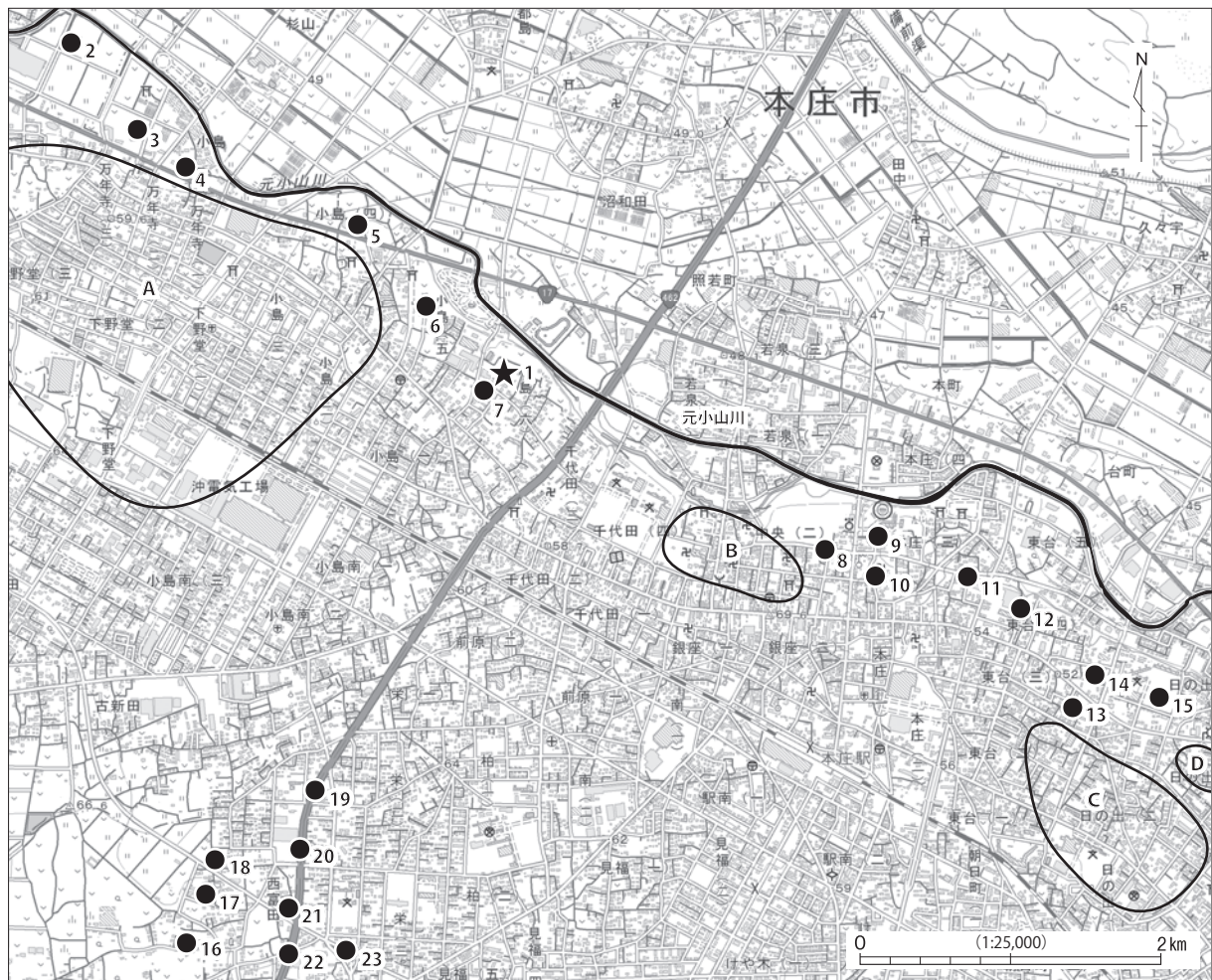
第2節 歴史的環境

本遺跡（1）周辺の古墳時代から中世にかけての遺跡について概観する（第3図）。古墳時代前期の集落は女堀川流域の自然堤防や微高地に出現する。中期の居住域は本庄台地の南縁部から内奥部へ拡大し、西富田新田遺跡（16）、夏目西遺跡（17）、弥藤次遺跡（18）、二本松遺跡（19）、西富田遺跡（20）、夏目遺跡（21）、社具路遺跡（22）、薬師元屋舗遺跡（23）など多くの集落が形成される。中期後半には新技術の導入による開発が想定され、台地北縁部でも小島本伝遺跡（5）、小島仕切沢南遺跡（7）、本庄中北原遺跡（8）、本庄城跡（9）、城山遺跡（10）、薬師堂東遺跡（15）などに集落が営まれ、後期から終末期にかけて集落の増加、居住域の拡大が続き、本庄城跡や薬師堂東遺跡などは遺構が隙間なく密集する。なお、薬師堂東遺跡はガラス小玉鋳型や棒状土製品が多数出土し、この時期のガラス小玉工房の存在が推定されている。台地北縁部には旭・小島古墳群（A）、北原古墳群（B）、塚合古墳群（C）、御堂坂古墳群（D）が分布する。旭・小島古墳群には中期から終末期にかけて 150 基以上の古墳が造営され、百八塚と称される塚合古墳群にも中期後半から終末期まで多数築かれた。

律令期には本庄市域のほとんどが児玉郡に属し、薬師元屋舗遺跡周辺は紡錘車刻書「武蔵国児玉郡草田郷戸主大田部身万呂」によって草田郷に比定されている。また、北西部の小島周辺は賀美（加美）郡小島郷の比定地にあたる。台地北縁部の奈良・平安時代の集落は石神境遺跡（3）、本庄2号遺跡（4）、

小島本伝遺跡、本遺跡、小島仕切沢南遺跡、本庄中北原遺跡、本庄城跡、天神林遺跡（11）、天神林Ⅱ遺跡（12）、本庄飯玉遺跡（13）、薬師堂遺跡（14）、薬師堂東遺跡、御堂坂遺跡が浅い谷で区切られながら連なっている。これらの遺跡では土錘が多く出土し、淡水魚の網漁が推察されている。また、台地下の微高地に立地する石神境遺跡は土師器坯の生産が推定されている。

中世の児玉郡は武蔵七党の児玉党の本貫地で、児玉党諸氏に因む地名が多い。浅見山丘陵周辺は児玉党嫡流の庄氏の本拠で、本宗家の館と伝える栗崎館跡、菩提寺の宥荘寺とされる大久保山寺院跡、宝篋印塔・五輪塔や梵字印刻蔵骨器が出土した東谷中世墓群などが立地する。これに対して台地北縁部の小島氏館跡（6）は賀美郡小島郷を本拠とする丹党小島氏の居館と伝わる。また、15世紀中頃の五十子陣は古河公方足利成氏と敵対する関東管領上杉房顕が拠点として構えた陣で、女堀川と小山川の合流点を本陣として将兵が駐屯する関東の軍事・政治の中心地であった。本陣の南の東五十子田端屋敷遺跡には溝で区画された屋敷がならび、風雅な香炉や風炉、火鉢などの出土から有力武将の布陣が推定されている。五十子陣に関連する遺跡は女堀川と小山川に挟まれた台地を中心に広範囲に分布し、台地北縁部の薬師堂東遺跡の堀跡も五十子陣に関わる施設の可能性がある。



1. 小島仕切沢遺跡 2. 北稻塚遺跡（上里町） 3. 石神境遺跡 4. 本庄2号遺跡 5. 小島本伝遺跡 6. 小島氏館跡 7. 小島仕切沢南遺跡 8. 本庄中北原遺跡 9. 本庄城跡 10. 城山遺跡 11. 天神林遺跡 12. 天神林Ⅱ遺跡 13. 本庄飯玉遺跡 14. 薬師堂遺跡 15. 薬師堂東遺跡 16. 西富田新田遺跡 17. 夏目西遺跡 18. 弥藤次遺跡 19. 二本松遺跡 20. 西富田遺跡 21. 夏目遺跡 22. 社具路遺跡 23. 薬師元屋舗遺跡 A. 旭・小島古墳群 B. 北原古墳群 C. 塚合古墳群 D. 御堂坂古墳群

第3図 周辺の主要遺跡

第Ⅲ章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡 20 軒、土坑 25 基、ピット 58 基、溝跡 4 条、道状遺構 1 条、性格不明遺構 1 基である。検出された遺構は出土遺物から古墳時代中期～奈良時代に帰属するものと考えられる。特筆すべき点として第 33・37 号竪穴住居跡において確認された土師器坏の大量出土が挙げられる。特に第 33 号竪穴住居跡では馬歯が伴って出土しており注目される。この両遺構の遺物出土状態は、何らかの祭祀に使用された土器を集積したものである可能性が想定される。本遺跡からおよそ 250 m 南東に位置する小島仕切沢遺跡 A 地点においても同様の出土状態を示す遺構が検出されており両者の有機的な関係が想定されるものである。

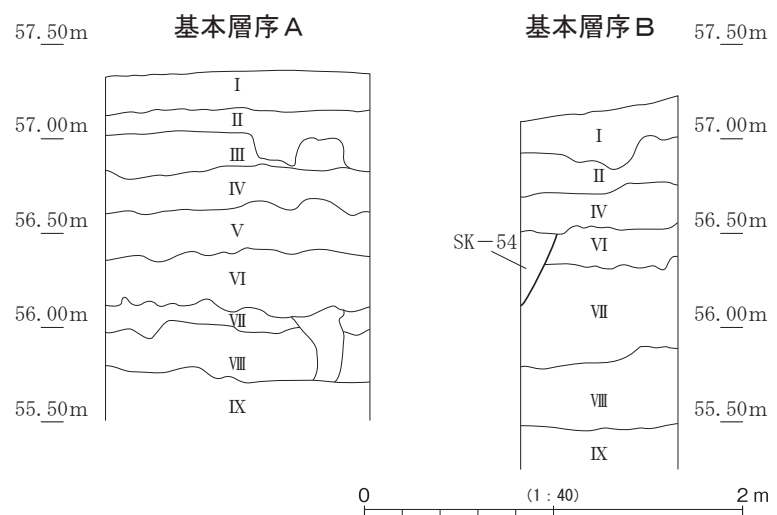
出土した遺物の総量は遺物収納箱（テンバコー 36：内寸 W 543 × D 340 × H 200 mm）で 51 箱分に相当する。土器類の他は、土錘・石製紡錘車・子持勾玉未製品・袋状鉄斧といった遺物が出土した。なお、飛鳥・奈良時代に帰属する竪穴住居跡出土の土器類については重量を計測した。また、第 26・31・33・37 号住居跡において出土した大量の土師器坏については凡例に示した分類を行った後、実測図・観察表を掲載したものと、実測図は掲載せず写真・観察表を掲載したものがある。分類結果については観察表に記してある。

第2節 基本層序

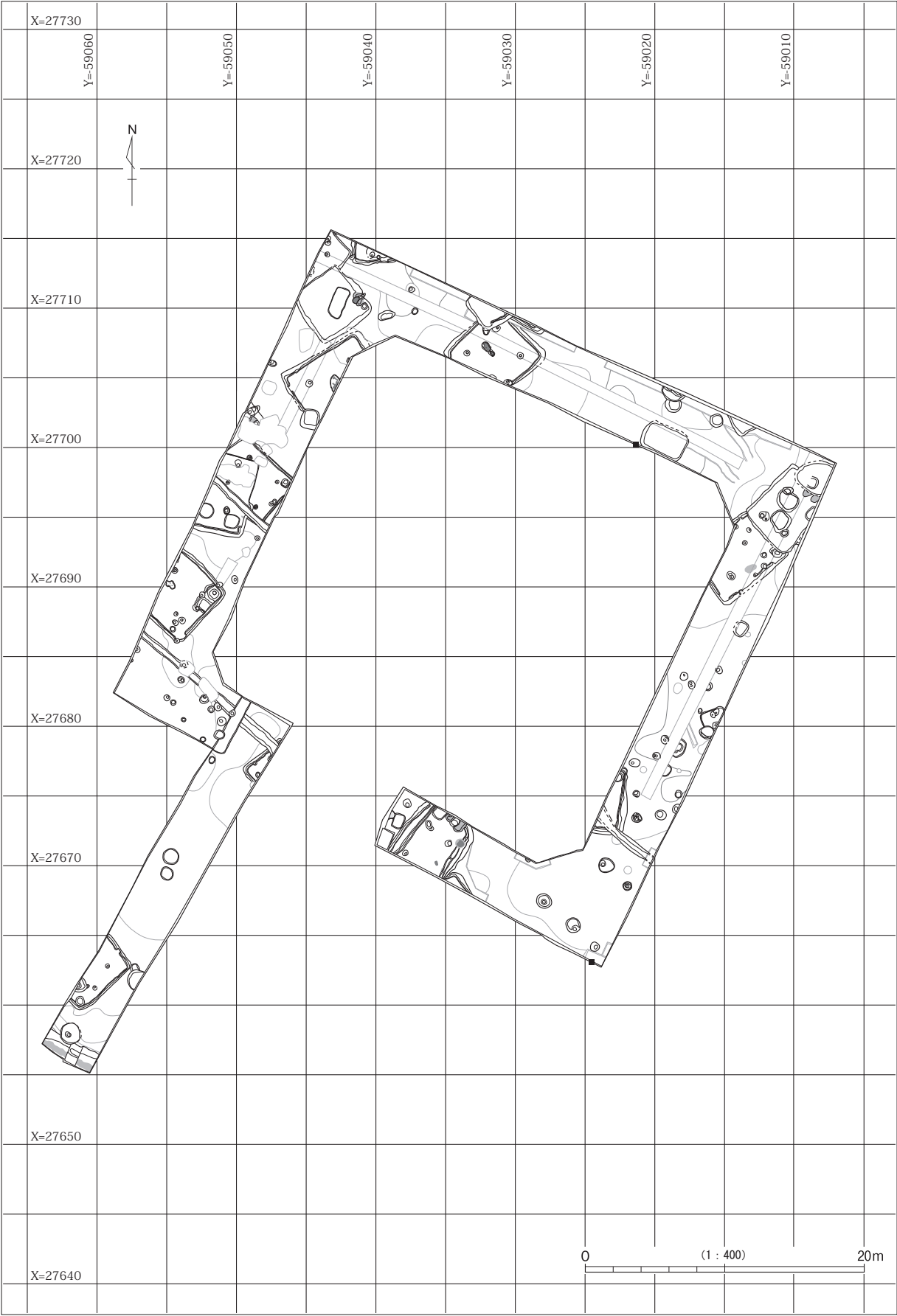
基本層序は調査区南東部（基本層序 A）と北東部（基本層序 B）の 2 箇所を確認した（第 7・8 図）。第 I 層は表土である。第 II 層は As-A を含む灰黄褐色土層である。第 III 層は As-B を含む黒色土層で土器細片を多量に含んでいる。第 IV 層は黒褐色土層で土器小片を多量に含んでいる。第 V 層は褐色土層でロームブロックを少量含む。第 VI 層は暗褐色土層で褐色土ブロック・灰白色粒を含む。第 V・VI 層はローム漸移層と考えられる。第 VII 層は明黄褐色土層で As-YP を微量に含む。第 VIII 層は黄橙色土層

で As-YP を多量に含む。IX 層はにぶい黄橙色土層でシルト質である。地点により砂礫を含む箇所が認められた。

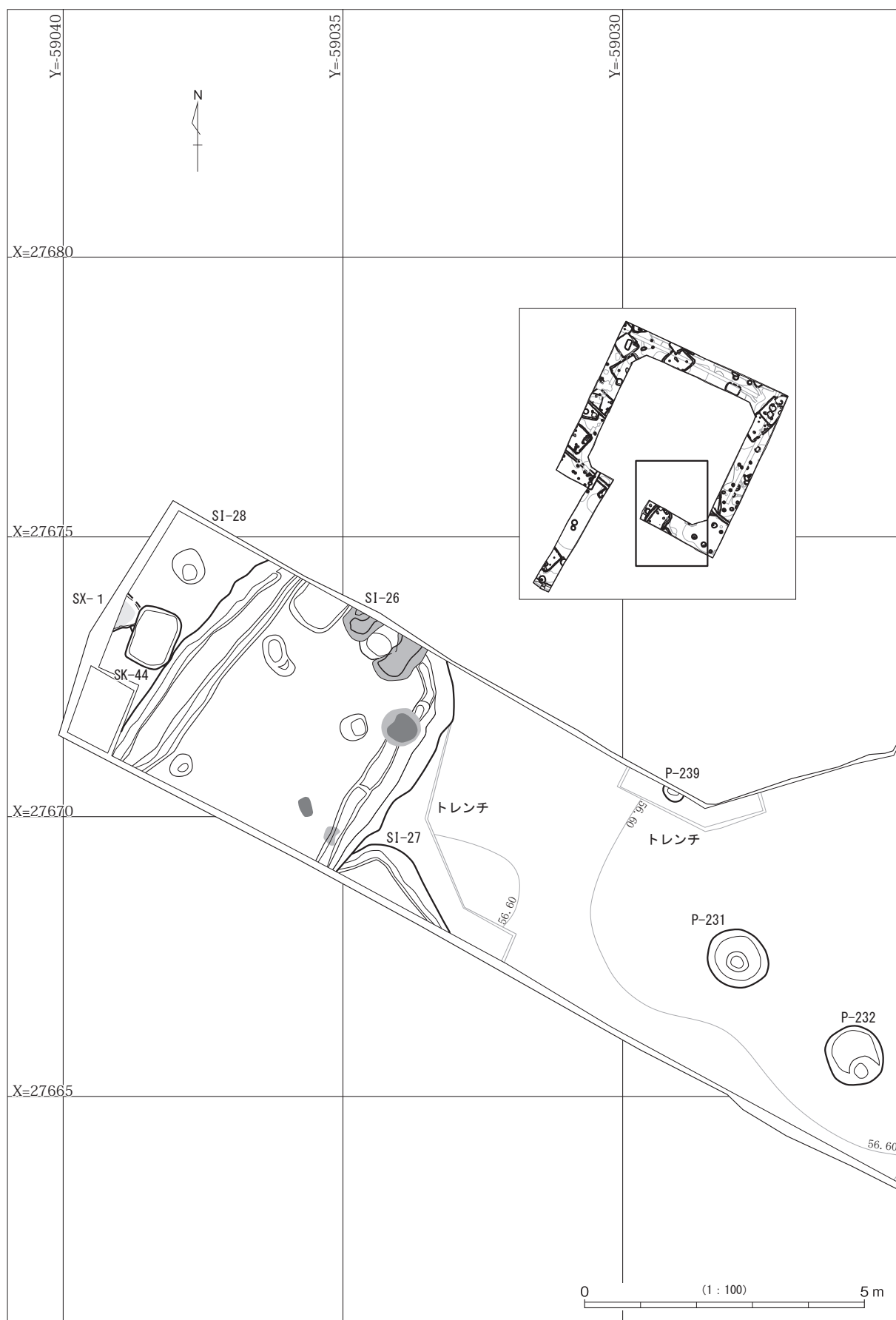
なお、今回の調査では第 V・VI 層上面を遺構確認面として調査を行った。



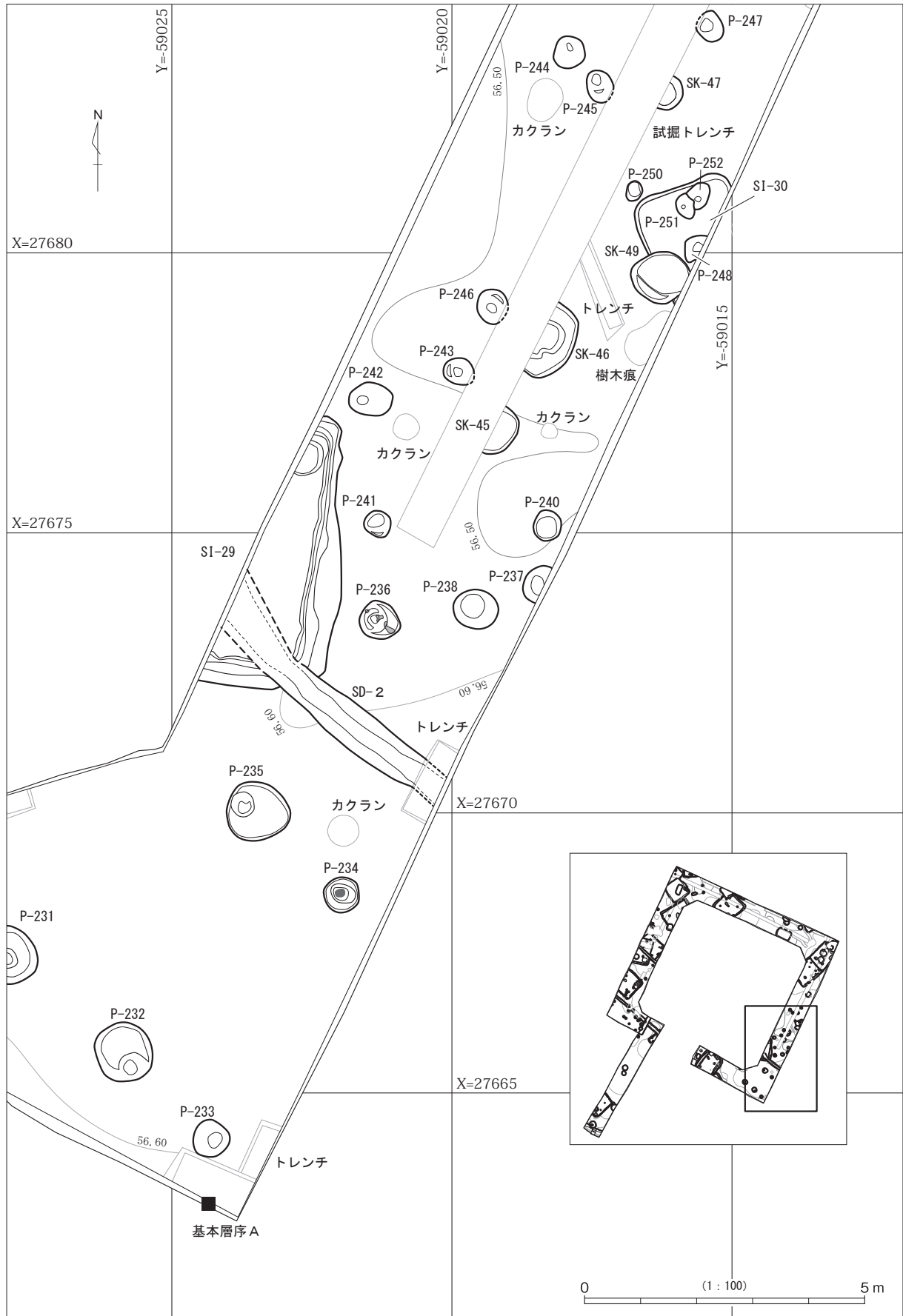
第4図 基本層序



第5図 B地点全体図

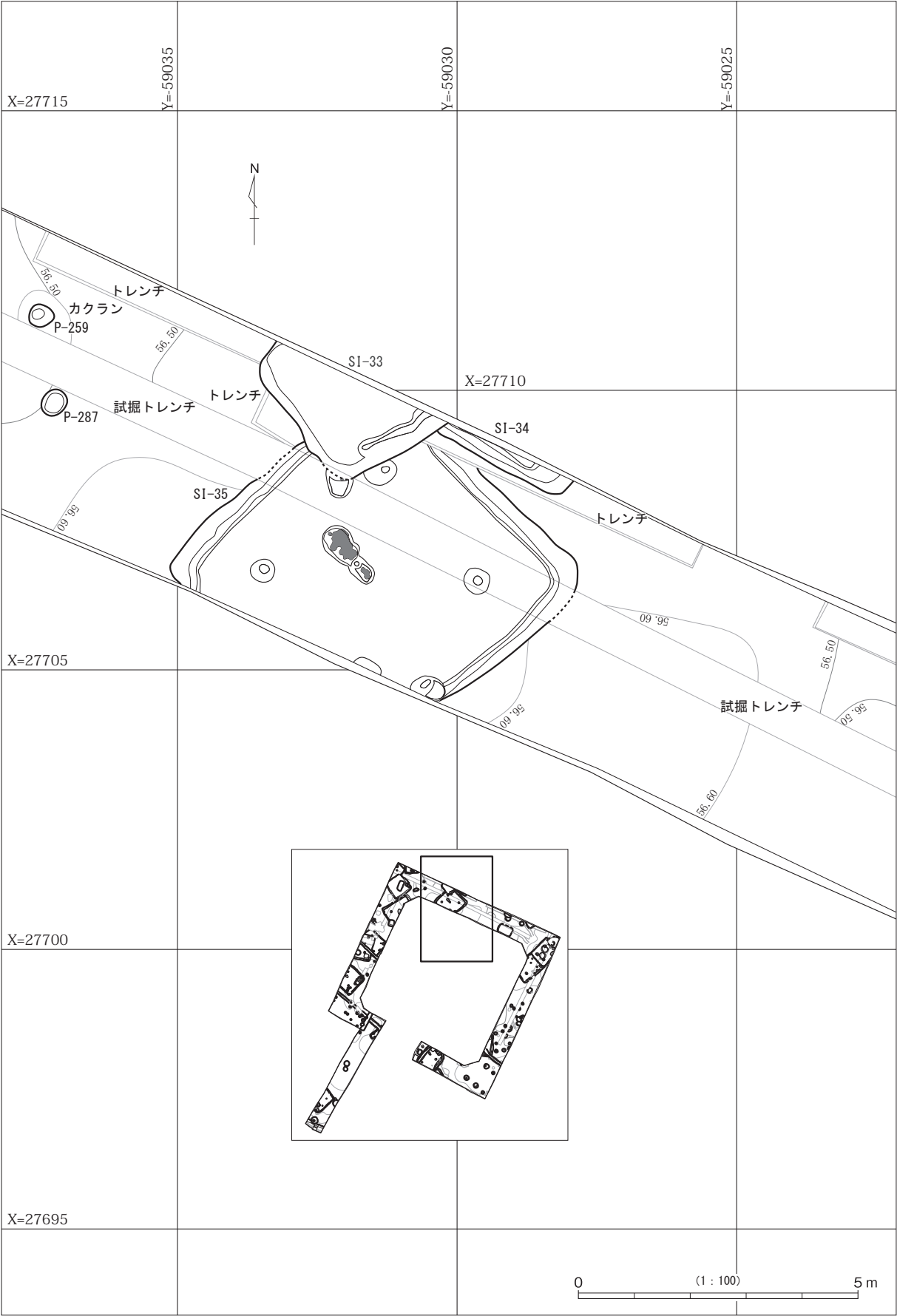


第6図 B地点割図1

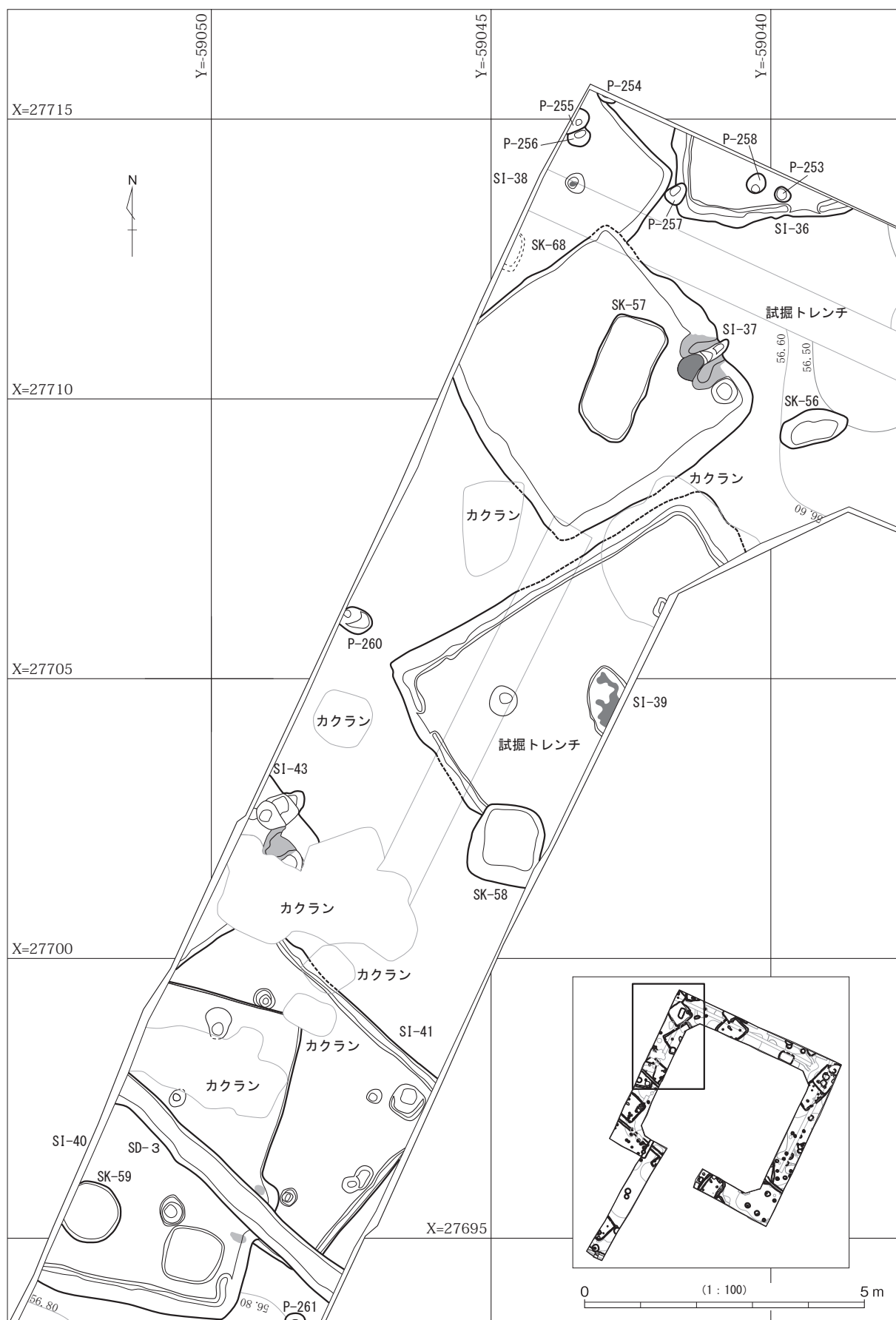


第7図 B地点割図2

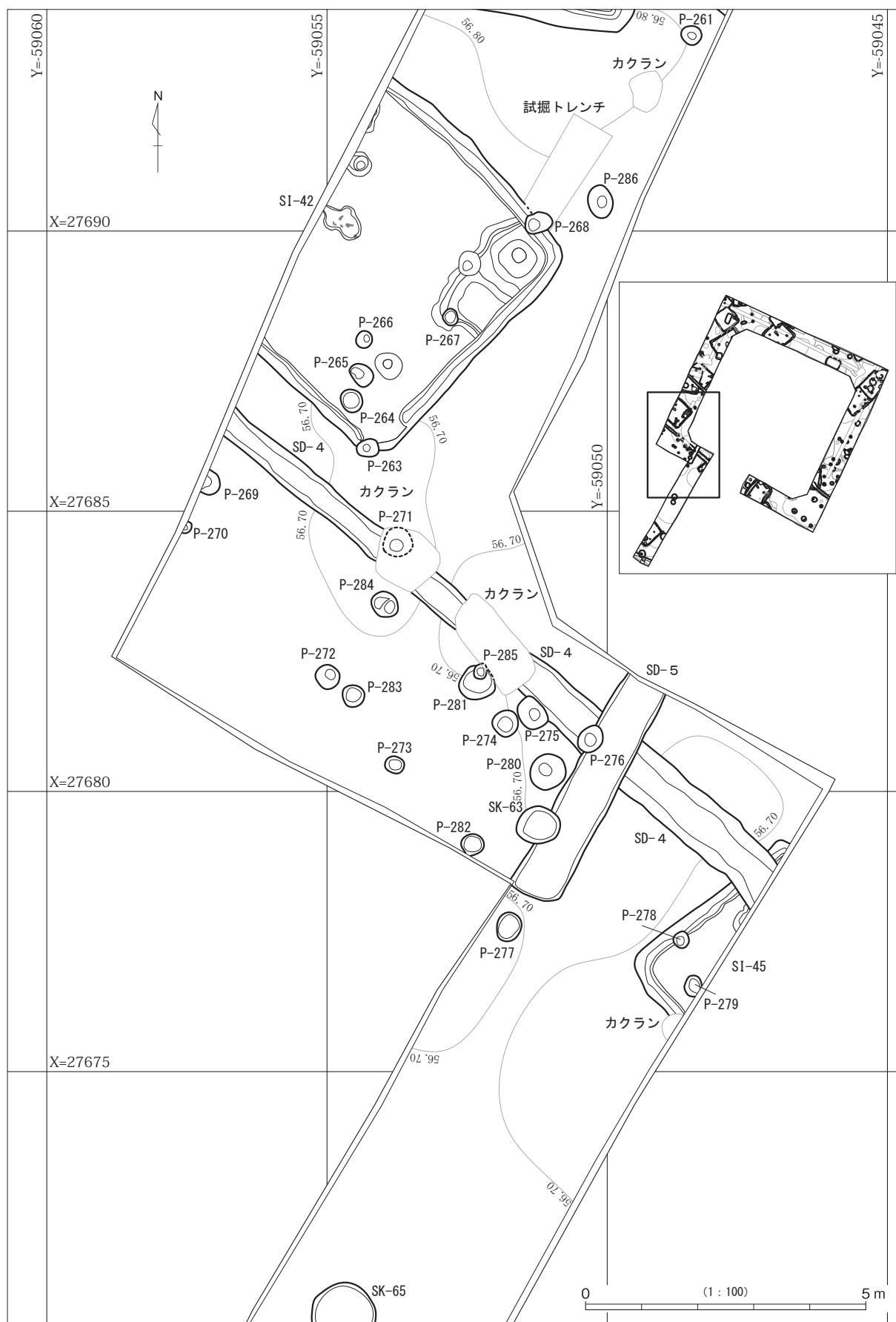
8



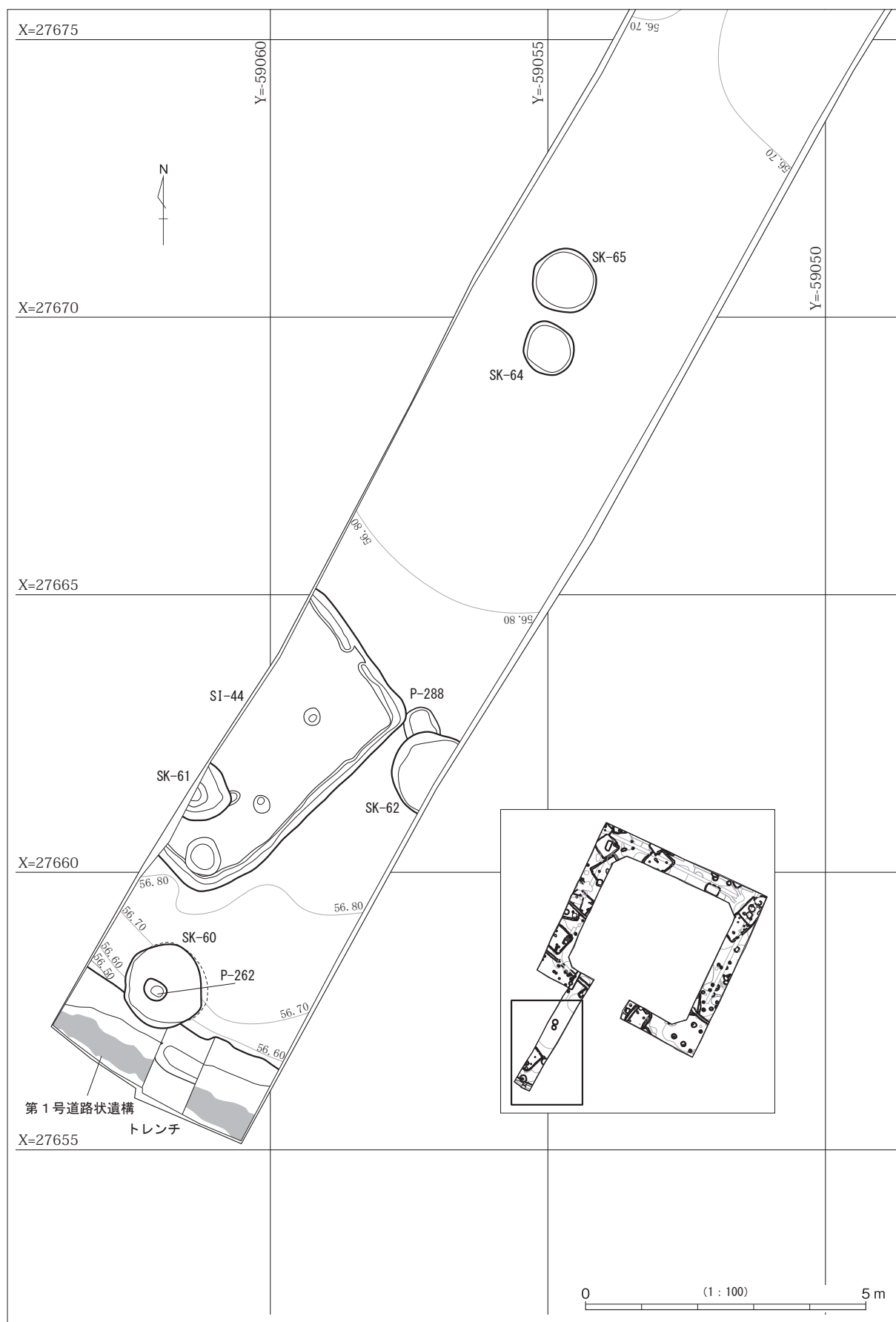
第9図 B地点割図4



第 10 図 B地点割図5



第 11 图 B地点割図 6



第12図 B地点割図7

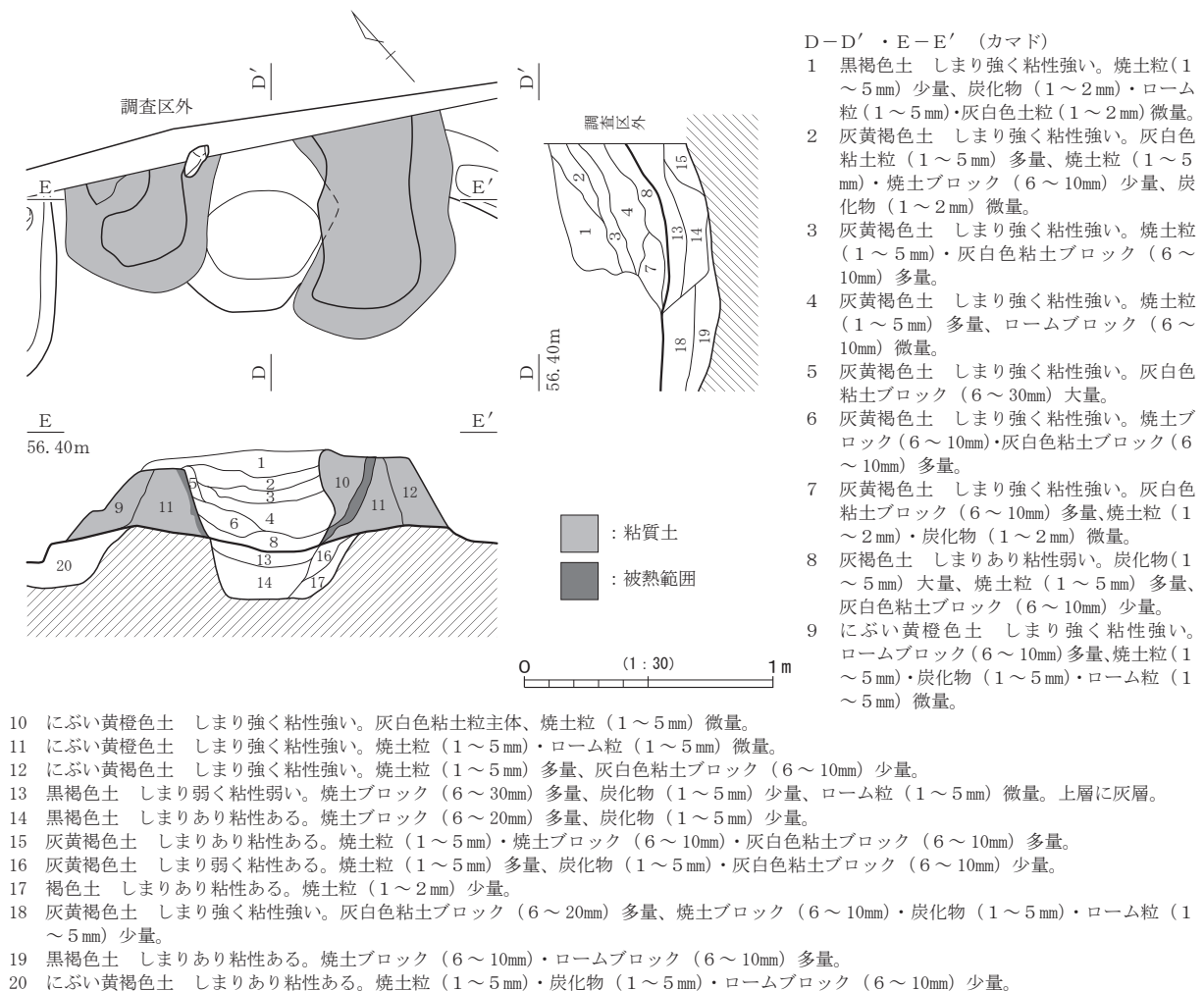
第3節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

第26号住居跡（第13～15図、第1～4表、図版2・9・10）

調査区中央南側、X =27665・27670、Y =-59035・-59030 に位置する。第27・28号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が最も新しい。北東部および南西部は調査区外に範囲がおよぶ。平面形は隅丸長方形を呈していたと想定される。規模は、北東－南西が4.62 m以上、北西－南東が4.92 mを測る。長軸方位は、N－36°－Eを示す。

壁は急な角度をもって立ち上がり、確認面から床面までの深さは0.55 mを測る。壁溝は調査範囲においてはカマドの位置を除き全周していた。なお、北西壁側では2条の壁溝が検出された。内側に走行する壁溝は貼り床下から検出されたことから住居跡の拡張に伴う新たな壁溝の開削が行われた可能性が想定される。床面はやや凹凸が認められる。ピットは、3基（P1～3）が検出されている。P1～3は位置関係を考慮すると主柱穴と考えられる。規模はP1が0.78 m×0.41 m、深さ0.52 m、P2が0.48 m×0.44 m、深さ0.46 m、P3が0.45 m×0.37 m、深さ0.40 mである。住居跡北側では貯蔵穴と考えられる土坑（D1）が検出された。規模は0.90 m×0.72 m以上、深さ0.21 m



第13図 第26号住居跡遺構図（1）

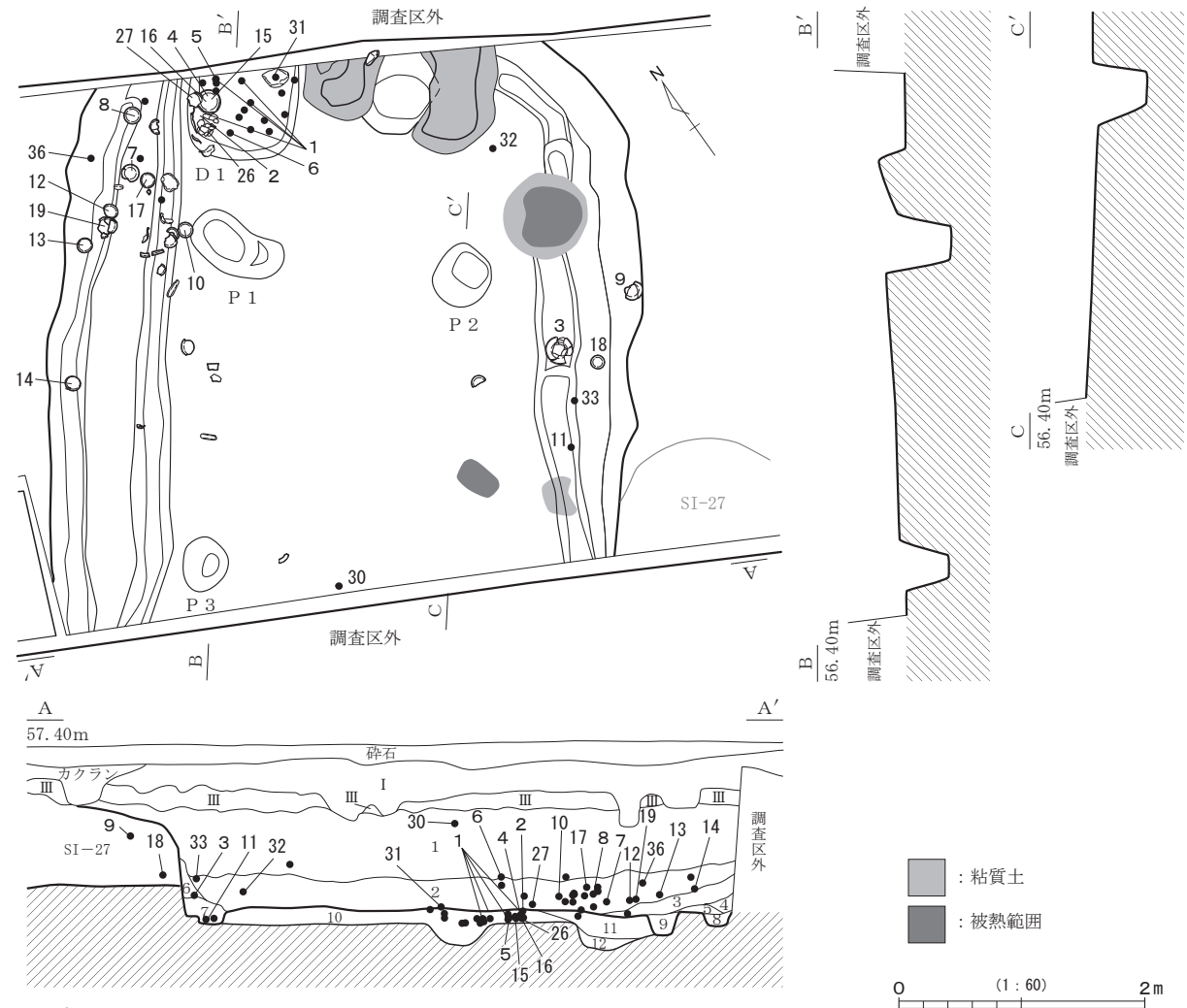
を測る。

カマドは北東壁やや東寄りの位置に付設されていた。煙道部は調査区外に範囲がおよぶ。規模は長さ0.84 m以上、燃烧室幅0.47 mである右袖においては使用時に生じた被熱痕とは異なる被熱痕が検出されており、カマド構築に伴う空焚き痕の可能性が想定される。

遺物は、土師器甕・小型甕・台付甕・鉢・坏、須恵器甕・蓋・坏・高台付埴、土製品、石製品、鉄

第1表 第26号住居跡土器類出土量 (g)

土師器		須恵器		
坏類	甕類	坏	蓋	壺・甕
29,610	35,280	470	480	1,130

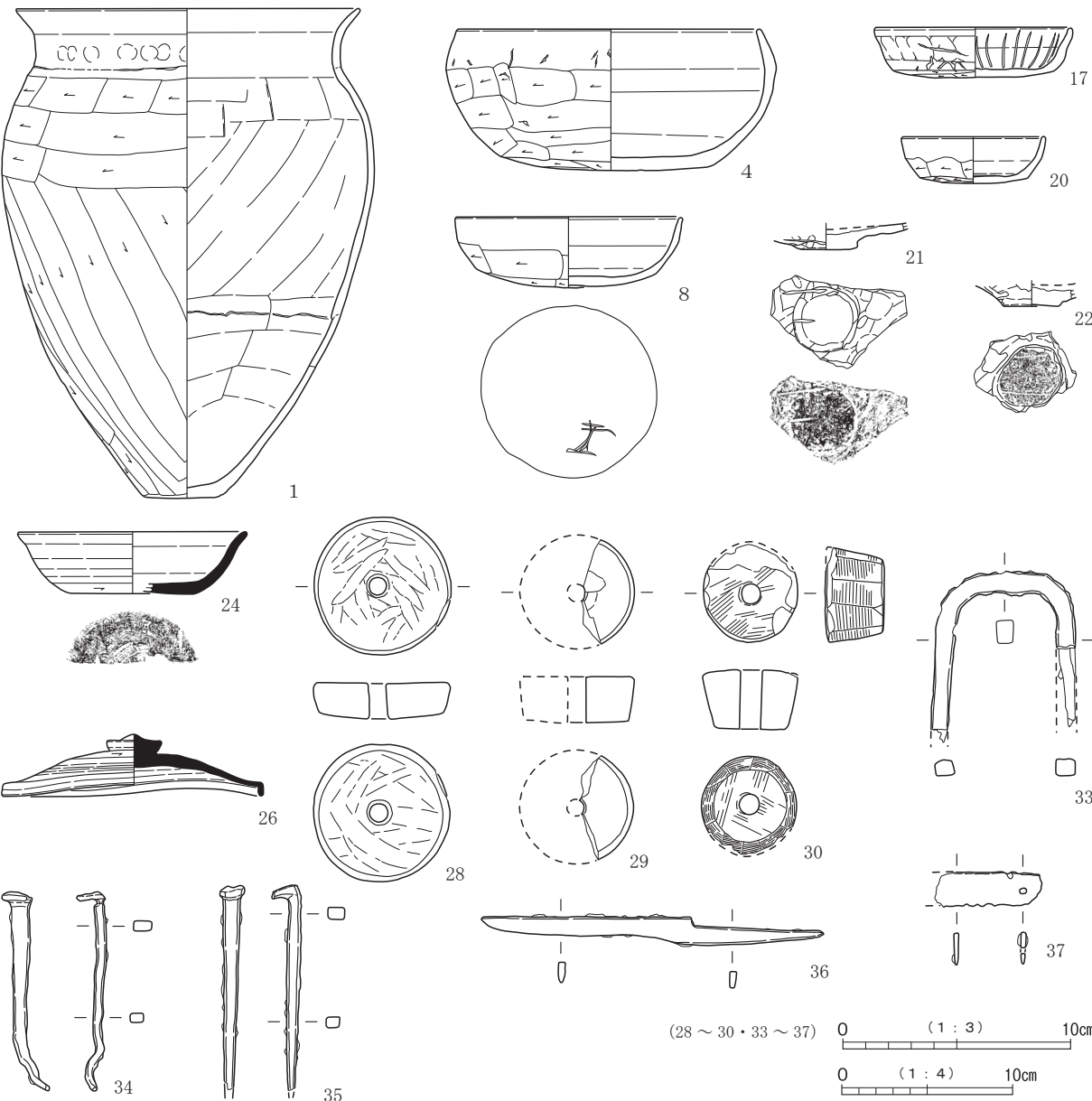


- A-A'
- 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量、灰白色粒 (1~2mm) 少量、焼土粒 (1~5mm) 微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり粘性ある。焼土粒 (1~5mm) 多量、にぶい黄橙色土粒 (1~5mm) 少量、灰白色粘土ブロック (6~10mm)・灰白色粒 (1~2mm) 微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~2mm) 微量。
- 4 黒褐色土 しまり強く粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 少量、ローム粒 (1~5mm)、焼土粒 (1~2mm) 微量。
- 5 黒褐色土 しまり強く粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量。
- 6 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~2mm) 少量、灰白色粒 (1~2mm) 微量。
- 7 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量、にぶい黄橙色土粒 (1~2mm) 少量、焼土粒 (1~2mm) 微量。
- 8 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~2mm)・ロームブロック (6~10mm) 少量、礫 (6~10mm) 微量。
- 9 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~2mm)・ロームブロック (10~15mm) 少量。
- 10 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量。
- 11 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 多量、礫 (6~10mm) 微量。
- 12 暗褐色土 しまり強く粘性強い。ロームブロック (6~10mm) 大量、礫 (6~50mm) 少量、焼土粒 (1~5mm)・炭化物 (1~2mm) 微量。

第14図 第26号住居跡遺構図 (2)

製品が床面付近および住居覆土中から大量に出土した。特に貯蔵穴およびその周辺において集中して出土する状況が看取された。出土した遺物のうち 37 点を選出し、そのうち 20 点は写真・観察表のみの掲載とした。出土した土師器坏のうち d 類は 8 点、e 類は 7 点、f 類は 1 点である。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から奈良時代～平安時代（8 世紀後半～9 世紀前半）と考えられる。



第 15 図 第 26 号住居跡出土遺物

第 2 表 第 26 号住居跡出土遺物観察表（1）

1	土師器 甕	A．口径 20.0、器高 28.7、底径 4.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ユビオサエ→ヨコナデ。胴～底部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。D．石英・長石・赤色粒・白色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．3/4。G．外面胴部下位以下黒斑。内面胴部下位以下摩耗。H．No23・45・46・51、カマド No35、カマド、貯穴、1 区。
2	土師器 甕	A．口径 (21.0)、器高 28.3、底径 5.6。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ユビオサエ→ヨコナデ。胴～底部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ユビオサエ→ヘラナデ。D．長石・石英・赤色粒・白色粒。E．外面：にぶい赤褐色、内面：赤褐色。F．3/4。G．外面胴部黒斑。H．No23・25・40。

第3表 第26号住居跡出土遺物観察表（2）

3	土師器鉢	A．口径19.1、器高7.3、底径11.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．黒色粒・輝石・白色粒・石英。E．外・内面：明赤褐色。F．4/5。G．外面底部摩耗顕著。H．No3。
4	土師器鉢	A．口径17.6、器高8.3、底径12.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体～底部ヘラケズリ。内面：ヨコナデ。D．長石・黒色粒・輝石・石英。E．内外面：明赤褐色。F．完形。G．内面摩耗。H．No25。
5	土師器杯	A．口径14.2、器高5.4、底径8.9。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体～底部ヘラケズリ。内面：ユビオサエ→ヨコナデ→口縁部放射状・体部螺旋状暗文。D．石英・輝石・黒色粒・長石・凝灰岩。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．-。H．カマドNo36。I．e。
6	土師器杯	A．口径14.2、器高4.2、底径10.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体～底部ヘラケズリ。内面：ユビオサエ→ヨコナデ→口縁部放射状・体部螺旋状暗文。D．石英・輝石・黒色粒・長石・白色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．4/5。G．-。H．No38。I．e。
7	土師器杯	A．口径14.1、器高4.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・輝石・黒色粒・凝灰岩。E．外面：明赤褐色、内面：にぶい赤褐色。F．4/5。G．内面ヨゴレか。H．No19。I．e。
8	土師器杯	A．口径13.2、器高4.2、底径10.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体～底部ヘラケズリ。内面：ヨコナデ。D．石英・輝石・赤色粒・長石。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。外面底部焼成前線刻か。H．No20。I．e。
9	土師器杯	A．口径13.8、器高4.2、底径8.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・黒色粒。E．外・内面：橙色。F．完形。G．-。H．No13。I．e。
10	土師器杯	A．口径12.7、器高3.6、底径10.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・白色粒・輝石・長石。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。外面口縁部黒斑。内面ヨゴレ。H．No13。I．d。
11	土師器杯	A．口径12.4、器高3.1、底径9.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・白色粒・輝石・長石・雲母。E．外面：褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．内外面黒斑。H．No56。I．d。
12	土師器杯	A．口径(13.0)、器高3.3、底径9.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石・黒色粒・赤色粒・長石。E．外面：にぶい赤褐色、内面：赤褐色。F．1/2。G．焼成時の亀裂あり。外面黒斑。内面斑状に黒色付着物。H．No17。I．d。
13	土師器杯	A．口径11.7、器高3.4、底径8.7。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・白色粒・輝石。E．外面：明赤褐色、内面：にぶい褐色。F．完形。G．内外面黒斑・斑状の黒色付着物。H．No15。I．e。
14	土師器杯	A．口径11.9、器高3.1、底径9.1。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石・赤色粒・黒色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。内外面斑状の黒色付着物。H．No7。I．d。
15	土師器杯	A．口径12.2、器高3.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ→ナデ。D．石英・黒色粒・長石・輝石。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．4/5。G．内外面ヨゴレか。H．No31。I．d。
16	土師器杯	A．口径12.3、器高3.1、底径9.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・黒色粒・輝石・長石。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．内外面ヨゴレか。H．No32。I．d。
17	土師器杯	A．口径11.4、器高3.0、底径9.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ユビオサエ→ヨコナデ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ→放射状暗文。底部ナデ→螺旋状暗文。D．長石・石英・白色粒・輝石。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．内外面ヨゴレ。H．No18。I．d。
18	土師器杯	A．口径11.4、器高3.2、底径9.1。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、体部ユビオサエ→ナデ。D．石英・白色粒・黒色粒。E．外面：にぶい赤褐色、内面：明赤褐色。F．完形。G．外面口縁部黒斑。H．No2。I．d。
19	土師器杯	A．口径(16.0)、器高2.6、底径(14.0)。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。底部ユビオサエ→ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。底部ユビオサエ→ナデ。D．長石・石英・黒色粒・輝石。E．外・内面：明赤褐色。F．1/3。G．-。H．No16。I．f。
20	土師器杯	A．口径(8.2)、器高2.7、底径(6.4)。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。D．褐色粒・白色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．1/4。H．掘り方。I．e。
21	土師器杯	A．口径一、器高[1.6]、底径3.8。B．粘土紐積み上げか。C．外・内面：ナデ。D．白色粒。E．外面：明赤褐色、内面：にぶい黄橙色。F．底部完形。G．底部内面剥離顕著。H．2区、SI-28一括。I．-。
22	土師器杯	A．口径一、器高[1.1]、底径3.2。B．粘土紐積み上げか。C．外面：体部ナデ。底部未調整（木葉痕）。内面：ナデ。D．褐色粒・白色粒・石英（不透明）。E．外・内面：明赤褐色。F．底部完形。G．底部内面剥離顕著。H．2区。I．-。

第4表 第26号住居跡出土遺物観察表(3)

23	須恵器 坏	A. 口径14.0、器高3.3、底径8.3。B. ロクロ。C. 外面:口縁から体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り離し。内面:回転ナデ。D. 石英・長石・黒色粒。E. 外・内面:灰黄色。F. 2/3。G. 還元不良、内外面黒斑。H. 1区、2区、掘り方。
24	須恵器 坏	A. 口径(13.3)、器高3.6、底径(7.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面:口縁から体部回転ナデ→体部下位回転ケズリ。底部回転糸切り→縁辺部手持ちヘラケズリ。内面:回転ナデ。D. 長石・赤色粒・黒色粒・片岩。E. 外・内面:灰黄色。F. 1/3。G. 還元やや不良。H. No51。
25	須恵器 高台付埴	A. 口径(12.4)、器高5.0、底径6.8。B. ロクロ。C. 外面:口縁～体部回転ナデ。底部回転糸切→高台貼付・回転ナデ。内面:回転ナデ。D. 白色粒・黒色粒・石英。E. 外面:灰色、内面:褐灰色。F. 1/2。G. 還元焰焼成。H. 2区、SI-28一括。
26	須恵器 蓋	A. 口径15.1、器高3.6、つまみ径3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面:回転ナデ→天井部回転ケズリ→つまみ貼付・回転ナデ。内面:回転ナデ。D. 長石・赤色粒・黒色粒。輝石。E. 外面:にぶい橙色、内面:にぶい黄橙色。F. 4/5。G. 還元不良。H. No52。
27	須恵器 蓋	A. 口径13.6、器高3.2、つまみ径2.7。B. ロクロ。C. 外面:口縁部回転ナデ。天井部回転ヘラケズリ→つまみ貼付・回転ナデ。内面:回転ナデ。D. 長石・石英・黒色粒。E. 外面:灰黄褐色、内面:灰色。F. 4/5。G. 還元不良。内外面黒斑。H. No24。
28	土製紡錘車	A. 上面径6.0、下面径5.4、高さ1.6、重さ69.93。C. 上下面・側面:ナデ→ミガキ。D. 白色粒。E. 外面:明赤褐色。F. 完形。H. 3区上層。
29	土製紡錘車	A. 上面径(5.0)、下面径(4.6)、高さ2.0、重さ21.41。C. 上面:ナデ。下面:ナデ→ミガキ。側面:ケズリ→ミガキ。D. 白色粒。E. 外面:明赤褐色。F. 1/3。H. 1区。
30	石製紡錘車	A. 上面径4.1、下面径3.2、高さ2.6、重さ54.88。C. 上・下・側面:研磨。D. 凝灰岩。E. 黄灰色。F. ほぼ完形。G. 外面煤付着。H. No26。
31	置砥石	A. 長さ[12.5]、幅10.5、厚さ7.8、重さ[631.81]。D. 安山岩製。F. 完形。G. 一面良く研磨される。H. 貯穴。
32	磨石か	A. 長さ20.7、幅5.2、厚さ4.2、重さ838.02。D. 不明。F. 完形。G. 全面摩耗。一側面良く研磨される。背面・上面・下面に敲打痕→摩耗。H. カマドNo13。
33	鉄製品 金具?	A. 長さ[7.5]、幅6.3、厚さ0.7、重さ31.88。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 破片。H. No28。
34	鉄製品 釘	A. 長さ8.7、幅0.8、厚さ0.5、重さ10.93。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 完形。G. 先端は捻じれて曲がっている。H. 3区。
35	鉄製品 釘	A. 長さ[9.0]、幅0.75、厚さ0.6、重さ11.62。B. 鍛造。D. 鉄製。F. ほぼ完形。G. 先端欠損。H. 1区。
36	鉄製品 刀子	A. 長さ15.0、幅1.3、厚さ0.3、重さ11.37。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 完形。H. No29。
37	鉄製品 摘鎌	A. 長さ[4.7]、幅1.5、厚さ0.2、重さ3.78。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 破片。G. 端に円孔を伴う。H. カマド。

第27号住居跡(第16図、図版2)

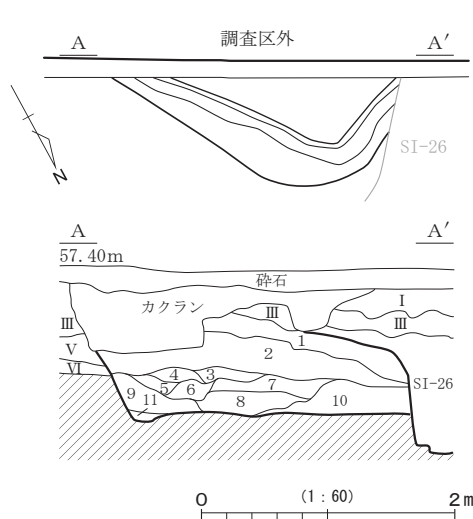
調査区中央南側、X =27665、Y =-59030・-59035に位置する。第26号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。また、大半が調査区外に範囲がおよぶ。規模は北東-南西が1.32 m以上、北西-南東が2.22 m以上を測る。

壁は急な角度をもって立ち上がり、確認面から床面までの深さは0.43 mである。壁溝は検出された範囲においては全周していた。床面はやや凹凸が認められた。柱穴・貯蔵穴・カマドなどは調査範囲においては確認されなかった。

遺物は、土師器甕・壺・高坏・埴が覆土下層から少量出土したのみである。掲載遺物はない。

出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期については不明な点が多いが、遺構の重複関係や出土遺物の様相から古墳時代中期(5世紀後半)と考えられる。なお、覆土中には焼土が多量に含まれることから焼失住居の可能性も想定される。

第Ⅲ章 検出された遺構と遺物



第 16 図 第 27 号住居跡遺構図

第 28 号住居跡 (第 17 図、第 5・6 表、図版 2・10)

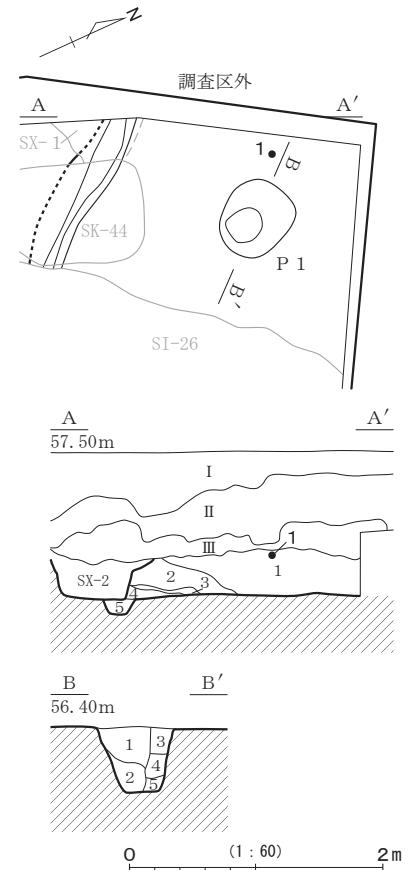
調査区中央南側、X =27670・27675、Y =-59035 に位置する。第 26 号住居跡、第 44 号土坑、第 1 号不明遺構と重複し、切り合い関係から本遺構が最も古い。また、北西および北東側は調査区外に範囲がおよぶ。

規模は南北が 2.43 m 以上、東西が 2.14 m 以上を測る。

壁は急な角度で立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.44 m である。壁溝は南西壁に沿って検出されている。ローム面を床面としており部分的に締まりが認められた。ピットは、P 1 の 1 基が検出されている。P 1 は 0.62 m × 0.53 m、深さ 0.56 m を測る。主柱穴の一つであった可能性も考慮される。

カマドは調査した範囲においては検出されなかった。

遺物は、土師器甕・小型甕・坏・高坏、須恵器蓋、土製品が住



第 5 表 第 28 号住居跡土器類出土量 (g)

土師器		須恵器		
坏類	甕類	坏	蓋	壺・甕
1,510	2,610	4	2	13

- A-A'
- 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~2mm) 多量、ロームブロック (6~30mm)・灰白色粒 (1~2mm) 微量。
 - 2 黒褐色土 しまり強く粘性ある。ローム粒 (1~2mm)・灰白色粒 (1~2mm) 少量。
 - 3 黒褐色土 しまりあり粘性ある。灰白色粘質土ブロック (6~10mm) 少量、ローム粒 (1~5mm) 微量。
 - 4 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量、ロームブロック (6~10mm) 微量。
 - 5 黒褐色土 しまり強く粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 少量。
- B-B' (P 1)
- 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量。
 - 2 明黄褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 多量。
 - 3 明黄褐色土 しまりあり粘性強い。礫 (10~100mm) 多量。
 - 4 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 少量。
 - 5 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 微量。

第 17 図 第 28 号住居跡遺構図

居内に散在して少量出土している。出土した遺物のうち2点について写真および観察表を掲載する。

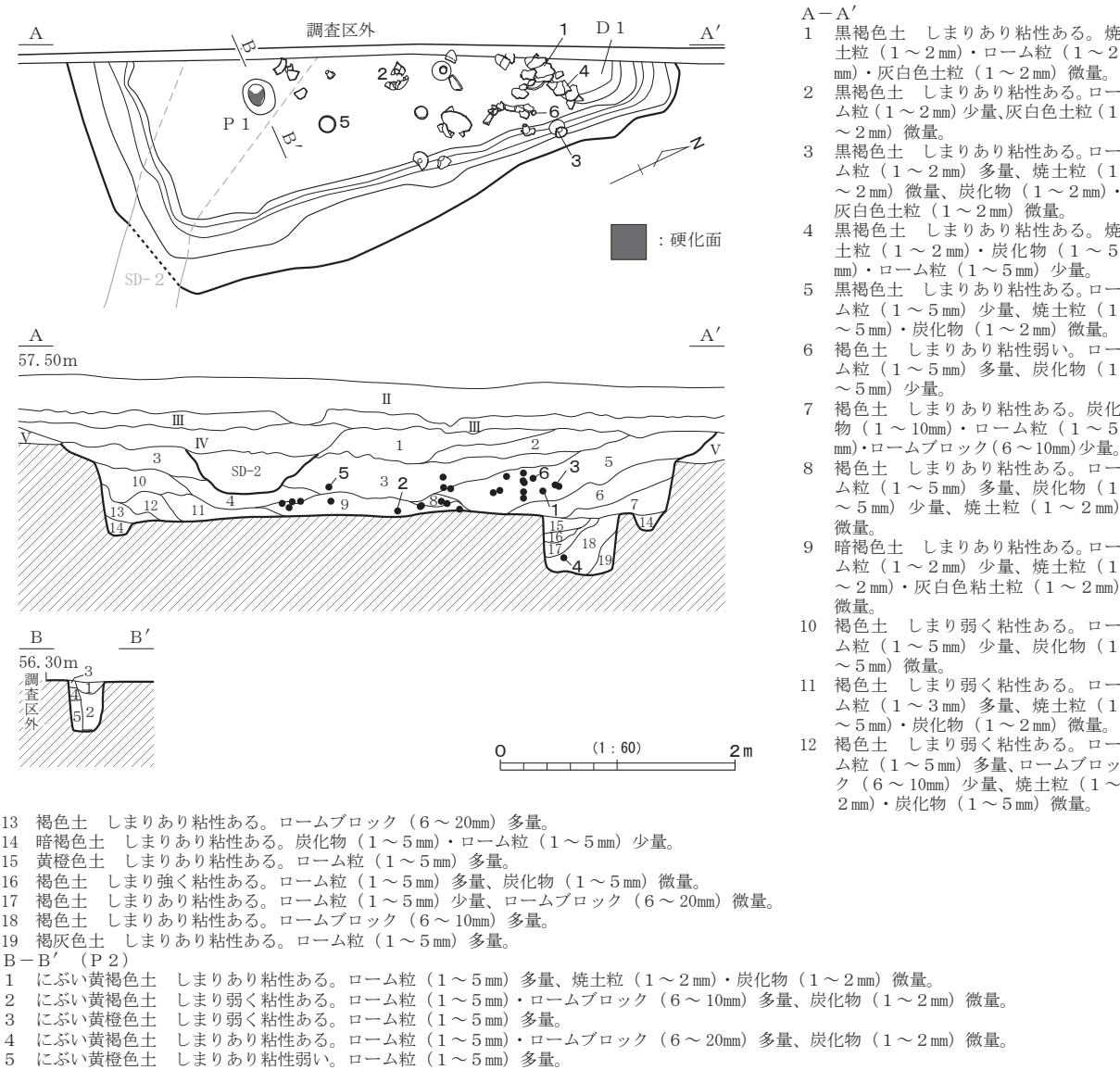
本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から飛鳥時代～奈良時代（7世紀後半～8世紀前半）と考えられる。

第6表 第28号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 杯	A. 口径(13.2)、器高3.1、底径-。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面:口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエーナデ。内面:口縁部ヨコナデ。底部ユビオサエーナデ。D. 白色粒。E. 外・内面:にぶい赤褐色。F. 1/3。G. 内面黒色付着物。H. No1。
2	棒状 土製品	A. 長さ[4.7]、幅1.3、厚さ1.1、重さ5.34。C. 手捏ね。D. 白色粒。E. 外面:黄褐色。F. -。H. 一括。

第29号住居跡（第18・19図、第7表、図版2・10）

調査区南東側、X =27670・27675、Y =-59020 に位置する。第2号溝跡と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。北西部1/2ほどが調査区外に範囲がおよぶ。



第18図 第29号住居跡遺構図

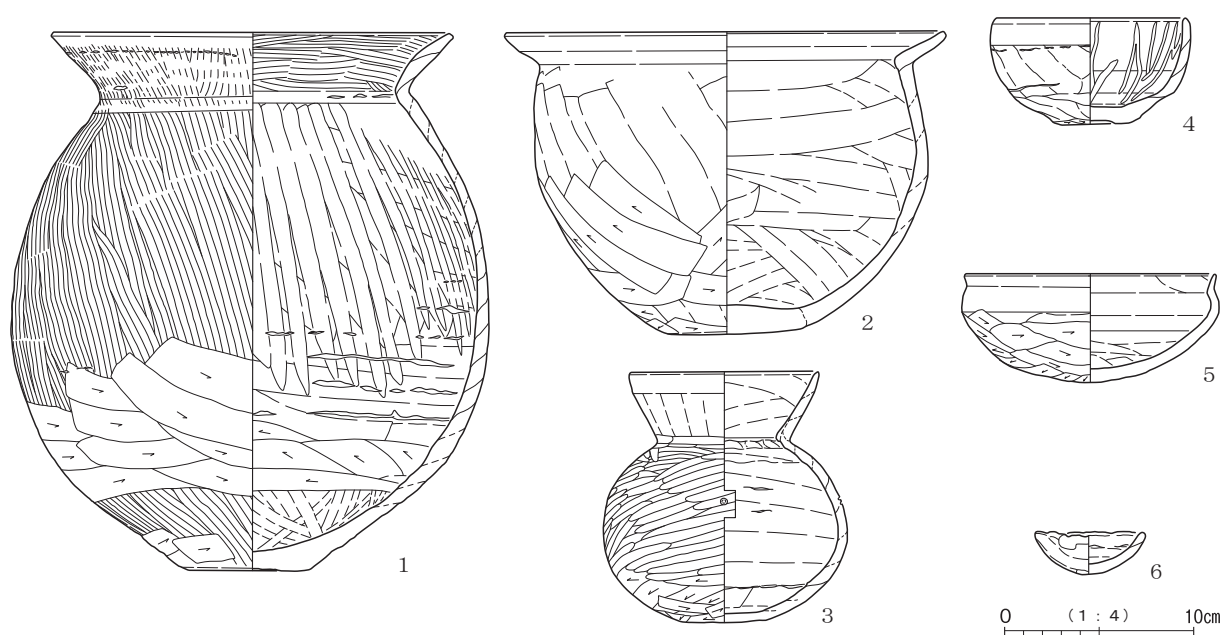
第Ⅲ章 検出された遺構と遺物

規模は北東－南西が 4.90 m、北西－南東が 2.30 m 以上を測る。

壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.65 m である。壁溝は検出した範囲においては全周していた。ローム面を床面としており部分的に締まりが認められた。ピットは 1 基 (P 1) 検出されており、位置関係を考慮すると支柱穴であった可能性が想定される。また、貯蔵穴と考えられる土坑 (D 1) が 1 基検出された。規模は D 1 が 0.63 m 以上× 0.42 m 以上・深さ 0.54 m、P 1 が 0.31 m× 0.26 m、深さ 0.48 m である。底面には柱の荷重により生じたと考えられる硬化面が検出された。カマドは調査範囲においては検出されなかった。

遺物は、土師器甕・小型甕・甑・鉢・坏・高坏・埴、土製品が床面付近及び住居覆土中から大量に出土した。特に貯蔵穴とその周辺では完形の土器がまとまって出土している。

本住居跡の帰属時期は、出土遺物の様相から古墳時代中期 (5 世紀後半) と考えられる。



第 19 図 第 29 号住居跡出土遺物

第 7 表 第 29 号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 甕	A. 口径 (20.9)、器高 28.4、底径 6.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ハケ→ヨコナデ。胴部ハケ→中位ケズリ。底部ケズリ→外周ナデ。内面：口縁部ハケ。胴部ヘラナデ、中位ケズリ。底部ヘラナデ。D. 白色粒・石英 (不透明)・輝石・小石。E. 外面：にぶい黄褐色、内面：にぶい褐色。F. 2/3。G. 口縁部～胴部外面粘土・煤付着。H. No2・3。
2	土師器 大形鉢	A. 口径 (23.0)、器高 16.0、底径 7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→下半ケズリ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。D. 白色粒・石英 (不透明)・輝石・チャート・小石。E. 外面：にぶい褐色、内面：灰黄褐色。F. 2/3。G. 外面煤付着。外面被熱により一部赤色化。内面汚れ。H. No18。
3	土師器 壺	A. 口径 (9.8)、器高 13.2、底径 4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ→ミガキ。胴部ケズリ→上半ミガキ。底部ケズリ。内面：口縁部ナデ。胴部ナデ。底部ヘラナデ。D. 褐色粒・白色粒・石英 (不透明)・輝石・海綿骨針。E. 外・内面：明赤褐色。F. 口縁部 1/2、胴部完形。G. 胴部外面中位に未穿孔痕。外面吹きこぼれ痕。胴部外面黒斑。口縁部内面ヨゴレ顕著。H. No4。
4	土師器 坏	A. 口径 10.0、器高 5.6、底径 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ナデ→外周ケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ→雑な放射状の暗文。底部ナデ。D. 褐色粒・白色粒・石英 (透明)。E. 外面：にぶい赤褐色、内面：暗赤褐色。F. ほぼ完形。H. No28。
5	土師器 坏	A. 口径 13.2、器高 5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部上半ヨコナデ、下半ヘラナデ。D. 褐色粒・白色粒・石英 (不透明)・片岩・輝石・角閃石。E. 外面：赤褐色、内面：暗赤褐色。F. ほぼ完形。H. No19。
6	ミニチュア 土器	A. 口径 4.2、器高 1.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外・内面：ナデ。D. 褐色粒・白色粒・石英 (透明)。E. 外面：にぶい褐色、内面：暗赤褐色。F. ほぼ完形。H. No6。

第 30 号住居跡（第 20・21 図、第 8・9 表、図版 3・10）

調査区南東側中央、X =27675・27680、Y =-59015 に位置する。第 49 号土坑、P-248・251・252 と重複し、切り合い関係から本遺構が最も古い。南東側は調査区外に範囲がおよぶ。

規模は北西-南東が 1.95 m 以上、北東-南西が 1.82 m を測る。

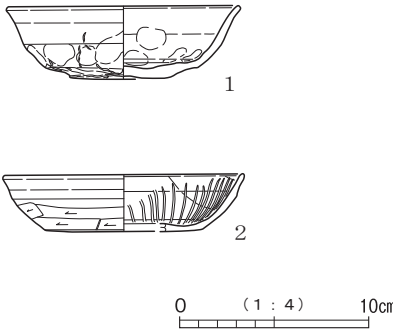
壁は、急な角度で立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.22 m である。壁溝は、検出されなかった。ローム面を床面としており、部分的に締まりが認められた。

主柱穴・貯蔵穴・カマドといった住居跡に伴う施設は検出されなかった。

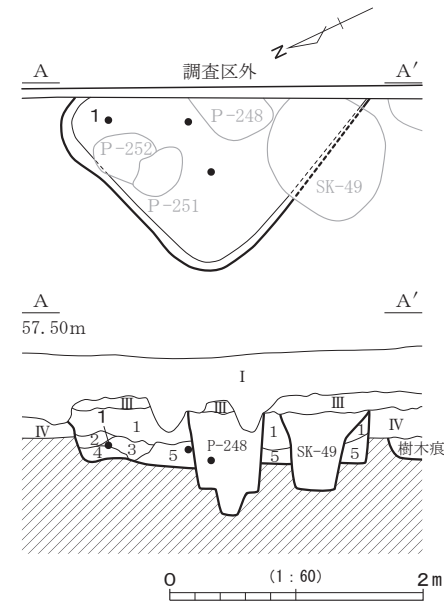
遺物は土師器坏・甕、土製品が住居内から散在して少量出土した。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から平安時代（9 世紀代）と考えられる。

土師器		須恵器		
坏類	甕類	坏	蓋	壺・甕
1,510	2,610	4	2	13



第 20 図 第 30 号住居跡出土遺物



第 21 図 第 30 号住居跡遺構図

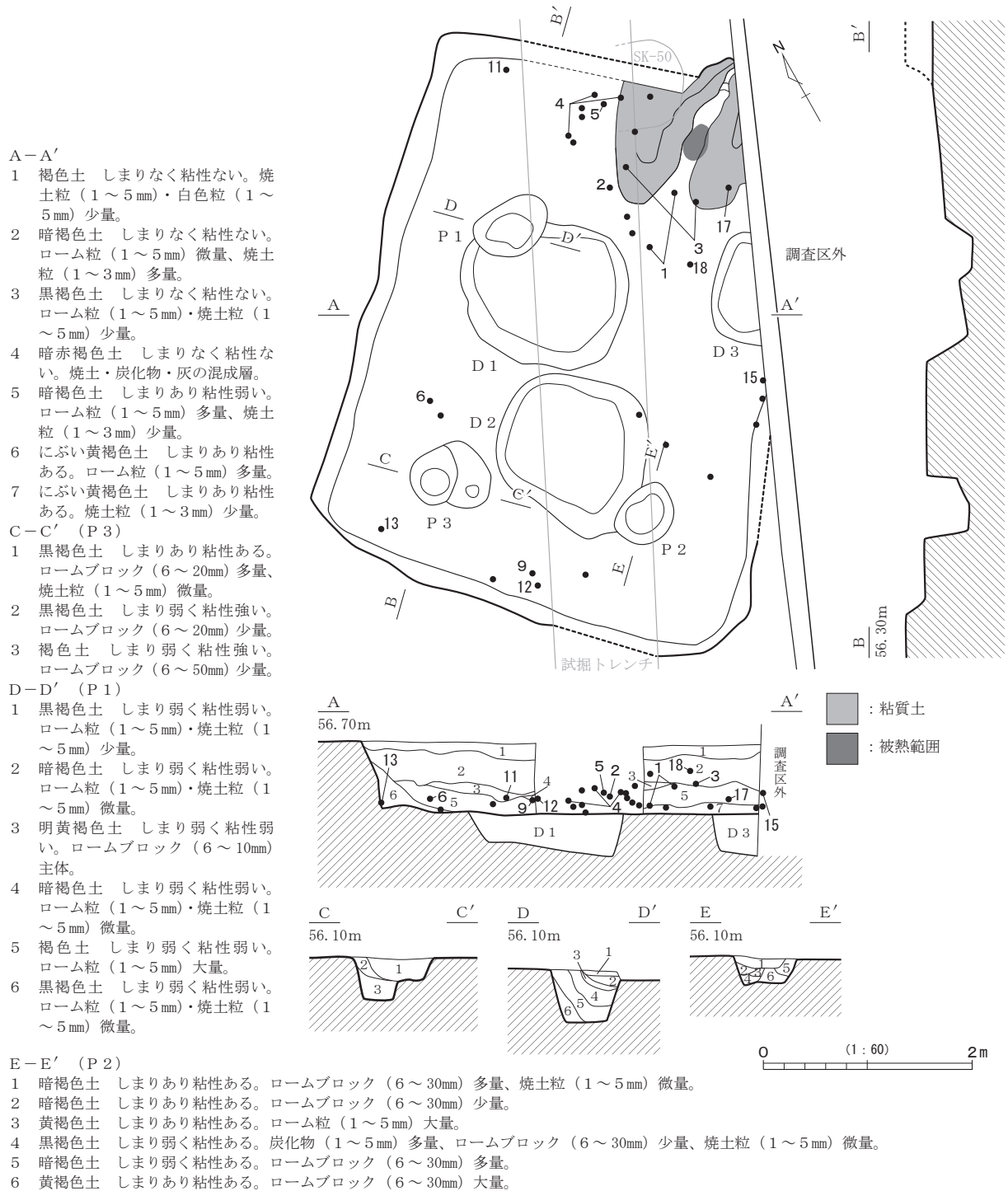
第 9 表 第 30 号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A．口径 12.1、器高 3.9、底径 5.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ナデ。底部ナデ→外周ケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。D．白色粒。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．2/3。H．No4。
2	土師器 坏	A．口径 (12.6)、器高 3.0、底径 (8.4)。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→ケズリ。底部ケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ→放射状暗文。底部ナデ。D．白色粒・石英（不透明）。E．外・内面：明赤褐色。F．1/3。H．覆土。

第31号住居跡（第22～24図、第10～12表、図版3・11）

調査区東側、X =27690・27695、Y =-59005・59010 に位置する。第32号住居跡、第50・66・67号土坑と重複する。切り合い関係から第50号土坑より古く他より新しい。南東部およびカマドの一部は調査区外に範囲がおよぶ。

平面形は隅丸長方形を呈していたと想定される。規模は北東―南西が5.45 m、北西―南東が4.20 mを測る。住居跡の長軸方位はN-43°-Eを示す。



第22図 第31号住居跡遺構図（1）

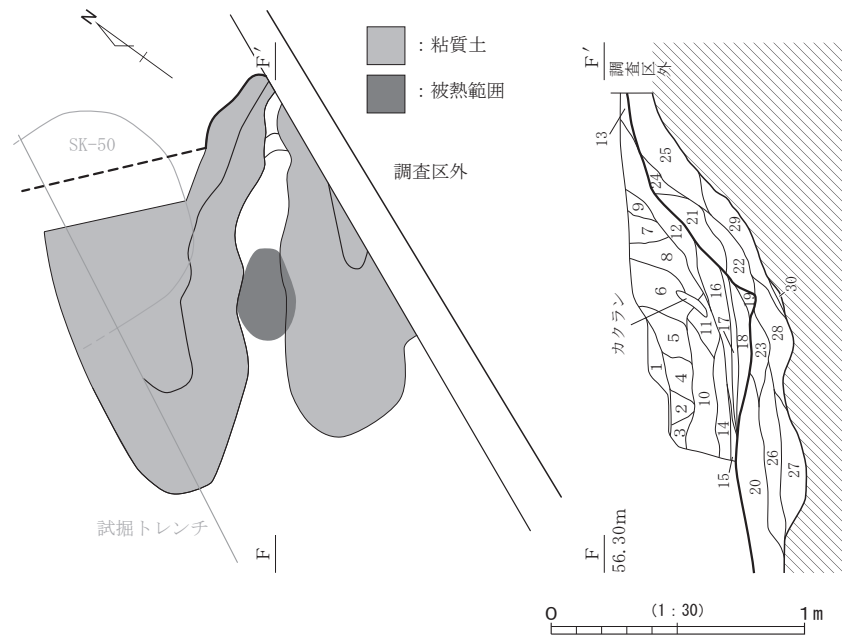
壁は急な角度をもって立ち上がる。確認面から床面までの深さは68cmである。壁溝は、検出されなかった。床面はやや凹凸が認められた。全面で貼り床が検出されている。主柱穴と考えられるピットが3基（P 1～3）検出されている。それぞれの規模はP 1が0.75 m×0.52 m、深さ0.30 m、P 2が0.63 m×0.50 m、深さ0.27 m、P 3が0.80 m×0.62 m、深さ0.36 mである。その他、3基の土坑（D 1～3）が検出された。これらは、いずれも貼り床下からの検出であったことから床下土坑と考えられる。規模はD 1が1.68 m×1.38 m、深さ0.42 m、D 2が1.50 m×1.44 m、深さ0.30 m、D 3が1.02 m×0.60 m以上、深さ0.42 mである。

カマドは北東壁やや東寄りに付設されている。規模は、残存長1.65 m、燃烧室幅0.24 mを測る。燃烧室内には火床面と考えられる被熱痕が0.36 m×0.24 mの範囲で検出された。

遺物は、土師器甕・甑・壺・

第 10 表 第 30 号住居跡土器類出土量（g）

土師器		須恵器	
坏類	甕類	坏	蓋 壺・甕
13,386	20,396	71	— 278



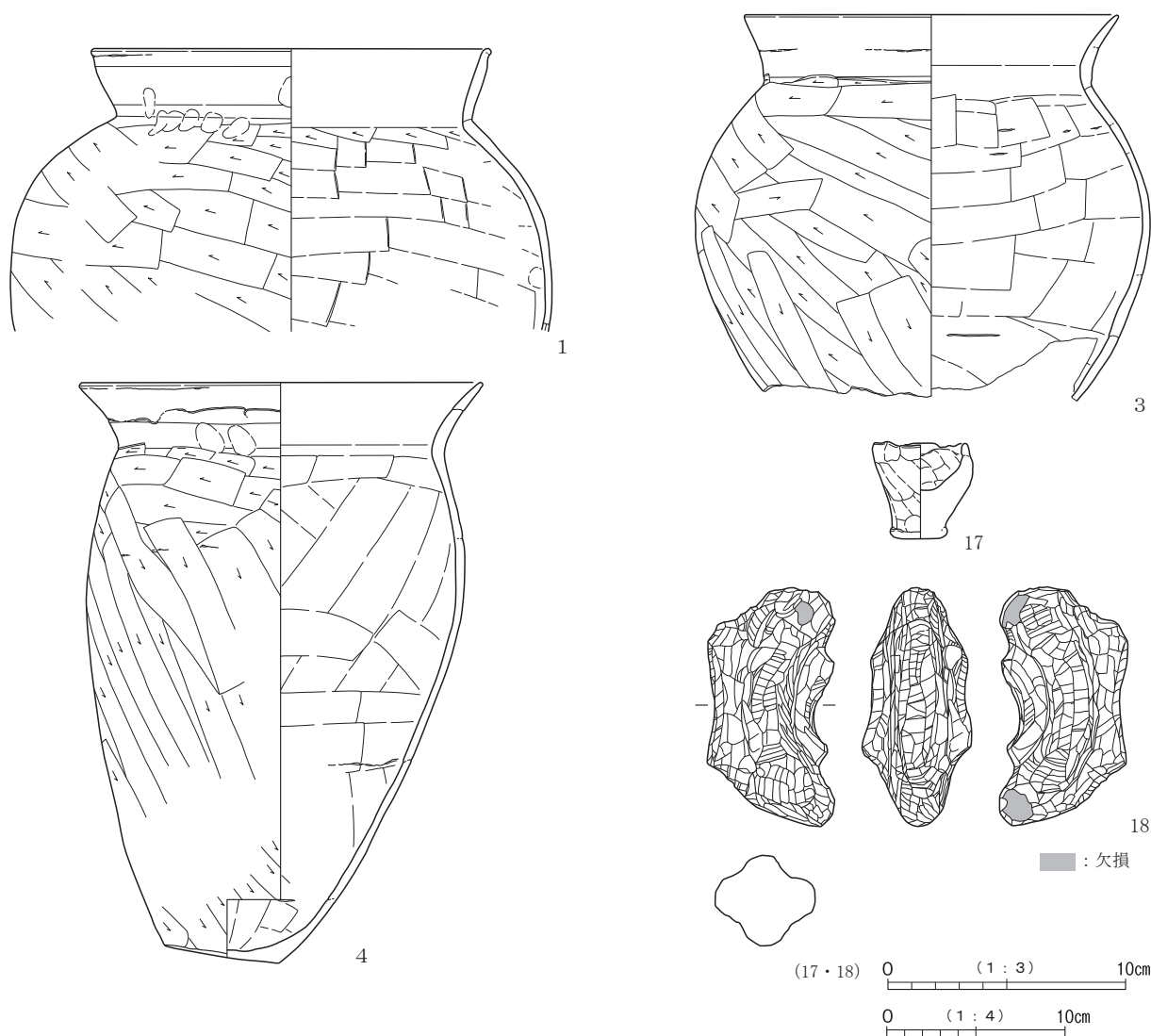
F—F'（カマド）

- 1 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。にぶい黄橙色粘土粒（1～3mm）多量、ローム粒・焼土粒・炭化粒（1～5mm）微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり粘性ある。にぶい黄橙色粘土粒（1～3mm）多量、焼土粒・ローム粒（1～5mm）微量。
- 3 灰黄褐色土 しまり強く粘性ある。粘土層。にぶい黄橙色粘土ブロック（6～30mm）多量。
- 4 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性強い。粘土層。にぶい黄褐色粘土ブロック多量、焼土ブロック（6～30mm）少量、ローム粒（1～3mm）微量。
- 5 暗褐色土 しまりあり粘性ある。にぶい黄褐色粘土ブロック（6～30mm）多量。
- 6 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性強い。粘土層。にぶい黄褐色粘土ブロック（20～30mm）多量、焼土粒・炭化物（1～3mm）微量。
- 7 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性強い。粘土層。にぶい黄褐色粘土ブロック主体。焼土粒（1～3mm）微量。
- 8 灰黄褐色土 しまりあり粘性ある。粘土層。にぶい黄褐色粘土粒（1～5mm）・焼土粒（1～3mm）多量。
- 9 橙色土 しまり強く粘性なし。焼土ブロック主体。
- 10 黒褐色土 しまりあり粘性ある。焼土粒・にぶい黄褐色粘土粒・炭化物粒（1～5mm）微量。
- 11 褐灰色土 しまりあり粘性ある。焼土ブロック（10～30mm）多量。
- 12 褐灰色土 しまりあり粘性ある。焼土ブロック（6～30mm）少量。
- 13 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。焼土粒（5mm未満）少量。
- 14 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性弱い。焼土ブロック（6～30mm）・にぶい黄褐色粘土粒（1～5mm）多量。
- 15 黒褐色土 しまりあり粘性弱い。焼土ブロック（6～30mm）多量。
- 16 黒褐色土 しまりあり粘性弱い。焼土ブロック（6～30mm）多量。
- 17 橙色土 しまり弱く粘性弱い。焼土ブロック（6～30mm）多量。
- 18 褐灰色土 しまり弱く粘性弱い。灰を含む部分が疎らに確認できる。焼土ブロック（6～30mm）・炭化物（1～3mm）少量。
- 19 褐灰色土 しまりなく粘性なし。灰層。
- 20 灰黄褐色土 しまりあり粘性ある。粘土ブロックを主体とし、焼土粒（5mm未満）少量。
- 21 暗褐色土 しまり弱く粘性ある。粘土ブロック・焼土粒多量。
- 22 灰黄褐色土 粘土ブロックを主体とし、焼土粒（5mm未満）少量。
- 23 灰黄褐色土 しまりあり粘性ある。粘土ブロックを主体とし、焼土粒（5mm未満）少量。
- 24 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性ある。粘土ブロックを主体とし、焼土粒（5mm未満）少量。
- 25 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒（1～3mm）少量、焼土粒（1～3mm）微量。
- 26 暗褐色土 しまり強く粘性ある。粘土粒・焼土粒（5mm未満）少量。
- 27 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性ある。粘土主体の層。焼土粒（5mm未満）少量。
- 28 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性ある。粘土主体の層。
- 29 暗褐色土 しまり強く粘性ある。ローム粒（5mm未満）微量。
- 30 黒褐色土 しまりあり粘性ある。

第 23 図 第 31 号住居跡遺構図（2）

坏、須恵器甕・蓋・坏、土製品、石製品が出土した。遺物はカマド周辺に集中する状況が認められた。子持勾玉未製品 (18) はカマド手前の覆土中から、手捏ね土器 (17) はカマド右袖内からの出土である。また、多量に出土した土師器坏 (6～16) は覆土中からの出土であった。出土した遺物のうち 18 点を選出し、そのうち 13 点は写真・観察表のみの掲載とした。出土した土師器坏は、a－1 類が 1 点、a－2 類が 1 点、a－3 類が 2 点、b 類が 1 点、d 類が 4 点、f 類が 1 点である。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、奈良時代 (8 世紀後半) と考えられる。



第 24 図 第 31 号住居跡出土遺物

第 11 表 第 31 号住居跡出土遺物観察表 (1)

1	土師器 壺か	A. 口径 22.1、器高 [15.8]、底部－。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁から頸部ユビオサエ→口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ→上位ケズリ。D. 長石・石英・輝石・赤色粒・黒色粒。E. 外・内面：にぶい赤褐色。F. 口～胴上半 4/5。G. 内面胴部中位に小円形状の剥落。H. No15～18、カマド、一括。
2	土師器 壺か	A. 口径 23.5、器高 [15.5]。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部木口状工具によるナデ。D. 長石・石英・白色粒・輝石。E. 外面：橙色、内面：にぶい褐色。F. 口～胴上位 4/5。G. 内外面黒斑。H. No19、カマド、一括。

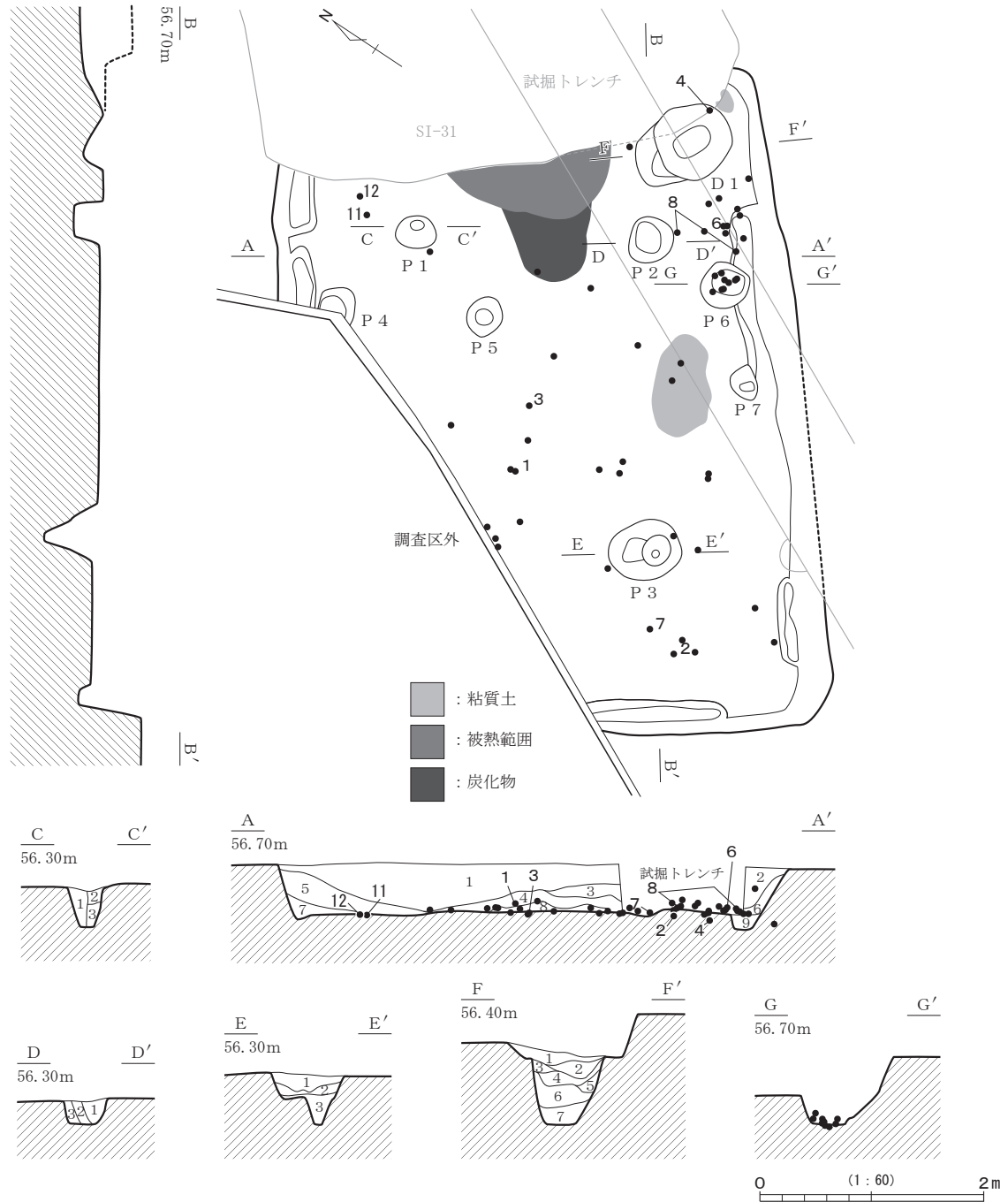
第 12 表 第 31 号住居跡出土遺物観察表（2）

3	土師器 甕	A．口径 20.8、器高 [21.6]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。D．長石・黒色粒・石英・輝石。E．外面：にぶい褐色、内面：褐色。F．1/2（口～胴中位のみ完形）。G．内面口縁・外面黒斑。外面煤。内面胴部ヨゴレ。H．No14・20、カマド、一括。
4	土師器 甕	A．口径 22.3、器高 32.6、底径 6.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ユビオサエ→ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。D．長石・石英・輝石・白色粒。E．外面：明赤褐色、内面：にぶい赤褐色。F．3/4。G．内外面胴部下～底部黒斑。H．No21・24～27、カマド。
5	土師器 甕	A．口径 23.2、器高 [21.7]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ユビオサエ→ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。D．長石・石英・黒色粒・輝石・赤色粒・白色粒。外面：明赤褐色、内面：赤褐色。F．口～胴上半 4/5。G．外面黒斑、胴部一部粘土付着。H．No22・23・25・26、カマド、一括。
6	土師器 坏	A．口径 17.2、器高 5.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・輝石・赤色粒・白色粒。E．外面：橙色、内面：明赤褐色。F．4/5。G．焼成時の亀裂あり。外面体部黒斑・円形状の剥落。内面斑状に黒色付着物。H．No7、一括。I．a～3。
7	土師器 坏	A．口径 18.2、器高 [5.0]。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．凝灰岩・白色粒・石英。E．外面：にぶい黄褐色、内面：にぶい褐色。F．3/4。G．内外面黒色付着物。外面黒斑。H．一括。I．a～3。
8	土師器 坏	A．口径 (17.0)、器高 3.4、底径 (15.4)。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・輝石・白色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：灰黄褐色。F．1/3。G．内外面黒色付着物。H．一括。I．f。
9	土師器 坏	A．口径 15.4、器高 3.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・白色粒・輝石。E．外・内面：にぶい褐色。F．1/2。G．内外面黒斑。H．No4・一括・SI32 一括。I．b。
10	土師器 坏	A．口径 13.1、器高 3.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・黒色粒・白色粒・輝石。E．外面：褐色、内面：にぶい黄褐色。F．4/5。G．内外面黒斑・斑状に黒色付着物。外面円形状の剥落。H．SI31 D1。I．d。
11	土師器 坏	A．口径 13.1、器高 3.3。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・輝石・黒色粒・白色粒・石英。E．外面：にぶい赤褐色、内面：極暗赤褐色。F．4/5。G．焼成時の亀裂あり。内外面斑状の黒色付着物。H．No28。I．d。
12	土師器 坏	A．口径 13.1、器高 3.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．輝石・石英・長石・白色粒。E．外面：暗赤褐色、内面：暗褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。内外面斑状の黒色付着物。H．No3。I．d。
13	土師器 坏	A．口径 12.6、器高 3.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・黒色粒・輝石・白色粒・石英。E．外面：にぶい赤褐色、内面：褐色。F．4/5。G．内外面斑状の黒色付着物・黒斑。H．No6。I．d。
14	土師器 坏	A．口径 12.1、器高 3.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石・長石・凝灰岩。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．3/4。G．内外面斑状の黒色付着物。H．No32。I．a～2。
15	土師器 坏	A．口径 10.9、器高 3.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・黒色粒・輝石・白色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．3/4。G．-。H．No13 一括。I．a～1。
16	土師器 坏	A．口径 6.3、器高 3.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．白色粒・輝石・長石。E．外・内面：にぶい黄褐色。F．完形。G．内面黒色付着物。H．一括。I．-。
17	手握土器	A．口径 3.8、器高 4.1、底径 2.45。B．手捏ね。C．外面：ユビナデ。底部ナデ。内面：ユビナデ。D．石英・長石・輝石。E．外面：にぶい褐色、内面：褐色。F．完形。G．-。H．No32。
18	子持勾玉	A．長さ 10.0、最大幅 5.3、最大厚 4.6、重さ 221.01。B．ケズリ出し。C．鑿による荒いケズリ。D．蛇紋岩。F．完形。G．未成品。H．No1。

第 32 号住居跡（第 25・26 図、第 13 表、図版 3・12）

調査区北東部、X =27685～27695、Y =-59010・-59015 に位置する。第 31 号住居跡、P -249 と重複し、切り合い関係から本遺構が最も古い。北東側は重複する第 31 号住居跡により削平されており、西側は調査区外に範囲がおよぶ。

平面形は隅丸長方形を呈していたと想定される。規模は北東－南西が 5.95 m、北西－南東が 4.60 mを測る。長軸方位はN－50°－Eを示す。


$$A - A'$$

- 1 褐色土 しまりなく粘性ない。ローム粒 (1~5mm) 多量、ロームブロック (6~30mm) 微量、焼土粒 (1~5mm) 少量。
 - 2 暗褐色土 しまりあり粘性ない。ローム粒 (1~5mm) 多量、ロームブロック (6~30mm) 微量、焼土粒 (1~5mm) 少量。
 - 3 暗褐色土 しまりなく粘性ない。ロームブロック (6~30mm) 少量、黒褐色土ブロック (6~30mm) 微量。
 - 4 黒褐色土 しまりあり粘性強い。ロームブロック (6~20mm)・黒褐色土ブロック (6~30mm) 多量、焼土粒 (1~5mm) 微量。
 - 5 暗褐色土 しまりあり粘性ない。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~30mm)・黒褐色土ブロック (6~30mm) 多量、焼土粒 (1~5mm) 微量。
 - 6 褐色土 しまりあり粘性ない。ロームブロック (6~20mm) 多量。
 - 7 明黄褐色土 しまりあり粘性ない。ロームブロック (1~50mm) 主体。
 - 8 黒褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~20mm)・炭化物 (1~5mm) 微量、焼土粒 (1~5mm) 多量。
 - 9 暗褐色土 しまりあり粘性ない。ロームブロック (6~30mm) 少量。
- C-C' (P1)
- 1 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒 (1~5mm) 微量。
 - 2 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量。
 - 3 にぶい黄橙色土 しまり強く粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 大量。

第 25 図 第 32 号住居跡遺構図

D-D' (P 2)

- 1 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ロームブロック (6～50mm) 微量。
- 2 にぶい黄褐色土 しまり弱く粘性弱い。ロームブロック (6～20mm) 少量。
- 3 褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6～20mm) 大量。

E-E' (P 3)

- 1 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒 (1～5mm) 少量。
- 2 褐色土 しまり弱く粘性弱い。暗褐色土ブロック (6～10mm) 少量。
- 3 にぶい黄褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒 (1～5mm) 多量。

F-F' (D 1)

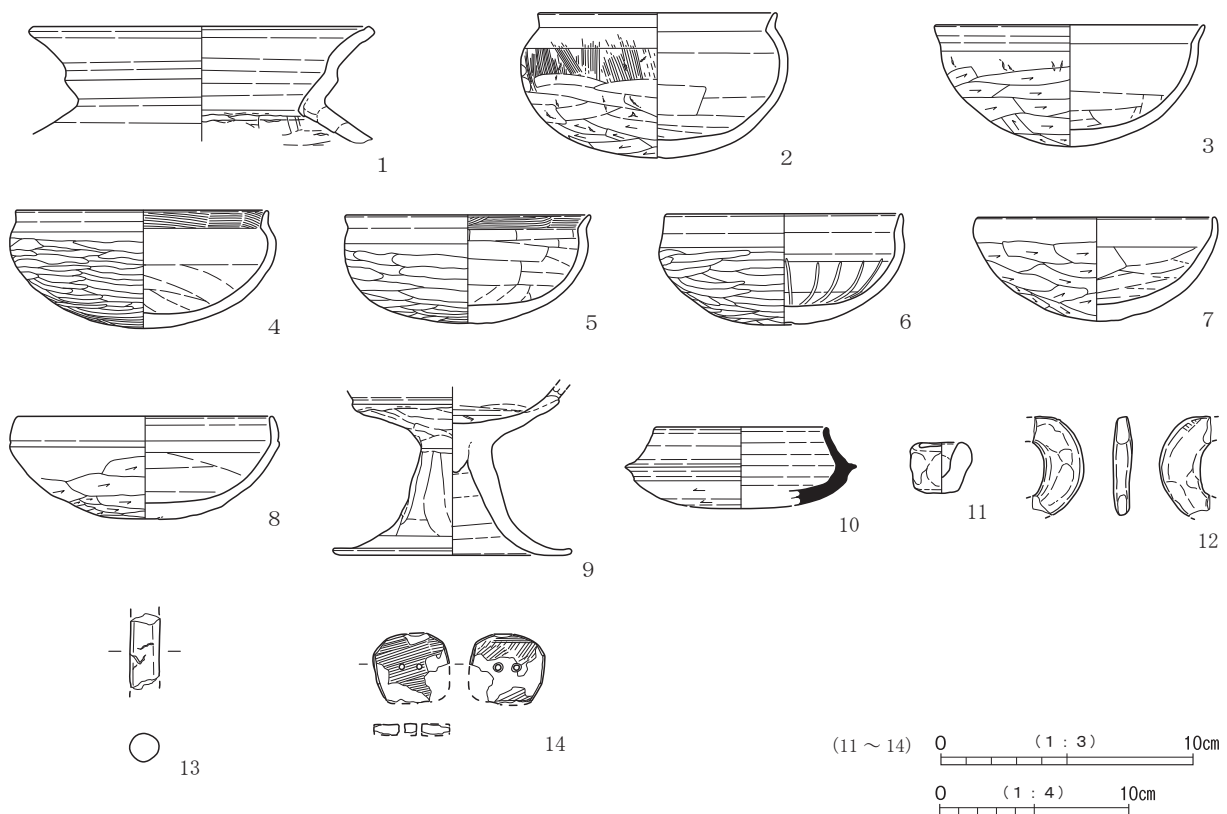
- 1 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。炭化物少量、ローム粒 (1～5mm)・焼土粒 (1～5mm) 微量。
- 2 褐色土 しまり弱く粘性弱い。焼土粒 (1～5mm) 微量。
- 3 にぶい黄褐色土 しまり弱く粘性ある。焼土粒 (1～5mm) 少量。
- 4 にぶい黄褐色土 しまり弱く粘性ある。焼土粒 (1～5mm) 微量。
- 5 黄褐色土 しまり強く粘性ある。ロームブロック (50mm) 少量。
- 6 暗褐色土 しまり強く粘性ある。ロームブロック (6～10mm) 多量。
- 7 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1～5mm) 少量。

壁は急な角度をもって立ち上がる。確認面から床面までの深さは0.42 mである。壁溝は断続的に検出された。床面はやや凹凸が認められた。ピットは7基 (P 1～7) 検出されており、位置関係を考慮するとP 1～3は主柱穴と考えられる。規模はP 1が0.36 m×0.30 m、深さ0.28 m、P 2が0.40 m×0.40 m、深さ0.19 m、P 3が0.65 m×0.54 m、深さ0.45 m、P 4が0.32 m×0.24 m以上、深さ0.11 m、P 5が0.35 m×0.32 m、深さ0.13 m、P 6が0.48 m×0.42 m、深さ0.27 m、P 7が0.30 m×0.22 m、深さ0.12 mである。また、東側のコーナー部には貯蔵穴と考えられる土坑 (D 1) が検出された。規模は0.90 m×0.70 m・深さ0.72 mである。

カマドは北東壁中央に付設されていたと想定される。その箇所では被熱痕と炭化物が集中する状況が認められた。カマド自体は第31号住居跡により削平されたものと考えられる。

遺物は、土師器甕・小型甕・大型甕・壺・埴・坏・高坏・埴、須恵器坏身・甕、土製品、石製品が出土した。遺物は住居内の床面付近から出土した。特にD 1、P 6周辺に集中する状況が看取された。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から古墳時代中期 (5世紀後半) と考えられる。



第26図 第32号住居跡出土遺物

第 13 表 第 32 号住居跡出土遺物観察表

1	土師器壺	A．口径 (17.7)、器高 [6.0]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部上端シボリ→ヘラナデ。D．白色粒・石英・輝石。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．口縁部 2/3。G．胴部外面黒斑あり。H．No20、一括、SI31 一括。
2	土師器坏	A．口径 12.6、器高 7.7。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ハケ→ナデ→下半ケズリ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部→底部ナデ。D．石英・白色粒・黒色粒。E．外面：明赤褐色、内面：にぶい赤褐色。F．ほぼ完形。G．口唇部の一部に黒色付着物。H．No4。
3	土師器坏	A．口径 14.2、器高 6.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。D．長石・赤色粒。石英・黒色粒・輝石。E．外面：明赤褐色、内面：赤褐色。F．3/4。H．No22。
4	土師器坏	A．口径 13.2、器高 6.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ハケ→ヨコナデ。体部上半ハケ・下半ケズリ→細かなミガキ。内面：口縁部ハケ。体部ナデ。D．褐色粒・白色粒・石英（不透明）・輝石。E．外・内面：明赤褐色。F．3/4。H．No40・貯穴。
5	土師器坏	A．口径 12.8、器高 5.7。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ・下半ケズリ→ミガキ。内面：口縁部ハケ。体部ヘラナデ。底部ナデ。D．褐色粒・白色粒・石英（不透明）・輝石。E．外・内面：明赤褐色。F．1/2 強。H．覆土。
6	土師器坏	A．口径 12.4、器高 5.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→放射状暗文。D．褐色粒・白色粒・石英（不透明）。E．外面・内面：明赤褐色。F．5/6。H．No29。
7	土師器坏	A．口径 12.5、器高 5.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。D．黒色粒・白色粒・石英。E．外面：赤褐色、内面：にぶい赤褐色。F．ほぼ完形。G．体部外面に黒斑。H．No5。
8	土師器坏	A．口径 13.4、器高 5.4、底径 1.7。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→下半ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。D．長石・白色粒・輝石・石英。E．外・内面：明赤褐色。F．2/3。G．底部摩耗。H．No26・27、一括。
9	土師器高坏	A．口径－、器高 [8.9]、脚端部径 12.6。B．粘土紐積み上げ。ほぼ継ぎ接合。C．外面：坏部ナデ。脚柱部ケズリ→ナデ。脚端部ヨコナデ。内面：坏部ヘラナデ。脚柱部ナデ。脚端部ヨコナデ。D．長石・石英・赤色粒・黒色粒。E．外面：赤褐色、内面：にぶい赤褐色。F．口縁部欠損。坏部完形。脚端部 2/3。G．外面煤付着、内外面黒斑。H．貯穴。
10	須恵器坏身	A．口径 (9.0)、器高 [4.2]。B．粘土紐積み上げ→ロクロ整形。C．外面：口縁部～器受部回転ナデ。体部回転ヘラケズリ。内面：口縁部～体部回転ナデ。D．白色粒・黒色粒。E．外面：灰黄色、内面：灰黄褐色。F．口縁部 1/3。G．口縁部外面煤付着。H．覆土。
11	ミニチュア土器	A．口径 1.7、器高 2.0、底径 1.7。B．手捏ね。C．外・内面：ナデ。D．褐色粒・白色粒。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．完形。H．No38。
12	土製品不明	A．長さ [3.9]、幅 [2.0]、厚さ 0.755、重さ 6.18。B．手捏ね。C．ナデ。D．白色粒。E．赤褐色。F．両端部欠損。H．No39。
13	土製品棒状	A．長さ [3.0]、直径 1.1、重さ 4.34。B．手捏ね。C．外面：ナデ。D．白色粒・石英（不透明）。E．外面：にぶい橙色。F．破片。H．覆土。
14	石製模造品有孔円盤	A．長さ 2.7、幅 3.0、厚さ 0.41、重さ 4.58。B．板状剥離→周辺調整。C．表・裏・側面：研磨。D．緑色片岩。F．3/4。G．片面穿孔。H．SI31。

第 33 号住居跡（第 27 図、第 14～17 表、図版 3・4・12・13）

調査区北側、X =27705・27710、Y =-59030 に位置する。第 34・35 号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が最も新しい。北東部は調査区外に範囲がおよぶ。平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈するものと想定される。規模は北西－南東が 2.81 m、北東－南西が 2.04 m 以上を測る。

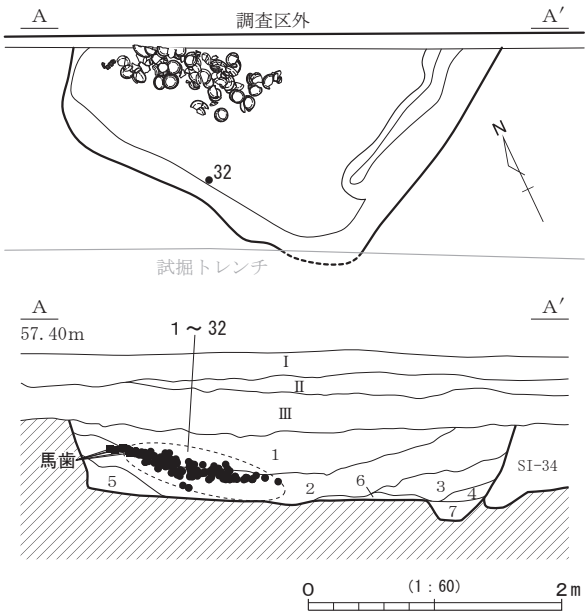
壁は、やや外反しながら立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.67 m である。壁溝は、南東壁直下で確認された。ローム面を床面としており、部分的に締まりが認められた。

カマド・支柱穴・貯蔵穴等は調査範囲においては検出されなかった。

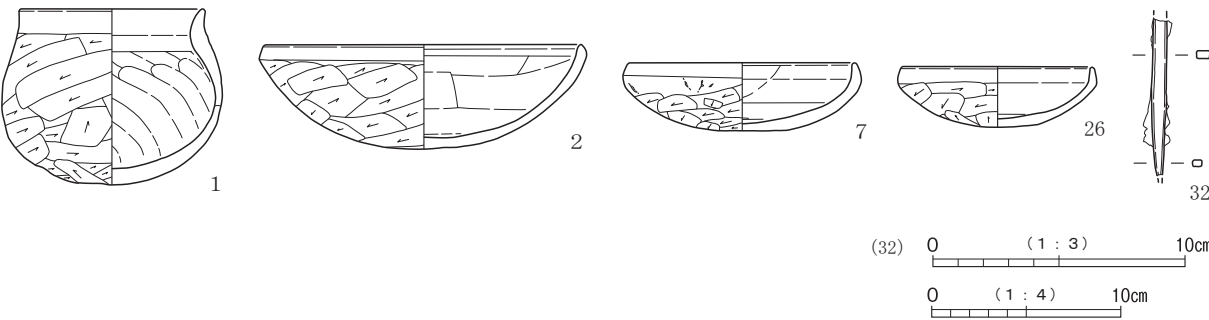
遺物は、土師器小型甕・鉢・坏・高坏・埴、須恵器甕・蓋、土製品、石製品、鉄製品が出土した。特に 2 層中から大量に出土した。なおこれらの土器は、重ねられた状態のものが認められる点、1 箇所集中して出土している点、馬歯が伴って出土している点を勘案すると祭祀に用いた土器であったことが想定される。中でも馬歯については原位置を保った状態で出土していることから、大量の土器

に伴って馬の頭部を遺棄あるいは埋置した可能性を示唆しており注目される。出土した遺物のうち33点を選出し、そのうち28点は写真・観察表のみの掲載とした。出土した土師器坏のうちa-1類は23点、a-2類は4点、a-3類は3点である。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から飛鳥時代（7世紀後半）と考えられる。



- A-A'
- 1 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～2mm）多量、焼土粒（1～2mm）炭化物微量。
2 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）多量、ロームブロック（6～10mm）・焼土粒（1～2mm）・炭化物微量。
3 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）少量、焼土粒（1～2mm）微量。
4 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）少量。
5 褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒（1～5mm）多量、灰白色粒（1～2mm）微量。
6 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～2mm）・ロームブロック（6～30mm）少量。
7 暗褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒（1～5mm）少量、ロームブロック（6～20mm）微量。



第 27 図 第 33 号住居跡遺構図・出土遺物

第 15 表 第 33 号住居跡出土遺物観察表（1）

1	土師器 小形鉢	A．口径9.6、器高9.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビナデ。D．長石・白色粒・輝石・石英。外面：にぶい赤褐色、内面：明赤褐色。F．3/4。G．内外面黒色付着物、口縁部顕著。H．No57・83。
2	土師器 坏	A．口径16.8、器高5.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエヨコナデ。D．赤色粒・黒色粒・長石・石英・輝石。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．-。H．No97、一括。I．a-3。

第 16 表 第 33 号住居跡出土遺物観察表（2）

3	土師器 坏	A．口径 15.4、器高 5.3。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．黒色粒・白色粒・チャート。E．外面・内面：にぶい赤褐色。F．4/5。G．内外面斑状の黒色付着物。H．No100。I．a－3。
4	土師器 坏	A．口径 15.2、器高 5.1。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・長石・輝石・白色粒・黒色粒。E．外面：橙、内面：赤褐色。F．4/5。G．外面体部一部変色、二次被熱か。H．No56。I．a－3。
5	土師器 坏	A．口径 12.0、器高 3.8。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・長石・輝石・凝灰岩・白色粒。E．外面：明赤褐色、内面：褐色。F．4/5。G．焼成時の亀裂あり。外面黒斑。H．No37。I．a－2。
6	土師器 坏	A．口径 12.0、器高 3.7。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．黒色粒・白色粒・チャート・輝石・長石。E．外・内面：明赤褐色。F．4/5。G．外面体部黒斑。H．No18・19。I．a－2。
7	土師器 坏	A．口径 12.0、器高 3.6。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・輝石・石英・黒色粒・白色粒・赤色粒。E．外・内面：橙色。F．完形。G．外面黒斑。H．No13。I．a－2。
8	土師器 坏	口径 11.8、器高 3.8。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・白色粒・黒色粒・輝石。E．外面：橙色、内面：明赤褐色。F．4/5。G．外面体部黒斑。H．No117。I．a－2。
9	土師器 坏	A．口径 10.8、器高 3.6。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．白色粒・輝石・赤色粒・長石・白色粒。E．外面：にぶい褐色。内面：にぶい黄褐色。F．完形。G．外面体部黒斑。内面体部円形状の剥落。H．No119。I．a－1。
10	土師器 坏	A．口径 10.4、器高 3.3。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．輝石・白色粒・黒色粒・長石・石英。E．外面：橙色、内面：明赤褐色。F．完形。G．－。H．No15。I．a－1。
11	土師器 坏	A．口径 10.4、器高 3.6。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．チャート・石英・白色粒・輝石・黒色粒。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．内外面黒斑。H．No77。I．a－1。
12	土師器 坏	A．口径 10.4、器高 3.0。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．輝石・長石・黒色粒・石英・チャート。E．外面：にぶい黄褐色、内面：明赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。外面体部に黒斑。H．No121。I．a－1。
13	土師器 坏	A．口径 10.2、器高 3.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．白色粒・石英・輝石・長石。E．外面：暗灰黄色、内面：にぶい黄褐色。F．完形。G．外面体部に黒斑。H．No41。I．a－1。
14	土師器 坏	口径 10.4、器高 3.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．黒色粒・長石・輝石。赤色粒・石英。E．外面：明赤褐色、内面：にぶい褐色。F．完形。G．外面黒斑。H．No32。I．a－1。
15	土師器 坏	A．口径 10.2、器高 3.4。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．黒色粒・長石・輝石・石英。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。内外面黒斑。H．No12。I．a－1。
16	土師器 坏	A．口径 10.4、器高 3.3。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．黒色粒・赤色粒・長石・輝石。E．外・内面：明赤褐。F．4/5。G．外面黒斑。H．No3・4。I．a－1。
17	土師器 坏	A．口径 10.2、器高 3.6。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．黒色粒・輝石・長石。E．外面：にぶい褐色、内面：暗褐色。F．完形。G．内外面黒色付着物。外面体部円形状の剥落。H．No109。I．a－1。
18	土師器 坏	A．口径 10.6、器高 3.4。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．黒色粒・輝石・白色粒・石英・長石。E．外・内面：明暗褐色。F．4/5。G．焼成時の亀裂あり。外面体部黒斑。H．No11。I．a－1。
19	土師器 坏	A．口径 10.6、器高 3.3。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．輝石・長石・黒色粒・白色粒・赤色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。H．No120。I．a－1。
20	土師器 坏	A．口径 10.4、器高 3.0。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．黒色粒・白色粒・輝石。E．外面：褐色、内面：暗赤褐色。F．4/5。G．内外面黒斑。外面円形状の剥落。H．No122。I．a－1。
21	土師器 坏	A．口径 10.4、器高 3.1。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．黒色粒・輝石・石英・長石・白色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。外面体部黒斑。H．No29。I．a－1。
22	土師器 坏	A．口径 10.0、器高 3.4。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．長石・輝石・黒色粒。E．外面：にぶい褐色、内面：明赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。外面体部黒斑。H．No118。I．a－1。

第 17 表 第 33 号住居跡出土遺物観察表（3）

23	土師器 坏	A．口径 10.4、器高 3.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．長石・輝石・黒色粒・石英。E．外・内面：明赤褐色。F．4/5。G．－。H．No35。I．a－1。
24	土師器 坏	A．口径 9.8、器高 3.3。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．黒色粒・白色粒・輝石・長石。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい黄褐色。F．4/5。G．内外面黒色付着物。外面円形状の剥落。H．No96。I．a－1。
25	土師器 坏	A．口径 10.0、器高 3.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．輝石・黒色粒・長石・赤色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：にぶい褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。外面黒斑。H．No31。I．a－1。
26	土師器 坏	A．口径 10.0、器高 3.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．長石・輝石・黒色粒・石英。E．外面：明赤褐色、内面：橙色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。外面黒斑。H．No39。
27	土師器 坏	A．口径 10.0、器高 3.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．輝石・凝灰岩・白色粒・黒色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：明赤褐色。F．4/5。G．外面黒斑。H．No79。I．a－1。
28	土師器 坏	A．口径 10.0、器高 3.3。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．長石・輝石・チャート。E．外・内面：明赤褐色。F．4/5。G．外面黒斑。H．No98。I．a－1。
29	土師器 坏	A．口径 10.2、器高 3.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．黒色粒・輝石・チャート・白色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：にぶい褐色。F．4/5。G．外面黒斑。H．No24。I．a－1。
30	土師器 坏	A．口径 10.3、器高 3.1。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・白色粒・輝石。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。内外面黒斑。H．No80。I．a－1。
31	土師器 坏	A．口径 9.8、器高 3.1。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．黒色粒・輝石・石英。E．外面：黒褐色、内面：褐色。F．完形。G．内外面黒色付着物。外面円形状の剥落。H．No14。I．a－1。
32	金属製品 鉄鏃か	A．長さ [6.2]、幅 0.6、厚さ 0.3、重さ 4.72。B．鍛造。D．鉄製。F．鉄鏃の茎部か。H．No123。

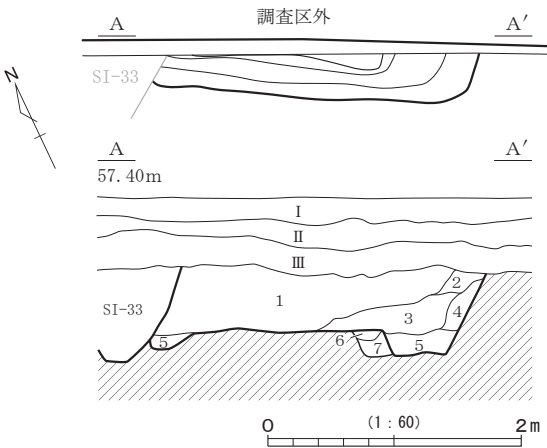
第 34 号住居跡（第 28 図、第 18 表、図版 4）

調査区北側、X =27705、Y =-59025・-59030 に位置する。第 33・35 号住居跡と重複する。切り合い関係から第 33 号住居跡より古く、第 35 号住居跡より新しい。大半は調査区外に範囲がおよぶ。規模は北東－南西が 0.35 m 以上、北西－南東が 2.55 m 以上を測る。

壁は外反気味に立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.59 m である。壁溝は検出された範囲においては認められた。床面はやや凹凸が認められた。

第 18 表 第 34 号住居跡土器類出土量（g）

土師器		須恵器		
坏類	甕類	坏	蓋	壺・甕
600	400	－	－	－



第 28 図 第 34 号住居跡遺構図

- A－A’
- 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～2mm）少量、灰白色粒（1～2mm）・焼土粒（1～2mm）微量。
 - 2 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒（1～2mm）少量、灰白色粒（1～2mm）・焼土粒（1～2mm）微量。
 - 3 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）少量。
 - 4 褐色土 しまりあり粘性弱い。ロームブロック（6～10mm）多量、ローム粒（1～5mm）少量。
 - 5 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）少量、ロームブロック（6～50mm）微量。
 - 6 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～2mm）多量、ロームブロック（6～10mm）少量。
 - 7 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）・ロームブロック（6～20mm）多量、焼土粒（1～2mm）微量。

カマド・支柱穴・貯蔵穴等は調査範囲においては検出されなかった。

遺物は土師器甕・甑・坏・高坏が覆土中から僅かに出土している。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から、古墳時代中期以降飛鳥時代以前（5世紀～7世紀後半）のいずれかと考えられる。

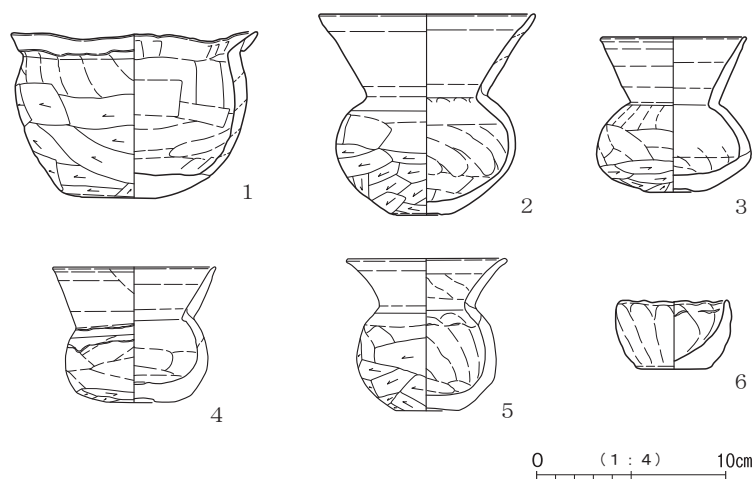
第35号住居跡（第29～31図、第19表、図版4・13）

調査区北側、X =27700・27705、Y =-59025～-59035に位置する。第33・34号住居跡と重複し、出土遺物および切り合い関係から本遺構が最も古い。南西壁は調査区外に範囲がおよぶ。平面形は隅丸長方形を呈していたと想定される。規模は北西－南東が5.24 m、北東－南西が4.40 m以上を測る。住居跡の長軸方位はN－40°－Wを示す。

壁は外反気味に立ち上がる。確認面から床面までの深さは0.49 mである。壁溝は調査した範囲においては全周していた。床はやや凹凸があり、ローム面を床面としていた。ピットは6基（P1～6）検出されており位置関係を考慮するとP1～4が支柱穴と考えられる。P6では小範囲ではあるが被熱痕が検出された。規模はP1が

0.42 m×0.42 m、深さ0.55 m、P2が0.59 m×0.45 m、深さ0.72 m、P3が0.49 m×0.48 m、深さ0.34 m、P4が0.54 m以上×0.16 m以上、深さ0.12 m以上、P5が0.61 m×0.37 m、深さ0.66 m、P6が0.57 m以上×0.48 m、深さ0.16 mである。

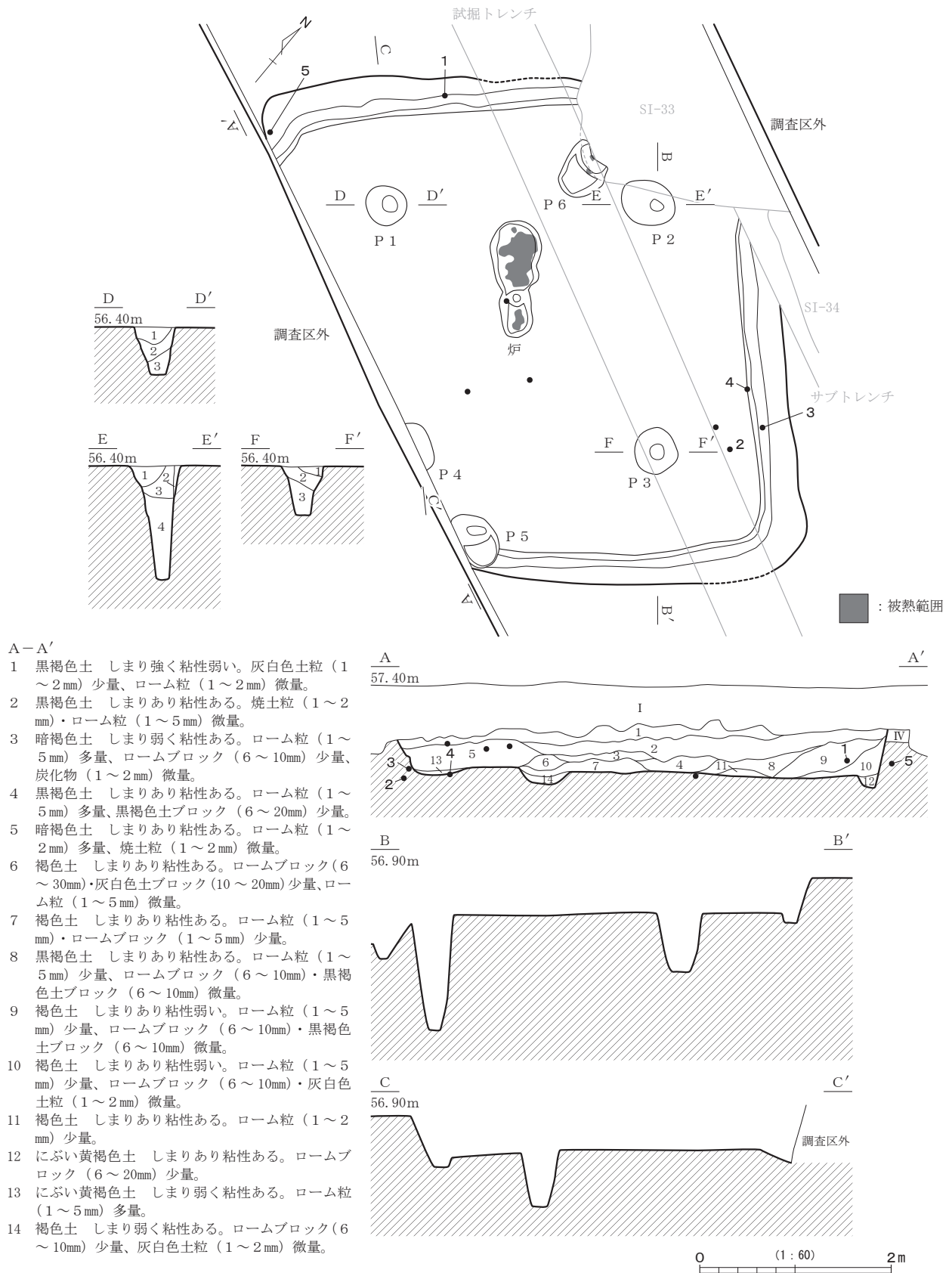
炉跡は住居跡中央北西寄りで検出された。平面形は不整形な楕円形を呈する。規模は1.23 m×



第29図 第35号住居跡出土遺物

第19表 第35号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 小形鉢	A．口径(12.8)、器高8.8、底径4.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ナデ。胴部ヘラナデ→ケズリ。底部ナデ。内面：口縁部ヘラナデ。胴部～底部ナデ→上半ヘラナデ。D．赤褐色粒・白色粒・石英（透明）・角閃石。E．外面：にぶい赤褐色、内面：暗赤褐色。F．3/4。G．口縁部～胴部外面煤付着。一部被熱により赤色化。H．No8。
2	土師器 埴	A．口径(11.2)、器高10.6、底径3.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→下半ケズリ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ユビナデ。底部ヘラナデ。D．白色粒・片岩・輝石。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．口縁部1/4、胴部完形。G．胴部中位に帯状に煤付着。H．No3。
3	土師器 埴	A．口径7.6、器高8.2、底径7.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→下半ケズリ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。底部ユビナデ。D．白色粒・石英（透明）・角閃石。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．外面に黒斑。H．No1。
4	土師器 埴	A．口径8.5、器高7.1、底径3.7。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。底部ナデ→ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。底部ユビナデ。D．白色粒・石英（透明）。E．外・内面：にぶい褐色。F．完形。G．外面に黒斑。H．No2。
5	土師器 埴	A．口径(8.2)、器高8.0、底径3.3。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→下半ケズリ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ユビナデ。D．白色粒・雲母粒。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．口縁部1/4、胴部完形。H．No9。
6	手捏土器	A．口径(4.2)、器高2.7、底径(3.0)。B．手捏ね。C．外面：ナデ。内面：ナデ。D．褐色粒・白色粒・石英（透明）。E．外面：にぶい赤褐色、内面：黒褐色。F．1/4。H．覆土中。



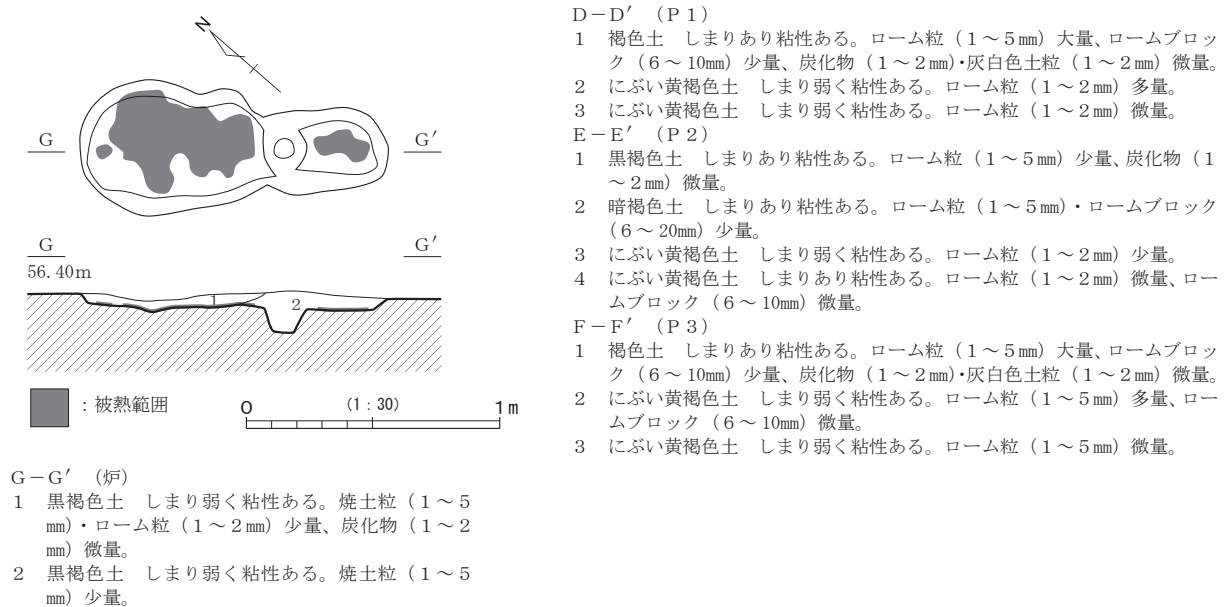
第30図 第35号住居跡遺構図（1）

第Ⅲ章 検出された遺構と遺物

0.54 m、深さ 0.06 m である。中央付近に 0.33 m×0.18 m、深さ 0.13 m の小穴が検出された。底面では被熱痕が検出されている。

遺物は、土師器甕・小型甕・壺・高坏・埴、土製品、石製品が住居内から散在して出土した。

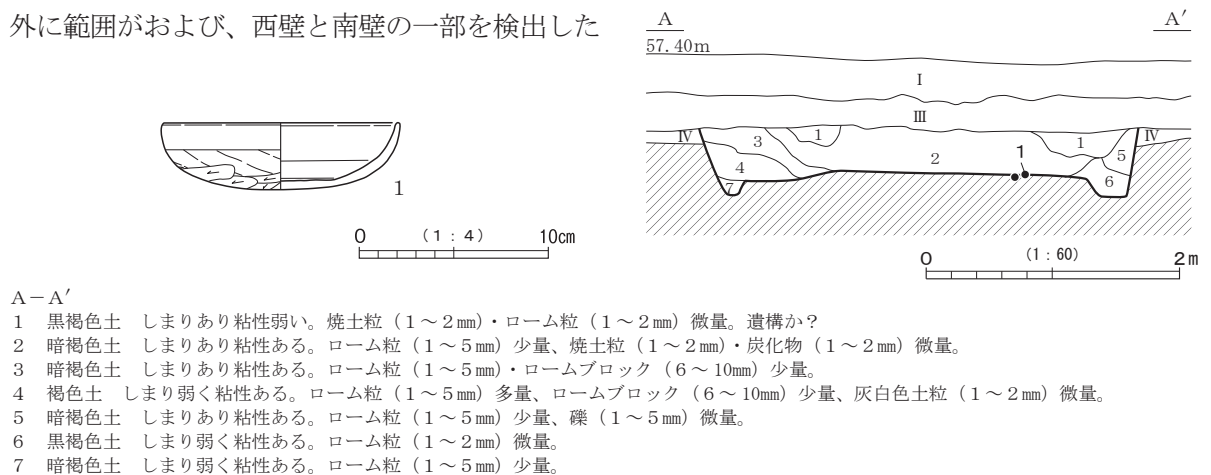
本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から古墳時代中期（5 世紀後半）と考えられる。



第 31 図 第 35 号住居跡遺構図 (2)

第 36 号住居跡 (第 32 図、第 20・21 表、図版 4・13)

調査区北西、X =27710、Y =-59035・-59040 に位置する。P-253・257・258 と重複し、切り合い関係から本遺構が最も古い。大半が調査区外に範囲がおよび、西壁と南壁の一部を検出した



第 32 図 第 36 号住居跡遺構図・出土遺物

のみであった。規模は南北方向が 1.48 m 以上、東西方向が 2.85 m 以上を測る。

壁はやや外反気味に立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.27 m である。壁溝は、調査した範囲においては南壁の一部を除いて検出された。床面は貼り床が施されており一部硬化面が認められた。

カマド・支柱穴・貯蔵穴は調査した範囲においては検出されなかった。

遺物は少量であるが床面付近から出土した。

本住居跡の帰属時期は、出土遺物の様相から奈良時代（8 世紀後半）と考えられる。

第 20 表 第 36 号住居跡土器類出土量 (g)

土師器		須恵器		
坏類	甕類	坏	蓋	壺・甕
1,080	780	8	12	—

第 21 表 第 36 号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口径 12.4、器高 3.0。B. 粘土紐巻き上げ。C. 外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデーケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D. 石英・赤色粒・輝石・長石・白色粒。E. 外・内面：にぶい赤褐色。F. 完形。G. 外内面黒色付着物。H. No23。
---	----------	---

第 37 号住居跡（第 33 ～ 35 図、第 22 ～ 26 表、図版 4・13・14）

調査区北西、X =27705・27710、Y =-59040・-59045 に位置する。第 38 号住居跡、第 57 号土坑と重複し、切り合い関係から第 57 号土坑より古く、第 38 号住居跡より新しい。

西側の一部は調査区外に範囲外および。また、カクランにより一部削平されている。平面形は隅丸方形を呈する。規模は北東－南西が 4.62 m、北西－南東が 4.50 m を測る。住居跡の主軸方位は N－56°－E を示す。

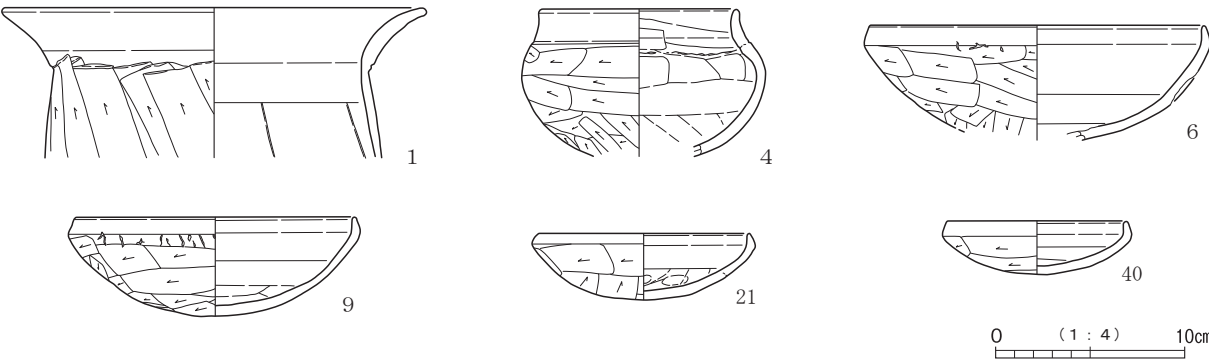
壁はやや外反気味に立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.61 m である。壁溝は検出されなかった。床面はほぼ平坦で貼り床が認められた。支柱穴は検出されなかった。貯蔵穴と考えられる土坑が 1 基（D 1）東コーナー部で検出された。規模は 0.44 m × 0.44 m、深さ 0.06 m である。

カマドは、北東壁東寄りに付設されていた。規模は最大長 1.01 m、燃焼室幅 0.33 m である。燃焼室では火床面と考えられる被熱痕が認められた。

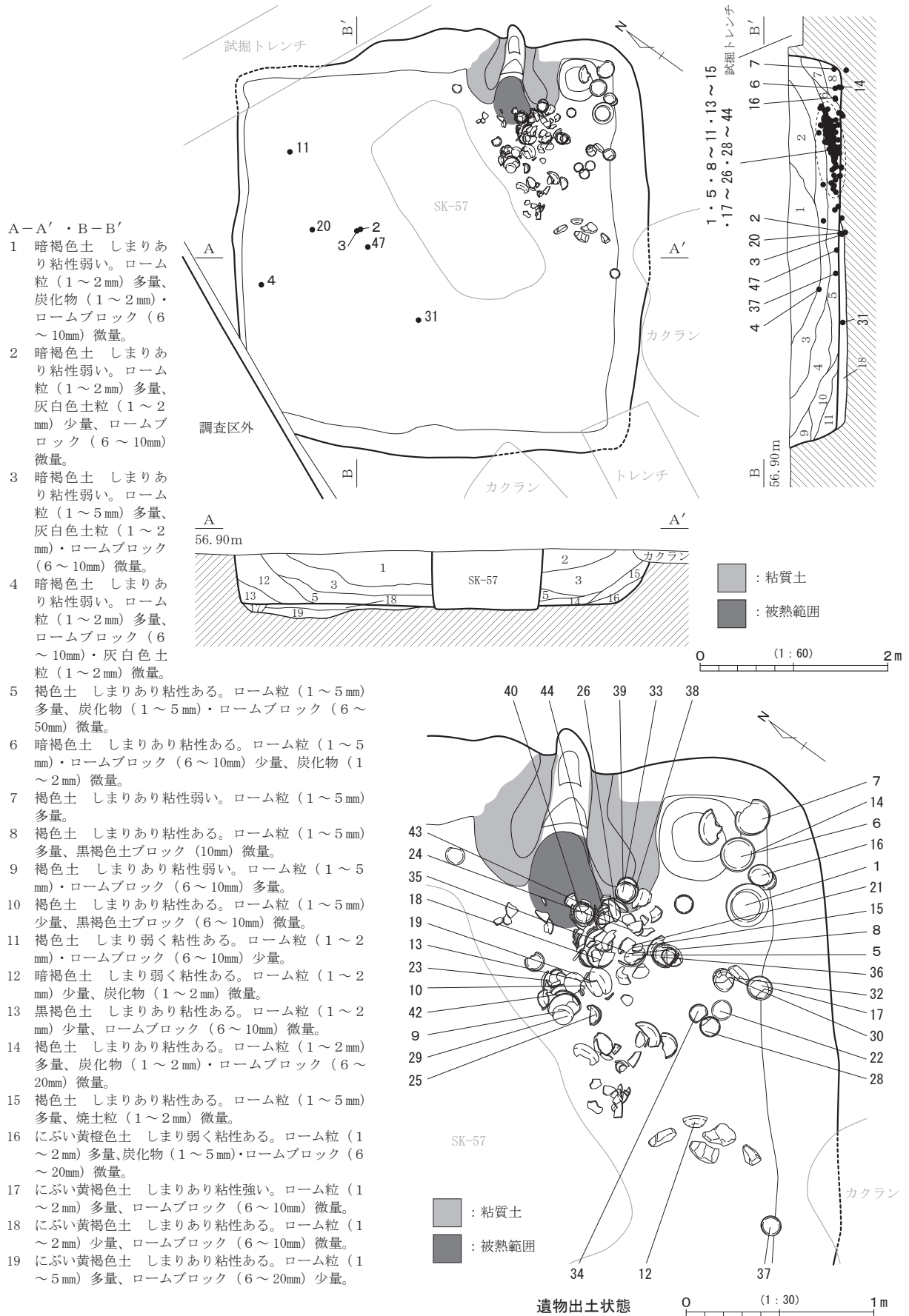
遺物は土師器甕・甑・鉢・埴・坏、須恵器甕・壺、土製品が出土した。カマド手前では土師器坏が大量に出土した。正位で出土するものが多く重ねられた状態

第 22 表 第 37 号住居跡土器類出土量 (g)

土師器		須恵器		
坏類	甕類	坏	蓋	壺・甕
1,8375	6,397	30	—	607



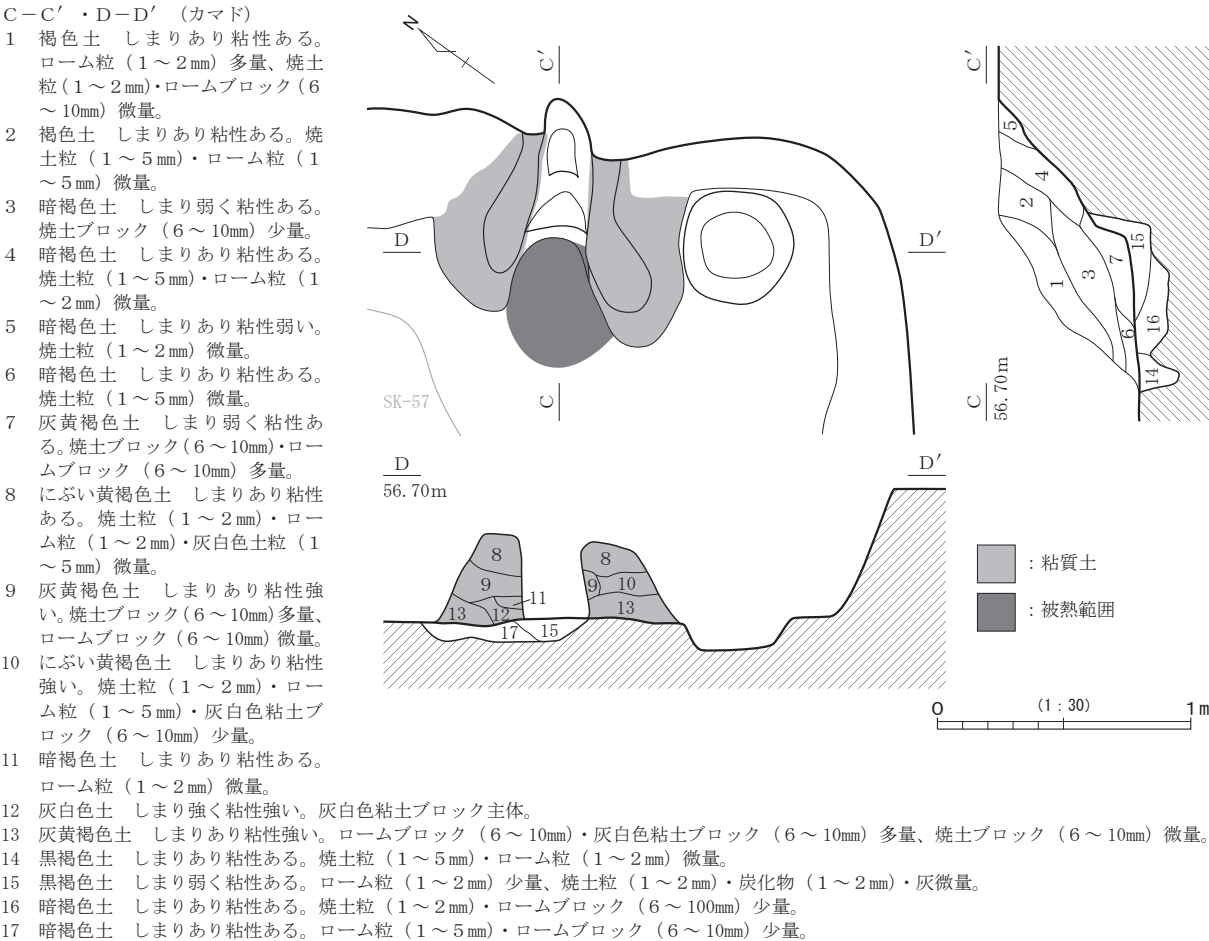
第 33 図 第 37 号住居跡出土遺物



第34図 第37号住居跡遺構図(1)

のものもあった。出土状態としては第 33 号住居跡に類するものと考えられる。出土した遺物のうち 47 点を選出し、41 点は写真・観察表のみの掲載とした。出土した土師器は a－1 類が 25 点、a－2 類が 10 点、a－3 類が 3 点、c 類が 1 点である。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から飛鳥時代（7 世紀後半）と考えられる。



第 35 図 第 37 号住居跡遺構図（2）

第 23 表 第 37 号住居跡出土遺物観察表（1）

1	土師器 甕	A．口径 22.1、器高 [7.9]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。D．輝石・長石・石英・白色粒・黒色粒。E．外・内面：にぶい褐色。F．口縁部のみ完形。G．外・内面口縁一部に二次被熱による赤化・煤。H．No22。
2	土師器 鉢	A．口径 17.4、器高 [12.7]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ、内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。D．長石・石英・輝石・白色粒・チャート。E．外・内面：にぶい褐色。F．4/5。G．内外面黒斑。底部欠損後二次利用（転用甕か）。H．No6。
3	土師器 小形鉢	A．口径 14.0、器高 8.7、底径 6.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体～底部ケズリ、内面：ヨコナデ。D．石英・輝石・赤色粒・チャート。E．外面：にぶい黄褐色、内面：明赤褐色。F．完形。G．内外面黒斑。外面口縁部円形状の剥落。H．No5。
4	土師器 小形鉢	A．口径 10.2、器高 [7.8]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。D．白色粒・黒色粒・輝石・石英・長石。E．外・内面：橙色。F．4/5。G．。H．No8。
5	土師器 小形鉢	A．口径 10.2、器高 7.7。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ、内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。D．石英・長石・輝石・白色粒。E．外面：にぶい褐色、内面：暗褐色。F．完形。G．内外面黒斑。外面体部円形状の剥落。H．No64。

第24表 第37号住居跡出土遺物観察表（2）

6	土師器 坏	A．口径17.7、器高[6.1]。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．白色粒・長石・石英・赤色粒・輝石。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．4/5。G．内外面黒色付着物、円形状の剥落。H．No23。I．a－3。
7	土師器 坏	A．口径16.6、器高6.0。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・白色粒・輝石。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい黄褐色。F．4/5。G．内外面黒色付着物。外面体部円形状の剥落。H．No25。I．a－3。
8	土師器 坏	A．口径16.0、器高5.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石。長石。E．外面：橙色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．内外面黒色付着物、体部円形状の剥落。H．No71。I．a－3。
9	土師器 坏	A．口径14.8、器高5.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．白色粒、石英、長石、輝石。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．外面黒斑。H．No40。I．a－2。
10	土師器 坏	A．口径14.2、器高5.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．長石・輝石・黒色粒。E．外・内面：橙色。F．焼成時の亀裂あり。G．完形。H．No73。I．a－2。
11	土師器 坏	A．口径14.1、器高4.0。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石・長石。E．外面：にぶい赤褐色、内面：赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。外面に斑状の黒色付着物。H．No1。I．a－2。
12	土師器 坏	A．口径13.2、器高4.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・長石・輝石・チャート。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．外面黒斑。内面黒色付着物。H．No11・12。I．a－2。
13	土師器 坏	A．口径13.0、器高4.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・白色粒・輝石・長石。E．外面：明赤褐色、内面：にぶい赤褐色。F．4/5。G．内面黒色付着物。H．No100。I．a－2。
14	土師器 坏	A．口径13.5、器高5.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・輝石・黒色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．－。H．No24。I．c。
15	土師器 坏	A．口径12.2、器高4.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・輝石。E．外面：にぶい褐色、内面：褐色。F．完形。G．内外面黒色付着物。H．No73。I．a－2。
16	土師器 坏	A．口径12.3、器高3.7。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・輝石・赤色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．－。H．No20。I．a－2。
17	土師器 坏	A．口径12.0、器高4.1。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・輝石・チャート・白色粒。E．外面：にぶい褐色、内面：褐色。F．4/5。G．内外面黒色付着物。H．No16。I．a－2。
18	土師器 坏	A．口径12.0、器高4.3。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石・白色粒。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．内外面黒斑。外面体部円形状の剥落。H．No76。I．a－2。
19	土師器 坏	A．口径11.9、器高3.8。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．白色粒・チャート・輝石。E．外面：にぶい赤褐色、内面：暗赤褐色。F．完形。G．内外面黒色付着物。外面体部円形状の剥落。H．No119。I．a－2。
20	土師器 坏	A．口径11.4、器高4.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．白色粒・輝石・長石・片岩。E．外・内面：明赤褐色。F．4/5。G．－。H．No3。I．a－1。
21	土師器 坏	A．口径11.1、器高3.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・白色粒・石英・輝石。E．外面：にぶい黄褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．外・内面ヨゴレ、焼成時の亀裂。H．No72。I．a－1。
22	土師器 坏	A．口径11.0、器高3.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石・長石。E．外面：明赤褐、内面：暗赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。外面体部円形状の剥落。内面黒色付着物。H．No15。I．a－1。
23	土師器 坏	A．口径10.7、器高3.6。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．輝石・石英・白色粒・黒色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：黄褐色。F．完形。G．外面体部黒斑。内面黒色付着物。H．No108。I．a－1。
24	土師器 坏	A．口径10.5、器高3.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．輝石・長石・白色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。内外面黒色付着物・円形状の剥落。H．No70。I．a－1。
25	土師器 坏	A．口径10.3、器高3.4。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・長石・輝石・黒色粒。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．外面体部円形状の剥落。H．No36・37。I．a－1。

第 25 表 第 37 号住居跡出土遺物観察表（3）

26	土師器 坏	A．口径 10.1、器高 3.4。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・輝石・白色粒。E．外面：暗灰黄色、内面：暗赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。内外面黒色付着物。外面体部黒斑。H．No96。I．a－1。
27	土師器 坏	A．口径 10.5、器高 2.9。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石・白色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：黒褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。内面黒色付着物。H．カマド。I．a－1。
28	土師器 坏	A．口径 10.4、器高 3.4。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石。E．外面：灰黄褐色、内面：明赤褐色。F．完形。G．外面体部黒斑。H．No13。I．a－1。
29	土師器 坏	A．口径 10.0、器高 3.1。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・輝石・石英・チャート。E．外面：明赤褐色、内面：にぶい褐色。F．完形。G．外面体部黒斑。内面斑状に黒色付着物。H．No38。I．a－1。
30	土師器 坏	A．口径 10.5、器高 3.6。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・輝石・黒色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．外面体部赤化。H．No18。I．a－1。
31	土師器 坏	A．口径 10.1、器高 3.5。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．輝石・石英・白色粒。E．外・内面：褐色。F．完形。G．内外面黒斑。H．No9。I．a－1。
32	土師器 坏	A．口径 10.5、器高 3.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．輝石・長石・白色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：黒褐色。F．完形。G．外面黒斑。内面黒色付着物。H．No17。I．a－1。
33	土師器 坏	A．口径 10.3、器高 3.4。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・長石・輝石・チャート。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．4/5。G．内外面円形状の剥落・黒色付着物。H．No49。I．a－1。
34	土師器 坏	A．口径 10.2、器高 3.0。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・長石・輝石・白色粒。E．外面：明赤褐、内面：赤褐色。F．完形。G．－。H．No14。I．a－1。
35	土師器 坏	A．口径 10.3、器高 3.4。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石・白色粒。E．外面：にぶい褐色、内面：褐色。F．完形。G．内外面黒色付着物。H．No82。I．a－1。
36	土師器 坏	A．口径 10.2、器高 2.8。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・白色粒・輝石。E．外面：にぶい赤褐色、内面：暗赤褐色。F．4/5。G．内外面黒色付着物。外面体部円形状の剥落。H．No58・59。I．a－1。
37	土師器 坏	A．口径 10.1、器高 3.4。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・長石・輝石・黒色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．外面体部黒斑。内面黒色付着物。H．No10。I．a－1。
38	土師器 坏	A．口径 9.8、器高 3.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・黒色粒・輝石・長石。E．外面：灰黄褐色、内面：暗褐色。F．完形。G．内外面円形状の剥落・黒色付着物。H．No50。I．a－1。
39	土師器 坏	A．口径 10.1、器高 3.2。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．白色粒・黒色粒・石英・輝石。E．外面：にぶい褐色、内面：褐色。F．完形。G．外面円形状の剥落・黒斑。内面黒色付着物。H．No51。I．a－1。
40	土師器 坏	A．口径 9.5、器高 2.8。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・輝石・白色粒・石英。E．外面：にぶい黄色、内面：明赤褐色。F．完形。G．外面体部黒斑。H．No45。I．a－1。
41	土師器 坏	A．口径 9.8、器高 3.5。B．粘土紐巻き上げ。C．口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・輝石・白色粒。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。外面体部黒斑。H．No19。I．a－1。
42	土師器 坏	A．口径 9.7、器高 2.9。B．粘土紐巻き上げ。C．口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・石英・輝石。E．外面：黒褐色、内面：灰黄褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。内外面黒斑。H．No108。I．a－1。
43	土師器 坏	A．口径 9.7、器高 3.0。B．粘土紐巻き上げ。C．口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．石英・輝石・黒色粒・長石。E．外・内面：褐色。F．3/4。G．内外面黒色付着物。外面円形状の剥落。H．No84。I．a－1。
44	土師器 坏	A．口径 9.6、器高 2.9。B．粘土紐巻き上げ。C．口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ→ヨコナデ。D．長石・輝石・石英・黒色粒。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．4/5。G．外面体部黒斑。内面円形状の剥落。H．No88。I．a－1。
45	土師器 坏	A．口径－、器高 [2.5]、底径 3.0。B．粘土紐巻き上げ。C．外面：ナデ、内面：ナデ。D．白色粒・長石・輝石。E．外面：灰褐色、内面：にぶい褐色。F．底のみ。G．外面黒斑。H．カマド。

第 26 表 第 37 号住居跡出土遺物観察表（4）

46	土師器 小形鉢	A．口径(6.4)、器高[5.9]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ→上位ヘラケズリ。D．黒色粒・長石。石英・輝石・白色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．1/4。G．外面黒斑。H．2区。
47	須恵器 壺	A．口径－、器高－。B．粘土紐積み上げ→タタキ成形→ロクロ整形。C．外面：格子目タタキ→ロクロナデ。内面：同心円文当て具痕。D．長石・石英・白色粒・黒色粒。E．外面：灰色、内面：暗灰黄色。F．胴部片。G．還元焰焼成。H．No7。

第 38 号住居跡（第 36・37 図、第 27 表、図版 4・15）

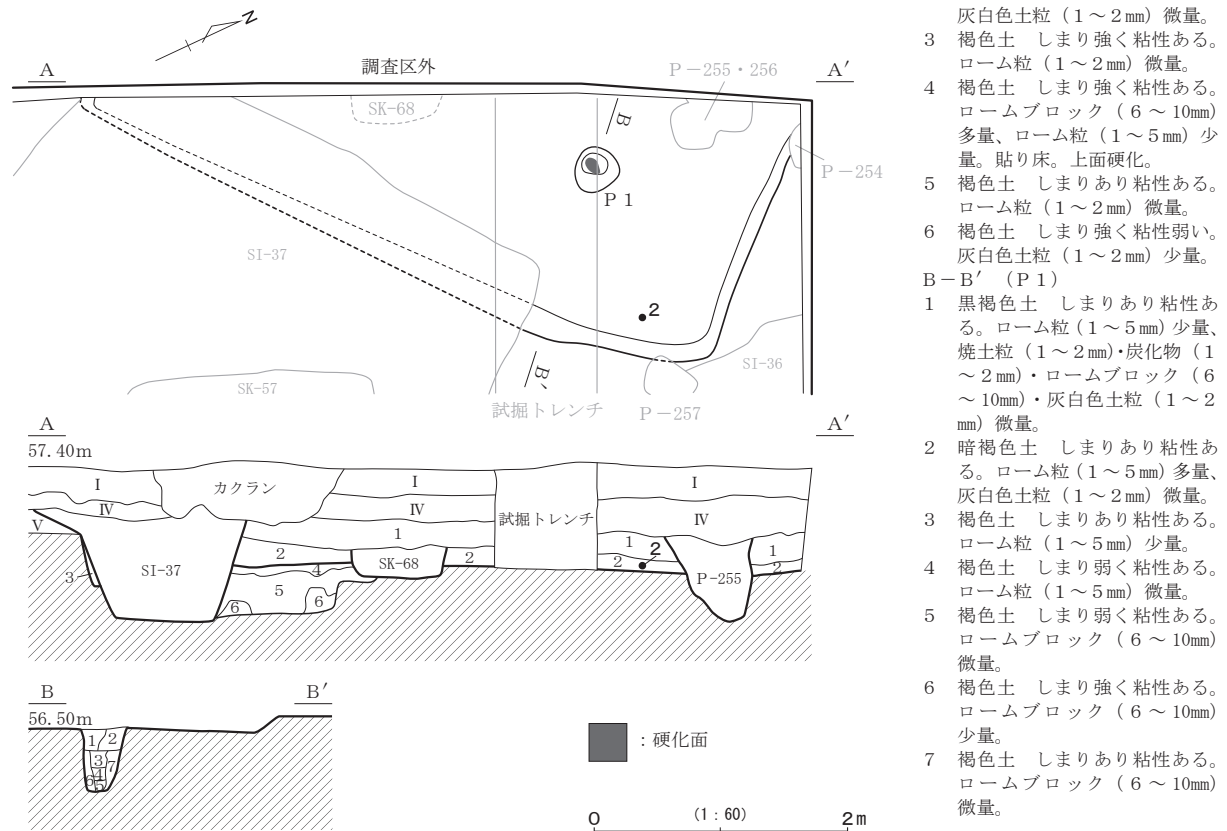
調査区北西、X =27710・27715、Y =-59040・-59045 に位置する。第 37 号住居跡、第 68 号土坑、P-254～257 と重複し、切り合い関係および出土遺物から本遺構が最も古い。北西側の大半が調査区外に範囲がおよぶ。南東壁についても重複する第 37 号住居跡に削平されていた。規模は北東－南西が 4.17 m 以上、北西－南東が 2.15 m 以上を測る。

壁は急な角度で立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.18 m である。壁溝は調査範囲においては検出されなかった。床面はほぼ平坦で貼り床が認められた。1 基のピット（P1）が検出された。位置関係および、底面に柱の荷重により生じたと考えられる硬化面が検出されたことを考慮すると主柱穴であった可能性が考えられる。規模は 0.36 m×0.34 m、深さ 0.55 m である。

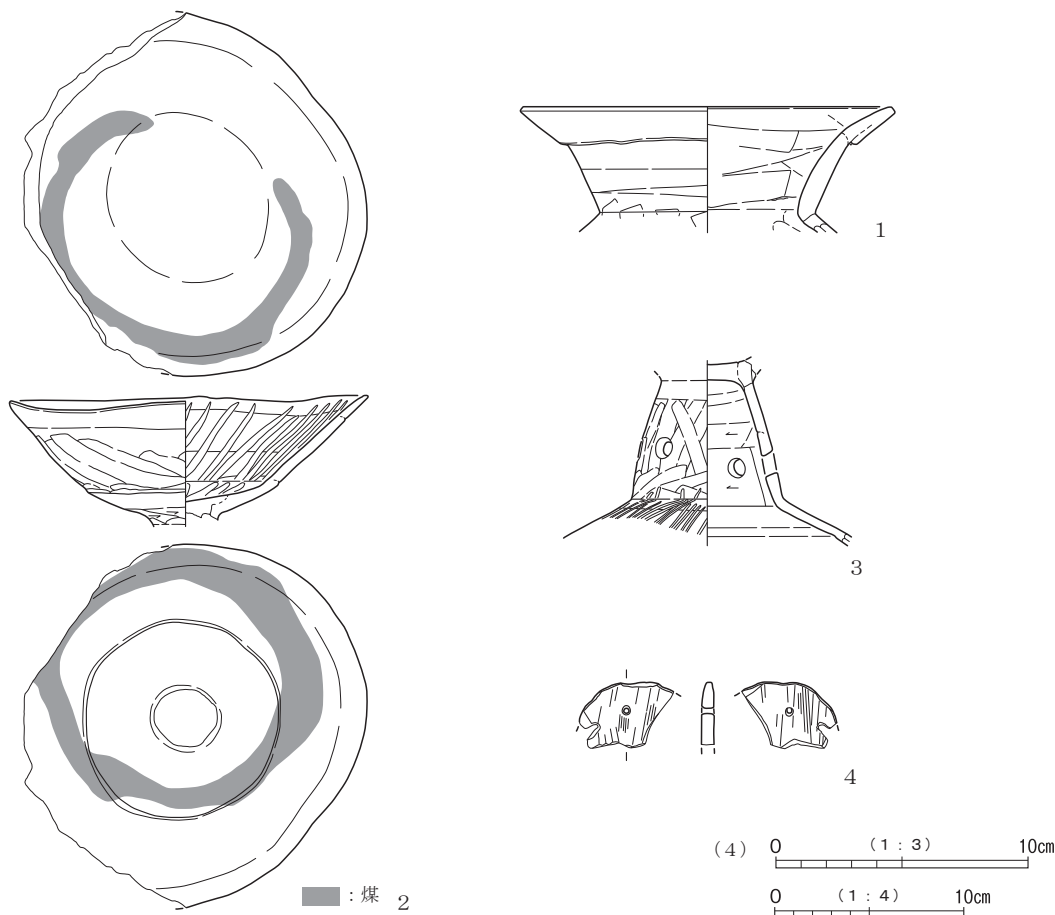
カマド・貯蔵穴等については調査範囲においては検出されなかった。

遺物は、土師器甕・壺・高坏、須恵器甕・壺、土製品、石製品が出土した。

本住居跡の帰属時期は、遺構の切り合い関係や出土遺物の様相から古墳時代中期（5 世紀後半）と考えられる。



第 36 図 第 38 号住居跡遺構図



第 37 図 第 38 号住居跡出土遺物

第 27 表 第 38 号住居跡出土遺物観察表

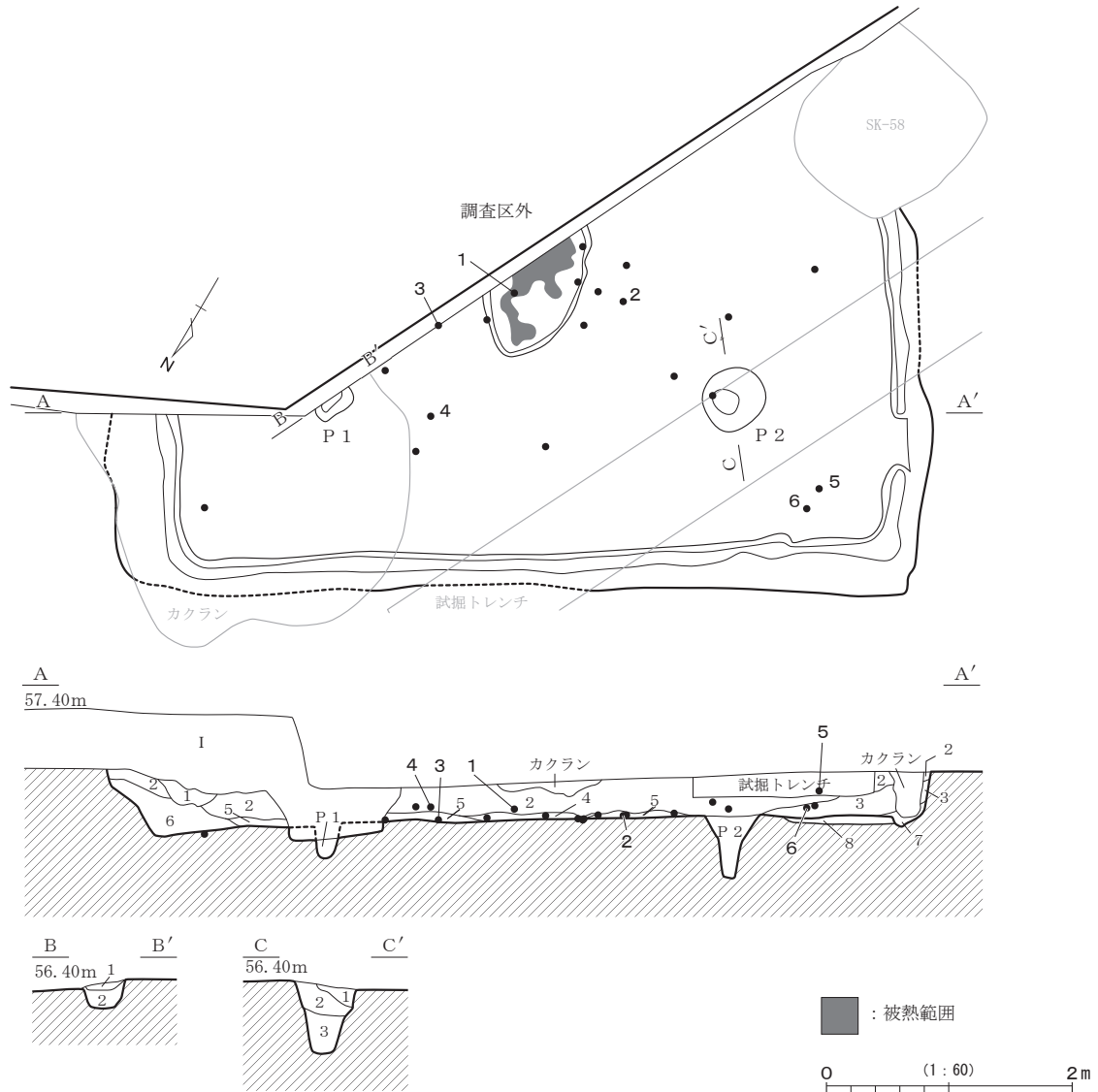
1	土師器 壺	A．口径 (19.4)、器高 [6.7]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面：口縁部ヘラナデ。胴部上端シボリ。D．長石・白色粒・石英・赤色粒。E．外面：にぶい黄褐色、内面：にぶい黄褐色。F．口頸部 1/3。G．内面黒斑。H．3 区、一括。
2	土師器 高坏	A．口径 (18.9)、器高 [7.0]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ→ナデ。体部ケズリ→ナデ。内面：口縁部ナデ→上半ヨコナデ→放射状暗文。D．長石・白色粒・石英・赤色粒・輝石。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．口縁部 3/4。坏部完形。G．器形は歪んでいる。内外面とも環状に煤付着。甕の蓋に転用されたものと思われる。H．No1。
3	土師器 高坏	A．口径—、器高 [10.0]、脚端部径—。B．粘土紐積み上げ。C．外面：脚柱部ナデ。脚端部ナデ→放射状暗文。内面：坏部ナデ。脚柱部ナデ→ケズリ。脚端部ヨコナデ。D．長石・石英・白色粒・輝石。E．外面：にぶい赤褐色、内面：赤褐色。F．脚柱部完形。G．脚柱部円孔（焼成前）は 5 ヲ所。H．一括。
4	石製模造品 不明	A．長さ [2.6]、幅 [3.8]、厚さ 0.5、重さ 7.15。B．板状に剥離→周辺調整。C．表・裏面研磨。D．緑色片岩。F．破片。H．SI38。

第 39 号住居跡（第 38・39 図、第 28 表、図版 5・15）

調査区北西、X =27700・27705、Y =-59040・-59045 に位置する。第 58 号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。南東側は調査区外に範囲がおよぶ。また、カクランにより一部削平されていた。平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈していたと思われる。規模は北東－南西が 6.76 m、北西－南東が 4.10 m 以上を測る。

第Ⅲ章 検出された遺構と遺物

壁は外反しながら立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.47 m である。壁溝は調査した範囲においては南西壁の一部を除いて全周していた。床面はやや凹凸が認められた。ピットは 2 基 (P 1・2) 検出されており位置関係を考慮すると支柱穴であったことが想定される。規模は P 1 が 0.34



A-A'

- 1 黒褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1~2mm) 微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 少量、灰白色粒 (1~2mm) 微量。
- 3 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量、ロームブロック (6~10mm)・炭化物微量。
- 4 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量。
- 5 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 少量、灰白色粒 (1~2mm) 微量。
- 6 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量、黒褐色土ブロック (6~10mm) 微量。
- 7 にぶい黄橙色土 しまり弱く粘性ある。ロームブロック (6~20mm) 多量、黒褐色土ブロック (6~10mm) 微量。
- 8 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量、炭化物少量。

B-B' (P 1)

- 1 褐色土 しまり弱く粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 多量、ローム粒 (1~5mm) 微量。
- 2 褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 微量。

C-C' (P 2)

- 1 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 微量。
- 2 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量、ロームブロック (6~10mm)・黒褐色土ブロック (6~30mm) 微量。
- 3 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量。

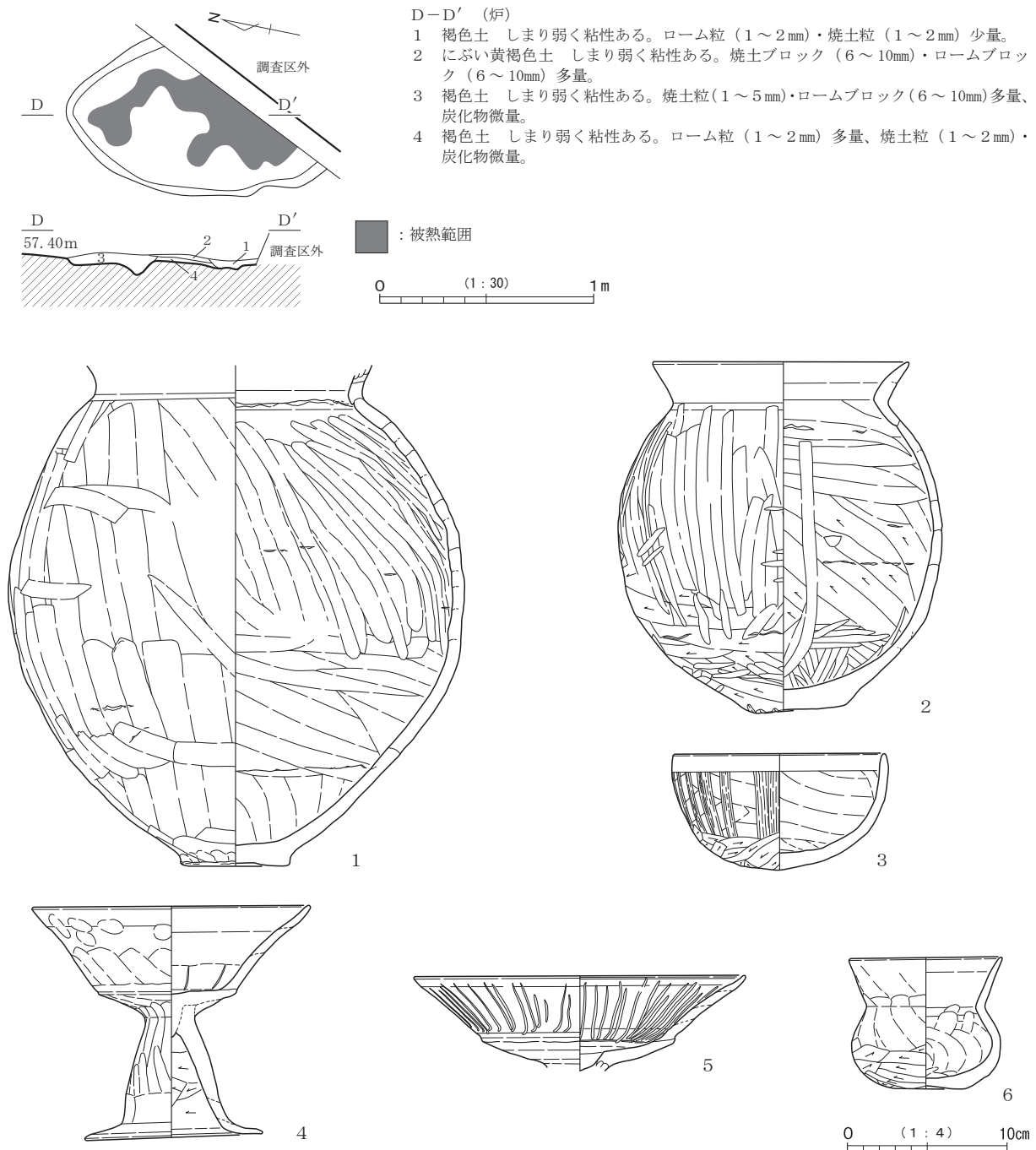
第 38 図 第 39 号住居跡遺構図 (1)

m×0.13 m以上、深さ 0.20 m、P 2 が 0.52 m×0.49 m、深さ 0.69 mである。

炉跡は住居跡の中央と想定される箇所において検出された。南東側は調査区外に範囲がおよぶ。規模は残存長 0.90 m以上×0.69 m、深さ 0.09 mである。底面には被熱痕が認められた。

遺物は、土師器甕・小型甕・甑・壺・鉢・埴・坏・高坏・埴、土製品が覆土中および床面付近から出土した。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から古墳時代中期（5世紀後半）と考えられる。



第 39 図 第 39 号住居跡遺構図 (2)・出土遺物

第 28 表 第 39 号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 甕	A. 口径一、器高 [31.3]、底径 6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面：口縁部ヘラナデ。胴部ヘラナデ→上半ユビナデ。底部ユビナデ。D. 褐色粒・白色粒・輝石・角閃石・小石。E. 外・内面：灰黄褐色。F. 胴部ほぼ完形。G. 胴部外面に黒斑。H. No14。
2	土師器 甕	A. 口径 (15.9)、器高 22.0、底径 6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ヨコナデ。胴部上半ナデ→雑な幅広のミガキ。下半ケズリ→雑なミガキ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部上半ナデ・下半ケズリ→ミガキ。底部ミガキ。D. 褐色粒・白色粒・小石。E. 外面：にぶい褐色、内面：明赤褐色。F. 2/3。G. 胴部外面に煤付着、黒斑。H. No16。
3	土師器 埴	A. 口径 13.1、器高 7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ→縦方向の細い木口状工具のヘラナデ→下半ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。D. 褐色粒・白色粒・石英 (透明)・角閃石・輝石。E. 外面：にぶい褐色、内面：明赤褐色。F. 完形。G. 外面に黒斑。H. No12。
4	土師器 高坏	A. 口径 17.2、器高 14.6、脚端部径 11.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ヨコナデ→下半ヘラナデ。坏部ヘラナデ。脚柱部ミガキ→下端ヘラナデ。脚端部ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ→下端ヘラナデ。坏部ナデ。脚柱部ケズリ。脚端部ナデ→ヨコナデ。D. 白色粒・石英 (透明)・輝石。E. 外面：にぶい赤褐色、内面：赤褐色。F. 口縁部～脚柱部完形、脚端部 3/4。H. No8。
5	土師器 高坏	A. 口径 20.6、器高 [6.0]。B. 粘土紐積み上げ。ほぞ継ぎ接合。C. 内外面：口縁部ヨコナデ→放射状暗文。坏部ナデ。D. 褐色粒・白色粒・石英 (透明)・輝石。E. 外・内面：赤褐色。F. 口縁部～坏部ほぼ完形。H. No1。
6	土師器 埴	A. 口径 (9.5)、器高 8.2、底径 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：口縁部ヘラナデ→ヨコナデ。胴部ナデ→下半ケズリ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ユビナデ。D. 褐色粒・白色粒・石英 (透明)。E. 外面：にぶい赤褐色、内面：黒色。F. 口縁部 3/4、胴部完形。G. 底部外面に黒斑。H. No2。

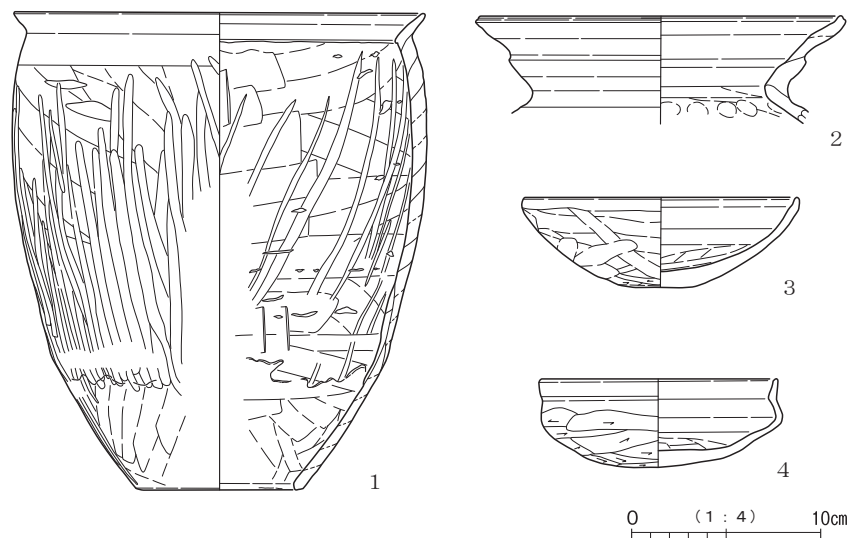
第 40 号住居跡 (第 40・41 図、第 29 表、図版 5・15)

調査区西側中央、X =27690・27695、Y =-59045・-59050 に位置する。第 41・43 号住居跡、第 59 号土坑、第 3 号溝と重複する。出土遺物および切り合い関係から第 41 号住居跡より新しく他より古い。西側は調査区外に範囲がおよぶ。また、カクランにより削平されている箇所が認められた。平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈していたと想定される。規模は北-南が 5.78 m、東-西が 3.39 m 以上を測る。住居跡の主軸方位は N-105° -E を示す。

壁は緩やかに外反して立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.36 m である。壁溝は東壁から南壁にかけて確認された。床面は、ほぼ平坦である。ピットは 2 基 (P 1・2) 検出されており、形状と位置関係を考慮すると

P 2 は主柱穴であった可能性が想定される。規模は P 1 が 0.56 m × 0.46 m、深さ 0.44 m、P 2 が 0.54 m × 0.44 m、深さ 0.70 m である。南東コーナー部では貯蔵穴と考えられる土坑 (D 1) が 1 基検出された。規模は 1.05 m × 0.99 m、深さ 0.22 m である。

カマドは東壁に付設されていたと考えられる。重複する第 3 号溝によりほとん

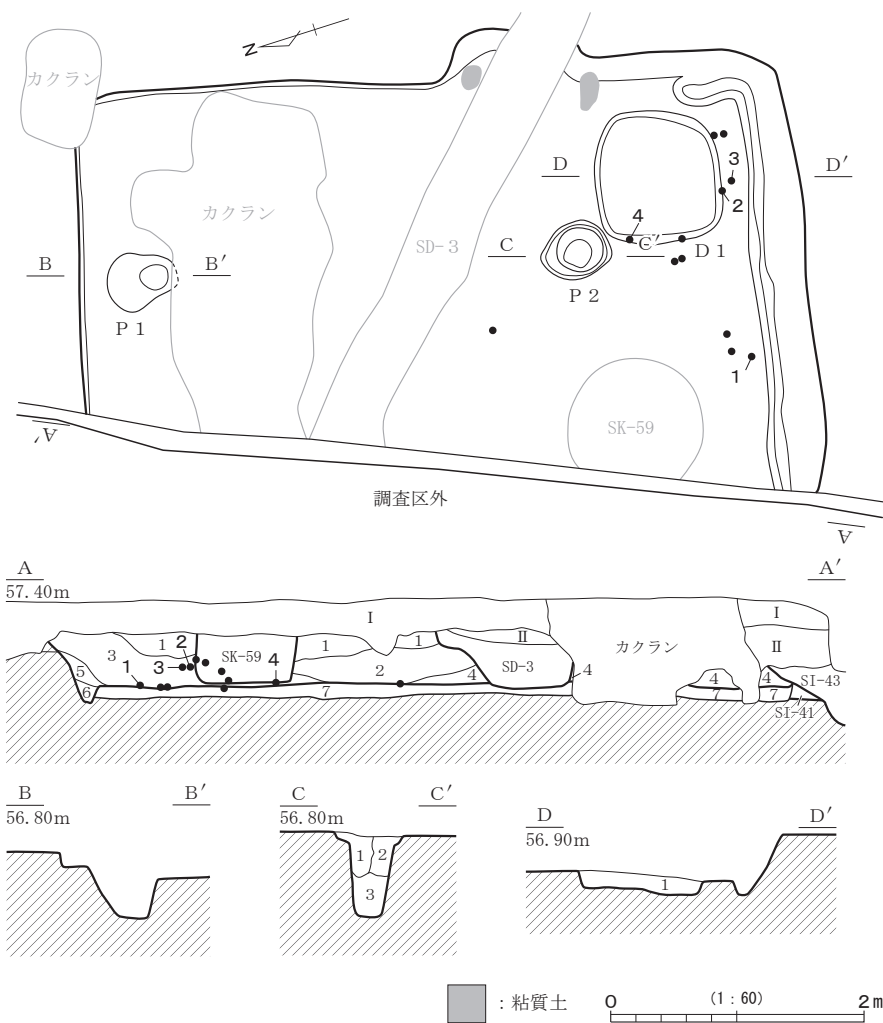


第 40 図 第 40 号住居跡出土遺物

どが削平されていたが、東壁から突出する掘り方とカマド構築材に使用していたと考えられる粘質土が出土した。

遺物は、土師器甕・甑・壺・埴・坏・高坏・埴、土製品が出土している。南壁付近に集中する傾向が看取される。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から古墳時代中期（5世紀後半）と考えられる。



- A-A' 57.40m
- 1 暗褐色土 しまりあり粘性ある。褐色土粒（1～2mm）少量、灰白色土粒（1～2mm）微量。
2 褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒（1～5mm）少量、炭化物（1～2mm）微量。
3 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒（1～5mm）多量、炭化物（1～2mm）少量。
4 褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒（1～5mm）多量。
5 褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒（1～5mm）多量。
6 褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒（1～5mm）・ロームブロック（6～10mm）少量。
7 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）・ロームブロック（6～10mm）多量。
- C-C'（P 2）
- 1 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）少量、灰白色粒（1mm）微量。
2 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）・ロームブロック（6～10mm）微量。
3 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）微量。
- D-D'（D 1）
- 1 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒（1～5mm）少量、ロームブロック（6～10mm）・灰白色粒（1～2mm）・焼土粒（1～2mm）微量。

第 41 図 第 40 号住居跡遺構図

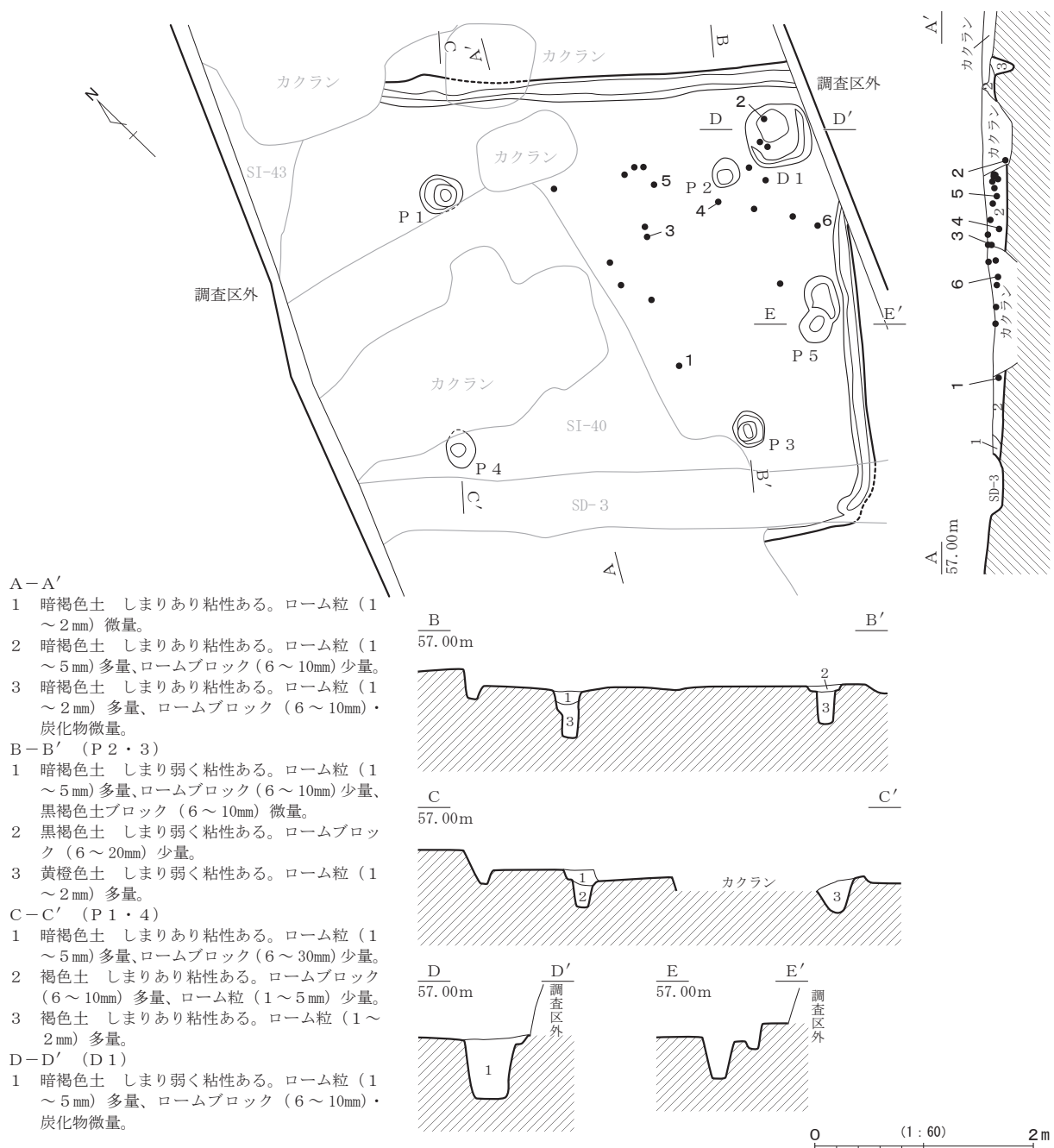
第 29 表 第 40 号住居跡出土遺物観察表

1	土師器甕	A．口径 (21.6)、器高 25.2、底径 (8.0)。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ→縦方向の粗いミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ→縦方向の粗いミガキ。D．褐色粒・白色粒。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．口縁部 1/3。G．外面の一部に煤付着。H.No1・3。
2	土師器壺	A．口径 19.0、器高 [5.7]。B．粘土紐積み上げ。C．外・内面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。D．褐色粒・白色粒・石英（不透明）・片岩・輝石。E．外・内面：にぶい褐色。F．口縁部 3/4。H.No8・9。
3	土師器坏	A．口径 14.4、器高 4.7、底径 4.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ナデ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。D．白色粒・石英（不透明）・輝石。E．外面：赤褐色、内面：にぶい赤褐色。F. 5/6。G．体部内面に布目風の圧痕。H.No10。
4	土師器坏	A．口径 12.4、器高 4.7。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→下半ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。D．赤褐色粒・白色粒・石英（透明）・輝石。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．ほぼ完形。H.No8。

第41号住居跡（第42・43図、第30表、図版5・16）

調査区北西、X =27690～27700、Y =-59045・-59050に位置する。第40・43号住居跡、第3号溝と重複し、出土遺物および切り合い関係から本遺構が最も古い。重複する遺構やカクランによる削平が著しい。東側は調査区外に範囲がおよぶ。平面形は隅丸長方形を呈していたと想定される。規模は北東-南西が5.30 m、北西-南東が4.45 m以上を測る。

壁の立ち上がりは削平が著しく判然としなかった。確認面から床面までの深さは0.30 mである。壁溝は、北東壁と南東壁で確認された。床面はほぼ平坦であった。ピットは5基（P1～5）検出された。位置関係を考慮するとP1～4は支柱穴、P5は出入口施設に伴うピットであった可能性が想定される。規模はP1が0.40 m×0.35 m、深さ0.37 m、P2が0.26 m×0.25 m、深さ0.49



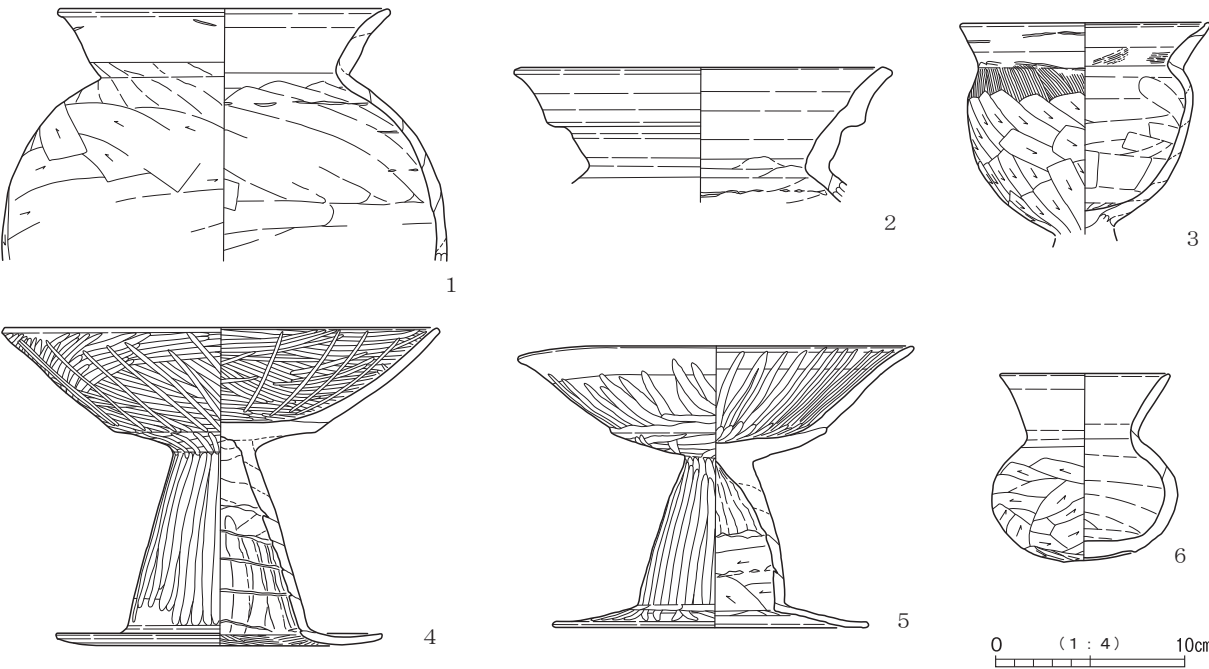
第42図 第41号住居跡遺構図

m、P 3が0.33 m×0.29 m、深さ0.35 m、P 4が0.35 m×0.26 m、深さ0.34 m、P 5が0.62 m×0.28 m、深さ0.37 mである。東コーナーでは貯蔵穴と考えられる土坑（D 1）が検出された。規模は0.58 m×0.58 m、深さ0.59 mである。

カマドないし炉については検出されなかった。

遺物は、土師器甕・壺・埴・高坏・埴が覆土中から出土した。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から古墳時代中期（5世紀後半）と考えられる。



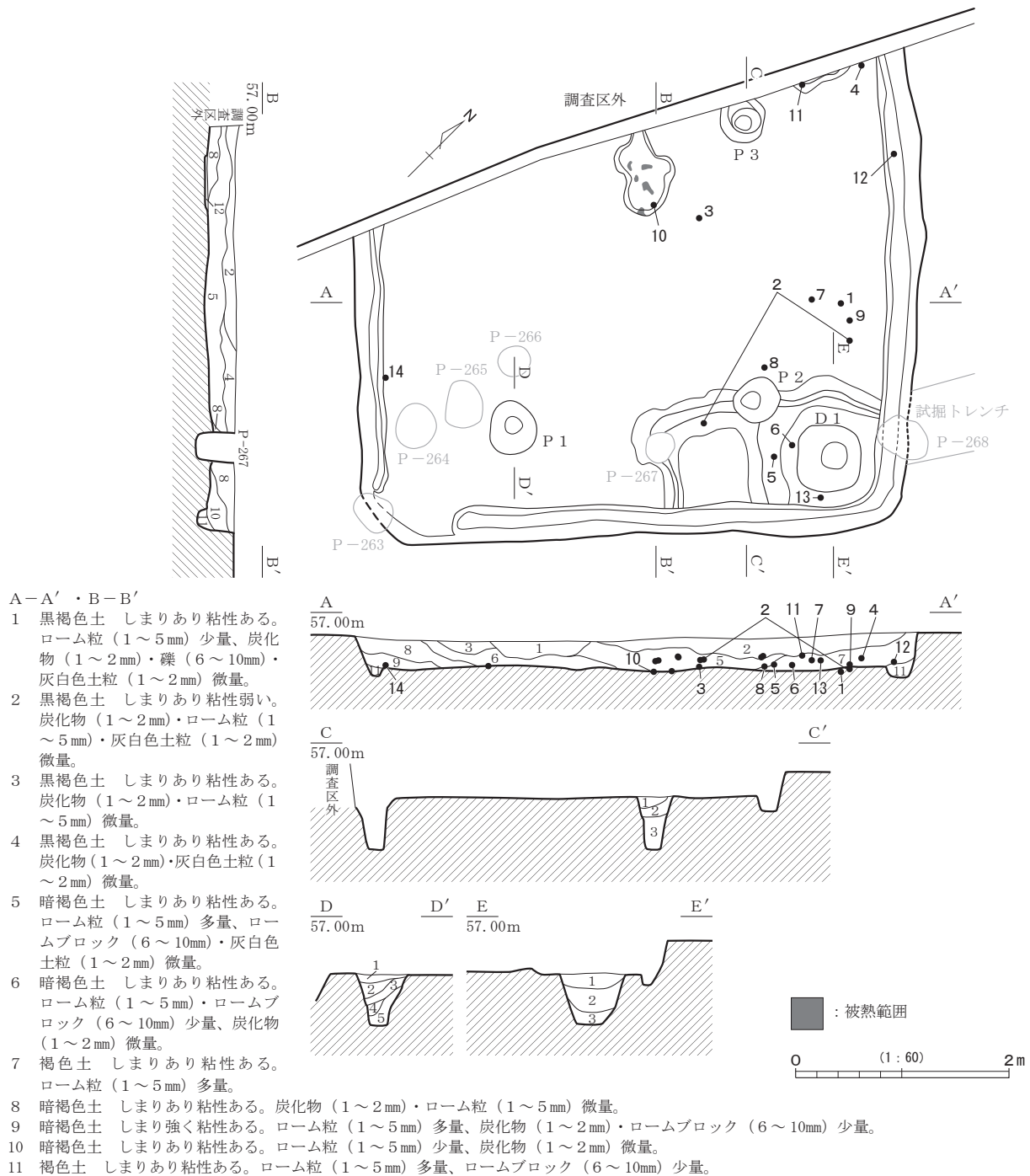
第 43 図 第 41 号住居跡出土遺物

第 30 表 第 41 号住居跡出土遺物観察表

1	土師器甕	A．口径 17.2、器高 [13.3]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→上半ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。D．褐色粒・白色粒・石英（透明）・輝石。E．外面：黒褐色、内面：にぶい黄橙色。F．口縁部完形。胴部上半 2/3。G．胴部外面に黒斑。外面煤付着。H．No21。
2	土師器壺	A．口径 19.0、器高 [7.1]。B．粘土紐積み上げ。C．外・内面：口縁部～頸部ヨコナデ。胴部ナデ。D．白色粒・石英（透明）。E．外面：淡橙色、内面：にぶい黄褐色。F．口縁部ほぼ完形。G．内外面煤付着。H．No10。
3	土師器台付甕	A．口径 (13.2)、器高 [11.2]。B．粘土紐積み上げ。台部接合→底部充填。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ→下半ケズリ。内面：口縁部ハケ→ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部放射状のユビナデ。D．褐色粒・白色粒・石英（透明）。E．外面：にぶい赤褐色、内面：黒褐色。F．口縁部 1/2 弱、胴部 3/4、台部欠損。H．No16。
4	土師器高坏	A．口径 22.9、器高 16.8、脚端部径 13.0。B．粘土紐積み上げ（脚部巻き上げ）。C．外面：口縁部ハケ→ミガキ→放射状暗文。坏部ナデ→放射状暗文。脚柱部ナデ→ミガキ。脚端部ハケ→下端ヨコナデ。内面：口縁部ハケ→ミガキ→放射状暗文。坏部ミガキ。脚柱部ナデ。脚端部ハケ。D．褐色粒・白色粒・雲母粒。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．口縁部 1/2、脚柱部 3/4、脚端部 1/4。G．内外面に黒斑。H．No5・7・8。
5	土師器高坏	A．口径 20.8、器高 14.8、脚端部径 (16.7)。B．粘土紐積み上げ（脚部輪積み）。C．外面：口縁部上半ヨコナデ・下半ナデ→ミガキ。坏部～脚柱部ナデ→ミガキ。脚端部ヨコナデ→粗いミガキ。内面：口縁部ヨコナデ→放射状暗文。坏部ミガキ。脚柱部シボリ→ナデ→下半ケズリ。脚端部ヘラナデ→ヨコナデ。D．褐色粒・白色粒・石英（透明）・角閃石・輝石。E．外面：にぶい赤褐色、内面：赤褐色。F．口縁部 3/4、脚端部 1/2。H．No12・14。
6	土師器小形壺	A．口径 (9.0)、器高 9.9、底径 3.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→下半ケズリ。底部：ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ナデ。D．白色粒・石英（透明）・角閃石。E．外・内面：にぶい褐色。F．ほぼ完形。G．胴部外面煤付着。H．No1・2。

第 42 号住居跡（第 44～46 図、第 31・32 表、図版 5・16・17）

調査区西側、X =27685・27690、Y =-59050・-59055 に位置する。P-264～268 と重複し、切り合い関係から本遺構が最も古い。北西側は調査区外に範囲がおよぶ。平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形と想定される。規模は北西-南東が 4.38 m 以上、北東-南西が 5.39 m を測る。住居跡の主軸方位は N-45°-W を向いている。壁は外反しながら立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.33 m である。壁溝は一部を除いて確認されている。床面はやや凹凸が認められた。ローム面を床としており、部分的に締まりが認められた。ピットは 3 基（P1～3）検出されており、位置関係



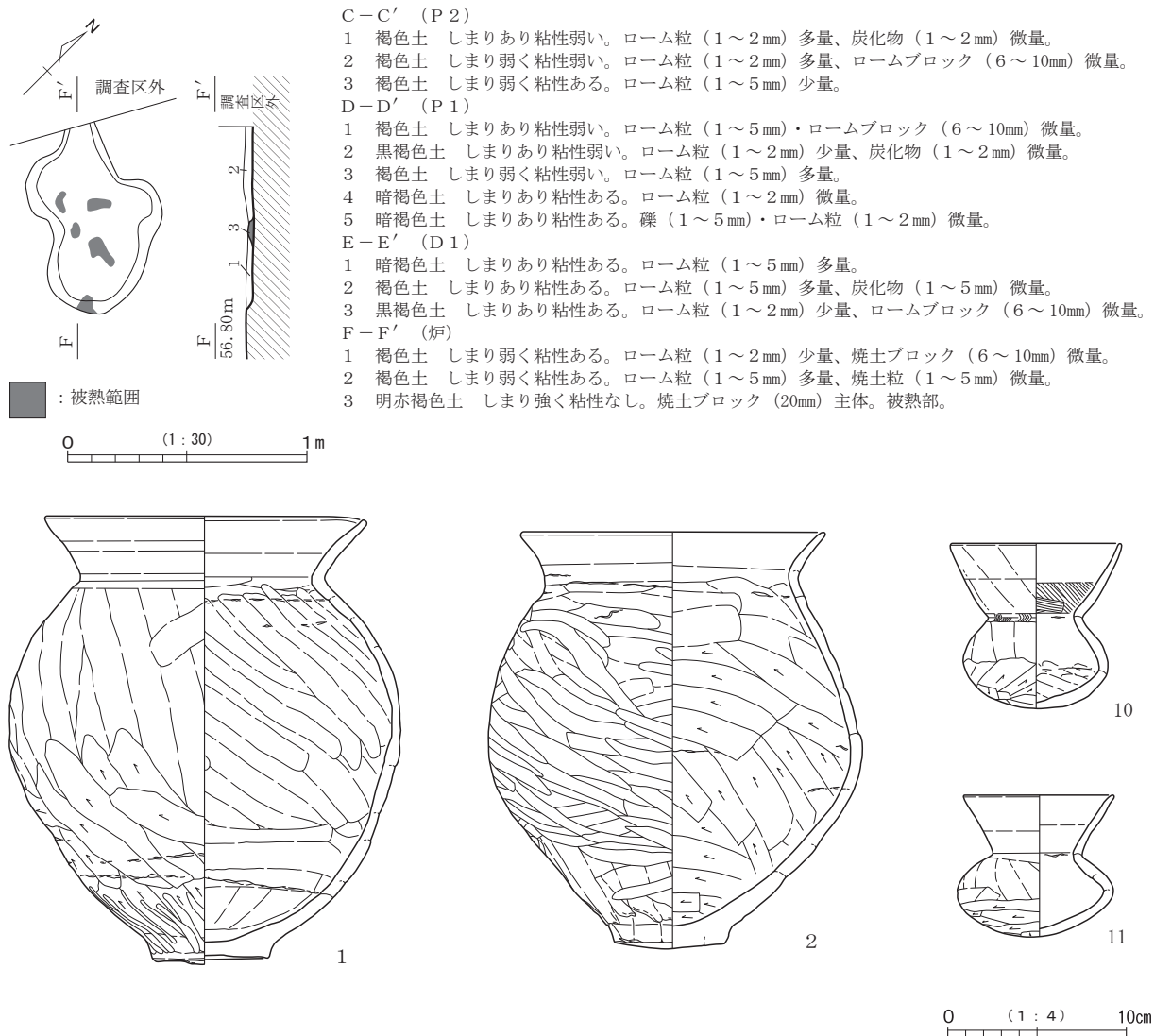
第 44 図 第 42 号住居跡遺構図（1）

を考慮すると支柱穴と考えられる。規模はP 1が0.50 m×0.43 m、深さ0.59 m、P 2が0.43 m×0.39 m、深さ0.61 m、P 3が0.44 m×0.38 m以上、深さ0.47 mである。東コーナーでは貯蔵穴と考えられる土坑（D 1）が1基検出された。規模は0.63 m×0.59 m、深さ0.47 mである。また、D 1の周囲には土手状の高まりが検出された。床面からの比高差は最大で0.12 mを測る。その他、これと同様の土手状の高まりで隅丸長方形上に区画された箇所がD 1南西側において検出された。同様の施設は他遺跡の調査事例でも散見されるが、出入口に伴う施設である可能性が指摘されている。

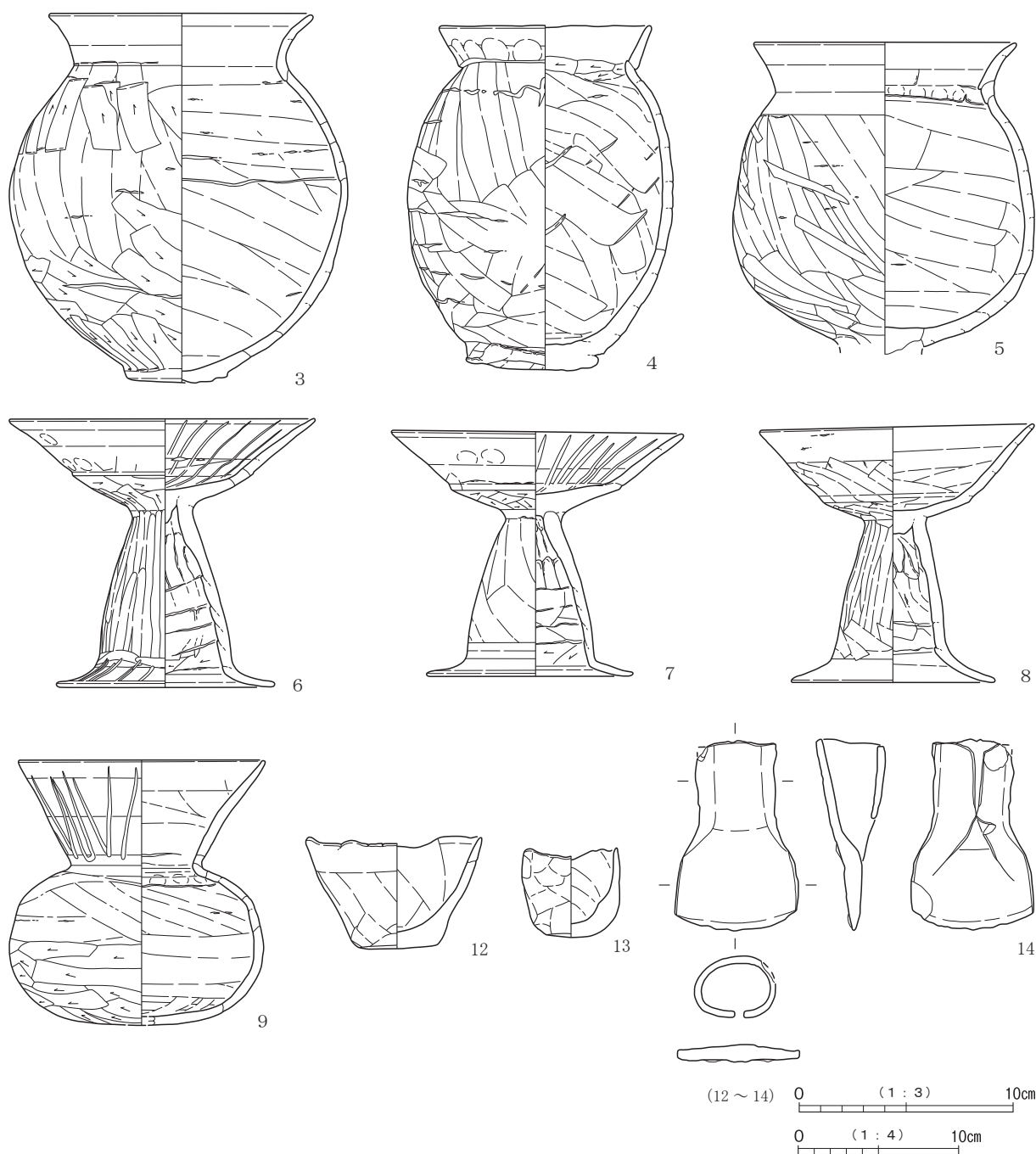
炉は住居跡中央やや北西寄りで検出された。平面形は不整形で底面には部分的ではあるが被熱痕が認められた。規模は0.80 m以上×0.55 m、深さ0.05 mである。

遺物は、土師器甕・小型甕・台付甕・壺・高坏・埴・坏、須恵器坏・高台付埴、手捏土器、石製品、鉄製品が出土した。覆土中からの出土が大半である。住居跡東側に集中する傾向が見受けられた。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から古墳時代中期（5世紀後半）と考えられる。



第45図 第42号住居跡遺構図（2）・出土遺物（1）



第 46 図 第 42 号住居跡出土遺物（2）

第 31 表 第 42 号住居跡出土遺物観察表（1）

1	土師器 甕	A．口径 17.8、器高 25.0、底径 6.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面：縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ→中位ケズリ、下半雑なミガキ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ→上半ユビナデ。D．白色粒・長石・輝石・赤色粒。E．外面：黄褐色、内面：にぶい褐色。F．ほぼ完形。G．胴部外面煤付着。口縁部・胴部外面黒斑。H．No6、4 区。
2	土師器 甕	A．口径 16.8、器高 23.3、底径 6.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→ミガキ。底部ケズリ→ミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。D．長石・白色粒・石英。E．外面：黒褐色、内面：にぶい褐色。F．ほぼ完形。G．外面煤付着。H．No8・17、1 区、4 区。
3	土師器 甕	A．口径 16.2、器高 23.0、底径 6.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ→雑なケズリ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。D．長石・白色粒・黒色粒・石英・輝石。E．外面：灰褐色、内面：にぶい褐色。F．ほぼ完形。G．外面黒斑あり。外面吹きこぼれ痕顕著。H．No21。

第 32 表 第 42 号住居跡出土遺物観察表（2）

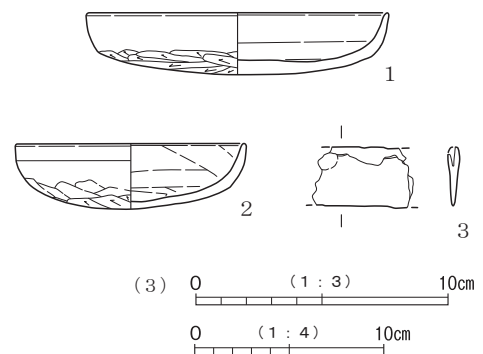
4	土師器 甕	A．口径 13.0、器高 21.5、底径 8.2。B．粘土紐輪積み。C．外面：口縁部ヨコナデ→下半ユビオサエ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。D．長石・白色粒・石英・雲母。E．外面：褐灰色、内面：にぶい黄褐色。F．ほぼ完形。G．胴部外面に黒斑。外面及び口縁部内面煤付着。外面下端に布目風の圧痕。H．No1。
5	土師器 台付甕	A．口径 16.2、器高 [19.4]、底径 -。B．粘土紐積み上げ→底部充填（ホゾ）。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→ヘラナデ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。D．白色粒・石英（不透明）・輝石・小石。E．外面：黒褐色、内面：にぶい黄褐色。F．口縁部～胴部ほぼ完形。台部欠損。G．口縁～胴部上半煤付着。H．No11。
6	土師器 高坏	A．口径 19.0、器高 16.7、脚端部径 13.3。B．粘土紐積み上げ（脚部輪積み）。ほぞ継ぎ接合。C．外面：口縁部ヨコナデ。坏部ケズリ。脚柱部ミガキ。脚端部ヨコナデ→放射状暗文。内面：口縁部～坏部ナデ→放射状暗文。脚柱部シボリ→ナデ→下端ケズリ。脚端部ヨコナデ。D．白色粒・石英・輝石・長石。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．口縁部 1/2。G．外面煤付着。H．No10・15、4 区。
7	土師器 高坏	A．口径 18.0、器高 15.3、脚端部径 12.5。B．粘土紐積み上げ（脚部輪積み）。ほぞ継ぎ接合。C．外面：口縁部ナデ→上半ヨコナデ。坏部ケズリ。脚柱部丁寧なヘラナデ。脚端部ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ・坏部ナデ→放射状暗文。脚柱部シボリ→ナデ→下端ケズリ。脚端部ヨコナデ。D．石英・白色粒・輝石・長石。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．口縁部ほぼ完形。脚端部 1/2。G．外面煤付着。H．No4・5。
8	土師器 高坏	A．口径 16.9、器高 16.1、脚端部径 12.7。B．粘土紐積み上げ。ほぞ継ぎ接合。C．外面：口縁部上半ヨコナデ。下半～坏部ナデ→ヘラナデ。脚柱部ミガキ→下端ヘラナデ。脚端部ヨコナデ。内面：口縁部上半ヨコナデ、下半～坏部ヘラナデ。脚柱部シボリ→ユビナデ。脚端部ヨコナデ。D．白色粒・長石・石英・黒色粒。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．口縁部 3/4。脚部完形。H．No9。
9	土師器 壺	A．口径 15.2、器高 [16.5]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ→放射状暗文。体部ナデ→下半ケズリ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビナデ。底部ナデ。D．石英・白色粒・輝石・長石。E．外面：赤褐色、内面：明赤褐色。F．口縁部完形。胴部 1/2。G．外面煤付着。H．No7、4 区。
10	土師器 埴	A．口径 9.4、器高 9.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ハケ→ヨコナデ。体部上半ハケ→ナデ、下半ケズリ。内面：口縁部ハケ→上半ヨコナデ。体部ユビナデ。D．長石・石英・白色粒・黒色粒。E．外面：にぶい赤褐色、内面：赤褐色。F．完形。H．No22。
11	土師器 埴	A．口径 8.3、器高 7.9。B．粘土紐輪積み。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、下半ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビナデ→ナデ。D．白色粒、長石、輝石、石英。E．外・内面：褐色。F．完形。G．体部外面に黒斑。H．No2。
12	土師器 鉢	A．口径 8.0、器高 5.2、底径 3.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。D．白色粒・黒色粒・石英。E．外面：黄灰色、内面：灰褐色。F．ほぼ完形。G．体部外面に黒斑。H．No3。
13	ミニチュ ア土器	A．口径 4.2、器高 4.2、底径 2.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部～底部ナデ。内面：口縁部～底部ユビナデ。D．長石・白色粒・石英。E．外・内面：褐灰色。F．ほぼ完形。H．No13。
14	袋状鉄斧	A．全長 8.9、袋部上端幅 3.7、肩部幅 5.0、刃部幅 5.7、袋部厚み 0.35、重さ 139.85。B．鍛造（身部と袋部は一体作りと思われる）。D．鉄製。F．完形。H．No25。

第 43 号住居跡（第 47・48 図、第 33 表、図版 6・17）

調査区西側中央、X =27695・27700、Y =-59045・-59050 に位置する。第 40・41 号住居跡と重複し、出土遺物および切り合い関係から本遺構が最も新しい。西側は調査区外に範囲がおよぶ。また、カクランによる削平を著しく受けていた。規模は北東－南西が 2.39 m 以上、北西－南東が 1.34 m 以上を測る。住居跡の主軸方位は N－53°－E を示す。

壁は緩やかに外反しながら立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.48 m である。壁溝は調査範囲においては検出されなかった。床面はほぼ平坦であった。支柱穴・貯蔵穴は調査範囲内では検出されなかった。

カマドは北東壁に付設されていた。規模は最大長 1.23

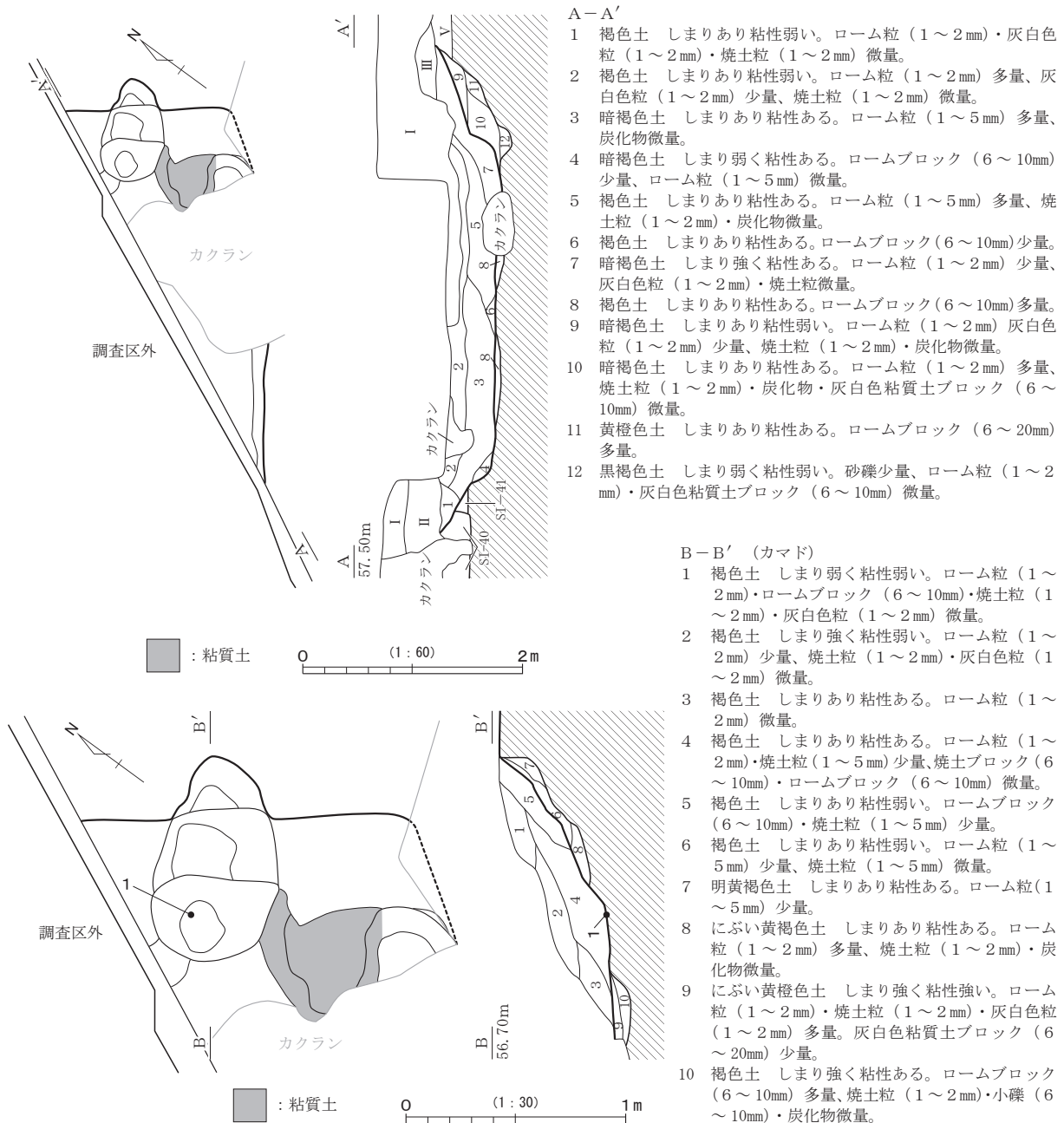


第 47 図 第 43 号住居跡出土遺物

第Ⅲ章 検出された遺構と遺物

m、掘り方から想定される燃焼室幅は0.50 mである。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から奈良時代（8世紀後半）と考えられる。



第 48 図 第 43 号住居跡遺構図

第 33 表 第 43 号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 杯	A．口径 15.8、器高 3.3、底径 14.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。D．長石・輝石・石英・白色粒。E．外面：にぶい褐色、内面：暗褐色。F．完形。G．焼成時の亀裂あり。内外面黒色処理か。H．カマド No1。
2	土師器 杯	A．口径 12.0、器高 3.5。底径－。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→下半ヘラナデ。底部ケズリ。内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。D．白色粒・長石・黒色粒・輝石。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．ほぼ完形。G．外面に黒斑。H．No1。
3	鉄製品	A．長さ [4.0]、幅 2.3、厚さ 0.5、重さ 4.29。B．鍛造。D．鉄製。F．破片。G．刀子？。H．覆土。

第44号住居跡（第49・50図、第34・35表、図版6・18）

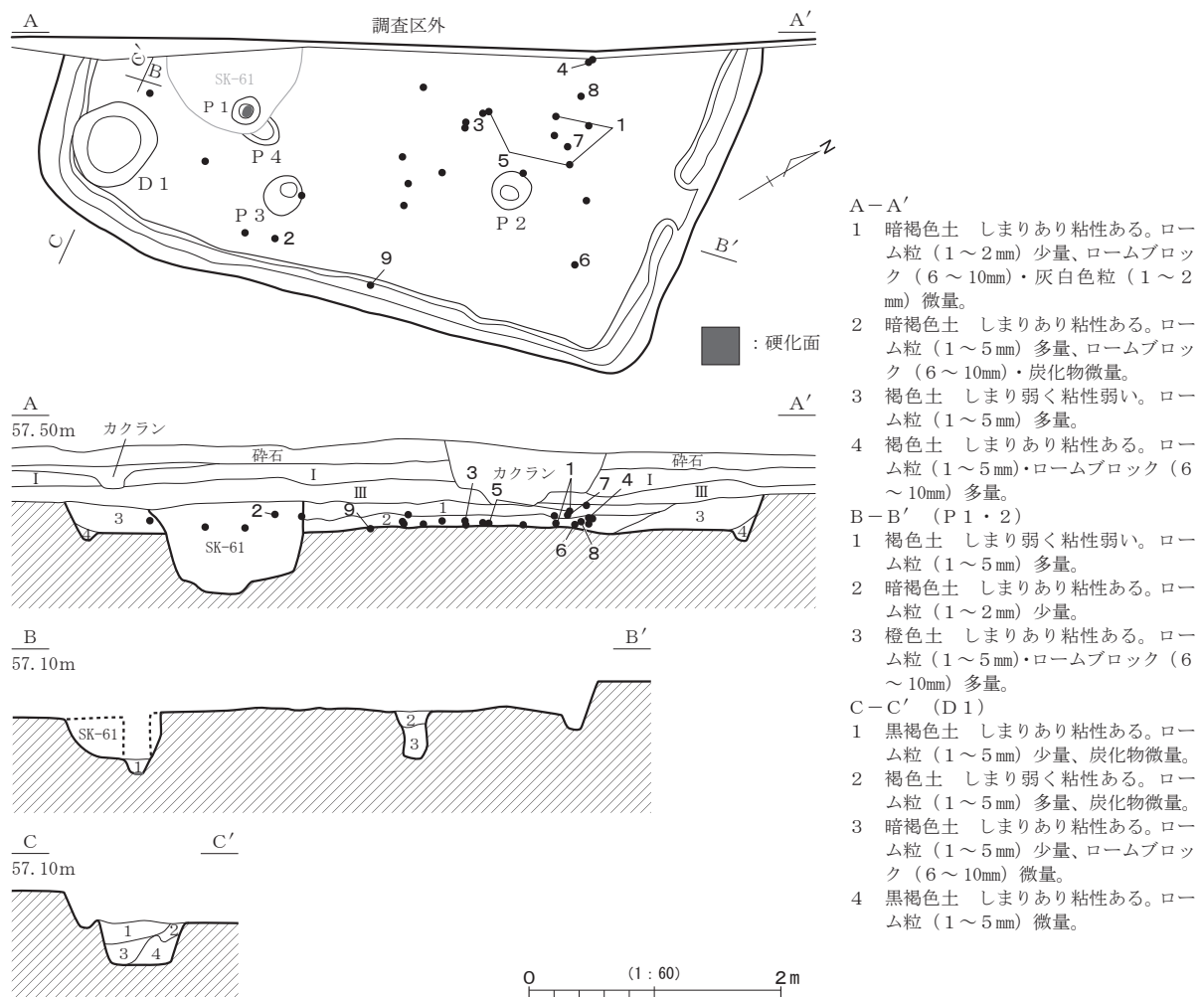
調査区南側、X =27655・27660、Y =-59055・-59060 に位置する。第61号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。北西側は調査区外に範囲がおよぶ。平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈していたと想定される。北東-南西が5.21 m、北西-南東が2.69 m以上を測る。

壁は外反気味に立ち上がる。確認面から床面までの深さは0.32 mである。壁溝は北東壁で一部途切れるが他は調査した範囲においては全周していた。床面はやや凹凸が認められ、ローム面を床面としていた。ピットは4基（P1～4）検出された。位置関係を考慮するとP1・2は支柱穴と考えられる。P1の底面には柱の荷重により生じたと考えられる硬化面が検出された。規模はP1が0.23 m×0.21 m、深さ0.49 m、P2が0.32 m×0.30 m、深さ0.46 m、P3が0.32 m×0.29 m、深さ0.38 m、P4が0.24 m×0.16 m以上、深さ0.16 mである。南コーナーでは貯蔵穴と考えられる土坑（D1）が検出された。規模は0.70 m×0.63 m、深さ0.36 mである。

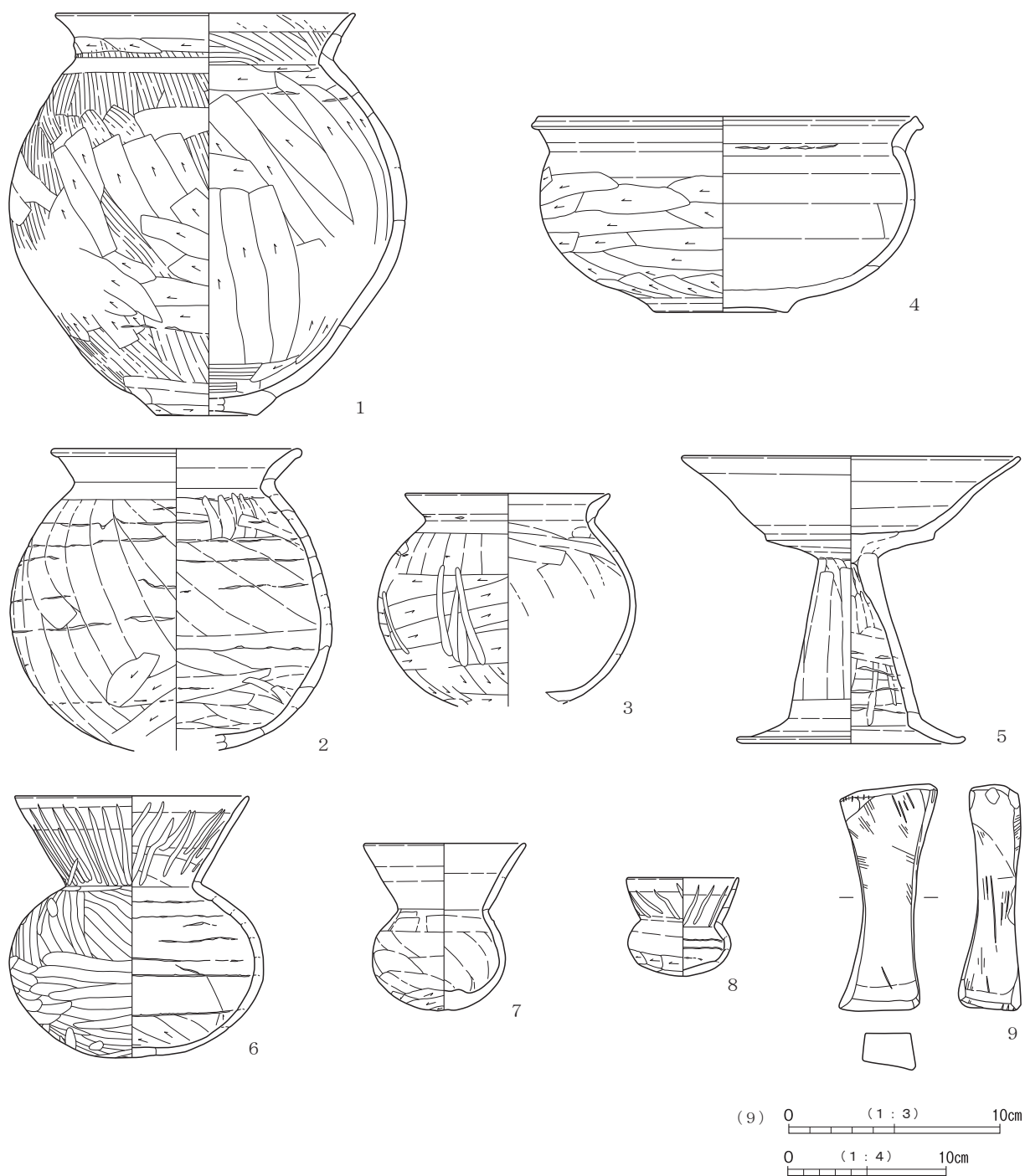
調査した範囲においてカマドまたは炉等の施設は確認されなかった。

遺物は、土師器甕・小型甕・甑・壺・鉢・埴・坏・高坏・埴、土製品、石製品が覆土下層から床面において出土している。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から古墳時代中期（5世紀後半）と考えられる。



第49図 第44号住居跡遺構図



第 50 図 第 44 号住居跡出土遺物

第 34 表 第 44 号住居跡出土遺物観察表（1）

1	土師器 甕	A．口径 (18.8)、器高 25.4、底径 (6.4)。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ→下半ケズリ。胴部ハケ→中位ケズリ。底部ケズリ。内面：口縁部ハケ→上半ヨコナデ。胴部ケズリ。底部ハケ→ナデ。D．白色粒・石英・長石。E．外面：灰褐色、内面：にぶい褐色。F．1/2 弱。G．外面黒斑、煤付着。H．No15・18、一括。
2	土師器 甕	A．口径 15.4、器高 [19.0]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ→下半部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ→部分的なケズリ。D．長石・石英・白色粒・黒色粒・輝石。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F．1/2。G．胴部外面に黒斑。H．No3。

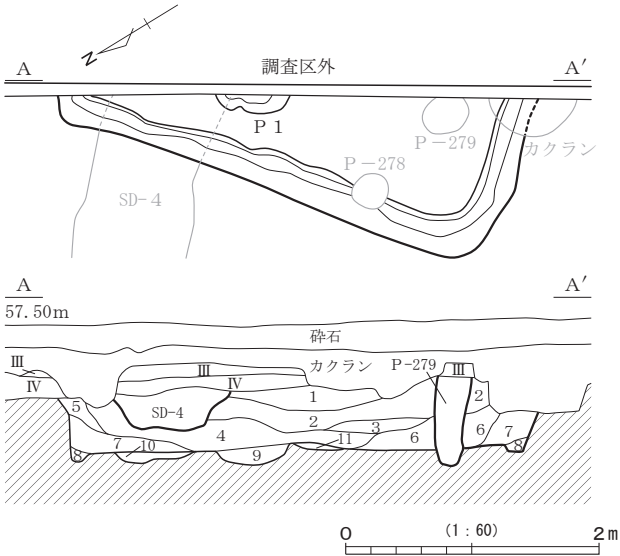
第 35 表 第 44 号住居跡出土遺物観察表（2）

3	土師器 小形甕	A．口径 12.7、器高 [13.4]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ→下半ケズリ。内面：口縁部ナデ→上半ヨコナデ。胴部ナデ→上半ヘラナデ。D．長石・石英・白色粒・輝石・凝灰岩。E．外面：灰褐色、内面：褐色。F．口縁部ほぼ完形。胴部 1/2。G．外面上半及び口縁部内面煤付着。H．No10。
4	土師器 大形鉢	A．口径 (23.8)、器高 12.4、底径 8.4。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→下半ケズリ。底部ミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。D．石英・赤色粒・長石・黒色粒・輝石。E．外面：にぶい黄褐色、内面：にぶい褐色。F．口縁部 1/3。胴部 1/2。G．外面黒斑。内面底部～胴部下半斑点状剥離顕著。H．No21。
5	土師器 高坏	A．口径 (21.0)、器高 18.1、脚端部径 13.8。B．粘土紐積み上げ（脚部巻き上げ。ほぞ継ぎ接合。C．外面：口縁部ヨコナデ。坏部ナデ→上半ヨコナデ。脚柱部ヘラナデ→ミガキ。脚端部ヨコナデ。内面：口縁部ナデ→上半ヨコナデ。坏部ナデ。脚柱部シボリ→ナデ。脚端部ヨコナデ。D．石英・白色粒・輝石・長石。E．外・内面：明赤褐色。F．口縁部 1/3。脚端部 2/3。H．No11・15、一括。
6	土師器 壺	A．口径 14.8、器高 16.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ナデ→上半ヨコナデ→放射状暗文。体部ケズリ→ミガキ。内面：口縁部ヘラナデ→上半ヨコナデ→放射状暗文。体部上半ナデ、下半ケズリ。D．白色粒・石英・輝石・長石・凝灰岩。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．ほぼ完形。G．外面に黒斑。H．No13。
7	土師器 埴	A．口径 10.0、器高 10.6。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ→下半ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ユビナデ。D．長石・石英・白色粒・輝石。E．外面：赤褐色、内面：にぶい赤褐色。F．完形。G．外面に黒斑。H．No16。
8	土師器 埴	A．口径 7.0、器高 6.2。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ハケ→ヨコナデ→放射状暗文。体部ナデ→下半ケズリ。内面：口縁部内面ヨコナデ→放射状暗文。体部ナデ。D．長石・石英・輝石・白色粒・赤色粒。E．外・内面：褐色。F．完形。G．外面被熱。H．No19。
9	砥石	A．長さ 10.8、最大幅 4.6、厚さ 3.0、重さ 126.57。D．砥沢石。E．白色。F．完形。G．表裏面両側面良く研磨される。刃痕・擦痕あり。H．No22。

第 45 号住居跡（第 51 図、図版 6）

調査区南西、X =27675、Y =-59045 に位置する。第 4 号溝跡、P－278・279・288 と重複し、切り合い関係から P－278・279 より古く、P－288 より新しい。南東側は調査区外に範囲がおよぶ。規模は北東－南西が 3.19 m 以上、北西－南東が 1.32 m 以上である。

壁は外反気味に立ち上がる。確認面から床面までの深さは 0.41 m である。壁溝は調査した範囲においては全周していた。床面はやや凹凸が認められた。ピットは 1 基（P 1）検出されたが南東側は調査区外に範囲がおよ



- A-A'
- | | | | |
|--------|---|---------|------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）少量。 | 7 黒褐色土 | しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）微量。 |
| 2 暗褐色土 | しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）・炭化物・灰白色粒（1～2mm）微量。 | 8 黒褐色土 | しまり弱く粘性ある。ロームブロック（6～10mm）少量。 |
| 3 暗褐色土 | しまり弱く粘性ある。ローム粒（1～5mm）多量、焼土粒（1～2mm）・炭化物・灰白色粒（1～2mm）微量。 | 9 暗褐色土 | しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）多量、ロームブロック少量。 |
| 4 暗褐色土 | しまり弱く粘性ある。ローム粒（1～5mm）多量、ロームブロック（6～10mm）少量、炭化物・灰白色粒（1～2mm）微量。 | 10 黄橙色土 | しまりあり粘性ある。ロームブロック（6～30mm）多量。 |
| 5 暗褐色土 | しまりあり粘性ある。ロームブロック（6～10mm）少量。 | 11 黄橙色土 | しまりあり粘性ある。ロームブロック（6～20mm）多量。 |
| 6 暗褐色土 | しまりあり粘性ある。ローム粒（1～5mm）多量、ロームブロック（6～10mm）・焼土粒（1～2mm）・炭化物・灰白色粒（1～2mm）微量。 | | |

第 51 図 第 45 号住居跡遺構図

んでいる。規模は 0.59 m×0.13 m 以上、深さ 0.14 m である。

カマドは調査範囲においては検出されなかった。

遺物は、土師器甕、須恵器坏が覆土中から出土している。

本住居跡の帰属時期は、遺構の重複関係や出土遺物の様相から平安時代（9 世紀後半）と考えられる。

2. 土 坑

第 44 号土坑（第 52 図）

X =27670、Y =-59035 に位置する。第 28 号住居跡、第 2 号不明遺構と重複し、切り合い関係から本遺構が最も新しい。平面形は隅丸長方形、断面形状は箱状を呈する。規模は 1.08 m×0.78 m、深さ 0.15 m を測る。覆土はローム粒・As-B を含む褐灰色土を主体としている。遺物は土師器甕・坏、須恵器甕が覆土中より僅かに出土した。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土に As-B を含むことから As-B 降下以降に帰属するものと考えられる。

第 45 号土坑（第 52 図）

X =27675、Y =-59015 に位置する。重複は認められなかったが、試掘トレンチにより西側は削平されていた。平面形および断面形状については不明である。規模は 0.95 m×0.40 m 以上・深さ 0.22 m を測る。覆土は焼土粒・ローム粒・灰白色土粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物は土師器坏片が覆土中から僅かに出土した。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。

第 46 号土坑（第 52・56 図、第 36 表、図版 6・18）

X =27675、Y =-59015 に位置する。重複は認められなかったが、試掘トレンチにより西側は削平されていた。平面形および断面形状については不明である。規模は 1.38 m×0.60 m 以上・深さ 0.25 m を測る。底面は二段に掘り窪められていた。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒褐色土・にぶい黄褐色土を主体としている。遺物は土師器坏片が出土した（第 56 図 46 土 1・2）。本土坑は出土遺物から奈良時代（8 世紀後半）に帰属するものと考えられる。

第 47 号土坑（第 52 図）

X =27680、Y =-59015 に位置する。重複は認められなかったが、試掘トレンチにより西側は削平されていた。平面形および断面形状については不明である。規模は 0.64 m×0.32 m 以上・深さ 0.20 m を測る。覆土はにぶい黄褐色土ブロック・焼土粒・炭化物・灰白色土粒を含む黒褐色土・にぶい黄褐色土を主体としている。遺物は土師器甕胴部片が 1 点出土したのみである。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。

第 48 号土坑（第 52 図）

X =27685、Y =-59010 に位置する。重複は認められなかったが、試掘トレンチにより西側は削平されていた。規模は 1.15 m×0.73 m 以上・深さ 0.30 m を測る。覆土は焼土粒・炭化物・ロームブロック・灰白色土粒を含むにぶい黄褐色土・暗褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・坏が覆土中から僅かに出土した。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。

第 49 号土坑（第 52・56 図、第 36 表、図版 18）

X =27675、Y =-59015 に位置する。第 30 号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。東側は一部調査区外に範囲がおよぶ。平面形はやや不整形な楕円形、断面形状は逆台形状を呈する。規模は 0.95 m×0.90 m、深さ 0.50 m を測る。覆土はローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化物を含む黒褐色土・明黄褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・坏、鉄製品が覆土上層から出土した（第 56 図 49 土 1・2）。本土坑は出土遺物から奈良時代（8 世紀後半）に帰属するものと考えられる。

第 50 号土坑（第 52 図）

X =27695、Y =-59005 に位置する。第 31 号住居跡、第 66 号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が最も新しい。平面形および断面形状については不明である。規模は 0.84 m×0.50 m 以上・深さ 0.26 m を測る。覆土は、焼土粒・灰白色土粒を含む灰黄褐色土を主体としている。遺物は、出土しなかった。出土遺物がないため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。

第 51 号土坑（第 52 図）

X =27700、Y =-59015 に位置する。第 52 号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。形態は、平面形は円形を呈していたと想定される。断面形状は不明である。規模は 1.16 m×0.80 m、深さ 0.28 m を測る。覆土は、ローム粒・にぶい黄褐色土ブロックを含む暗褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・坏が覆土中から僅かに出土した。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。

第 52 号土坑（第 53・56 図、第 36 表、図版 6・19）

X =27700、Y =-59015 に位置する。第 51 号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。また、北東側は調査区外に範囲がおよぶ。平面形は不明、断面形状は不整形な逆台形状を呈する。規模は 1.76 m 以上×0.75 m 以上・深さ 0.80 m を測る。覆土は、ローム粒・ロームブロック・焼土粒を含む黒褐色土・暗褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・壺・坏が覆土下層から出土した（第 56 図 52 土 1～3）。本土坑は出土遺物から古墳時代中期（5 世紀後半）に帰属するものと考えられる。

第 53 号土坑（第 52 図）

X =27700、Y =-59015 に位置する。重複は認められなかった平面形はやや不整形な円形、断面形

状は逆台形状を呈している。規模は0.97 m×0.94 m、深さ0.52 mを測る。覆土は、ローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・坏・高坏が覆土中から僅かに出土した。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土にAs-Bを含まないことからAs-B降下以前に帰属するものと考えられる。

第54号土坑（第53・56図、第36表、図版19）

X=27700、Y=-59010に位置する。重複は認められなかったが、北東部は調査区外に範囲がおよぶ。平面形および断面形状については不明である。規模は1.87 m以上×1.20 m以上・深さ0.84 mを測る。覆土はローム粒・ロームブロック・焼土粒を含む黒褐色土・暗褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・鉢・坏、須恵器甕・高台付碗が覆土中から僅かに出土した（第56図54土1）。本土坑は出土遺物から奈良時代（8世紀）に帰属するものと考えられる。なお本土坑は形状や軸方位の傾きが住居跡と類似することから、住居跡の可能性も想定される。

第55号土坑（第54・56図、第36・37表、図版6・7・19）

X=27695・27700、Y=-59015・59020に位置する。重複は認められなかった。平面形は隅丸長方形、断面形状は箱状を呈する。規模は3.25 m×2.10 m以上・深さ1.10 mを測る。覆土は、ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化物を含む黒褐色土・にぶい黄褐色土・暗褐色土が混在しており人為埋没と想定される。遺物は土師器甕・壺・碗・坏・高坏・埴、須恵器甕、手捏ね土器が覆土中から出土した（第56図55土1～5）。本土坑は出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）に帰属するものと考えられる。なお本土坑と同規模・同形状で埋没土に焼土を含む土坑が当該期の他遺跡の調査事例においても散見されることは留意される。

第56号土坑（第53図）

X=27705・27710、Y=-59035に位置する。重複は認められなかった。平面形は不整形な楕円形、断面形状は不整形な逆台形状を呈する。規模は1.25 m×0.62 m、深さ0.47 mを測る。覆土はローム粒・灰白色土粒を含むにぶい黄褐色土・黒褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・坏が覆土中から僅かに出土した。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土にAs-Bを含まないことからAs-B降下以前に帰属するものと考えられる。

第57号土坑（第53図）

X=27705・07710、Y=-59040に位置する。第37号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。平面形はやや不整形な隅丸長方形、断面形状は箱状を呈する。規模は2.25 m×1.05 m、深さ0.68 mを測る。覆土は、ローム粒・ロームブロック・灰白色土粒を含む黒褐色土・褐色土を主体としている。遺物は出土しなかった。出土遺物がないため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土にAs-Bを含まないことからAs-B降下以前に帰属するものと考えられる。

第58号土坑（第53図）

X=27700、Y=-59040・-59045に位置する。第39号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構

が新しい。東側は調査区外に一部範囲がおよぶ。平面形はやや不整形な隅丸長方形、断面形状は逆台形状を呈していたと想定される。規模は1.42 m×1.27 m、深さ0.63 mを測る。覆土は、ローム粒・ロームブロック・炭化物を含む黒褐色土を主体としている。遺物は出土しなかった。出土遺物がないため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土にAs-Bを含まないことからAs-B降下以前に帰属するものと考えられる。

第59号土坑（第54図）

X =27695、Y =-59050 に位置する。第40号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。北西側は一部調査区外に範囲がおよぶ。平面形は円形、断面形状は逆台形状を呈していたと想定される。規模は径1.10 m、深さ0.63 mを測る。覆土は、灰白色土粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物は出土しなかった。出土遺物がないため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土にAs-Bを含まないことからAs-B降下以前に帰属するものと考えられる。

第60号土坑（第55図、図版7）

X =27655、Y =-59060 に位置する。1号道路状遺構、P-262と重複し、切り合い関係から1号道路状遺構より新しくP-262より古い。平面形はやや不整形な楕円形、断面形状は逆台形状を呈する。規模は1.75 m×1.50 m、深さ0.42 mを測る。覆土は、ローム粒を含む黒色土を主体としている。遺物は出土しなかった。出土遺物がないため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土にAs-Bを含まないことからAs-B降下以前に帰属するものと考えられる。

第61号土坑（第55・57図、第37表、図版7・19）

X =27660、Y =-59060 に位置する。第44号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。北西側は調査区外に範囲がおよぶ。平面形は不明、断面形状は不整形な逆台形状を呈する。底面には浅いピット状の掘り込みが認められた。規模は1.00 m以上×0.85 m以上、深さ0.72 mを測る。覆土は、ローム粒・炭化物・灰白色土粒を含む暗褐色土・褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・甑・壺・坏・埴・高坏・埴が覆土中から出土した（第57図61土1～3）。本土坑は出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）に帰属するものと考えられる。

第62号土坑（第55図、図版7）

X =27660、Y =-59055 に位置する。南東側は調査区外に範囲がおよぶ。平面形は円形ないし楕円形、断面形状は逆台形状を呈していたと想定される。規模は1.50 m×0.96 m以上、深さ0.48 mを測る。覆土は、ローム粒・ロームブロック・焼土粒を含む暗褐色土・黒褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・坏・高坏が覆土中から僅かに出土した。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土にAs-Bを含まないことからAs-B降下以前に帰属するものと考えられる。

第63号土坑（第55図）

X =27675、Y =-59050 に位置する。第5号溝跡と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。平面形は不整形な楕円形、断面形状は逆台形状を呈する。規模は0.73 m×0.68 m、深さ0.43 mを測る。

覆土は、ローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土・褐色土を主体としている。遺物は土師器坏が覆土中から僅かに出土した。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。

第 64 号土坑（第 55 図）

X =27665、Y =-59050・-59055 に位置する。重複は認められなかった。平面形はやや不整形な円形、断面形状は逆台形状を呈する。規模は 1.00 m×0.90 m、深さ 0.27 m を測る。覆土は、灰白色土粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・坏が覆土中から僅かに出土した。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、本土坑は覆土に As-B を含まないことから As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。

第 65 号土坑（第 55 図、図版 19）

X =27670、Y =-59050・-59055 に位置する。重複は認められなかった。平面形は円形、断面形状は逆台形状を呈する。規模は 1.20 m×1.15 m、深さ 0.22 m を測る。覆土はローム粒・焼土粒・褐色土粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・坏、須恵器蓋が覆土中から僅かに出土した。本土坑は出土遺物から奈良時代（8 世紀後半）に帰属するものと考えられる。

第 66 号土坑（第 56・57 図、第 37 表、図版 19）

X =27695、Y =-59005 に位置する。第 31 号住居跡、第 50 号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が最も古い。平面形は不整形な楕円形を呈していたと想定される。断面形状は不整形な逆台形状を呈する。規模は 2.40 m 以上×1.77 m 以上、深さ 0.67 m を測る。覆土はローム粒・ロームブロック・焼土粒を含む暗褐色土・黒褐色土を主体としている。遺物は土師器壺・坏・埴が覆土から出土した（第 57 図 66 土 1～3）。本土坑は出土遺物から古墳時代中期（5 世紀後半）に帰属するものと考えられる。

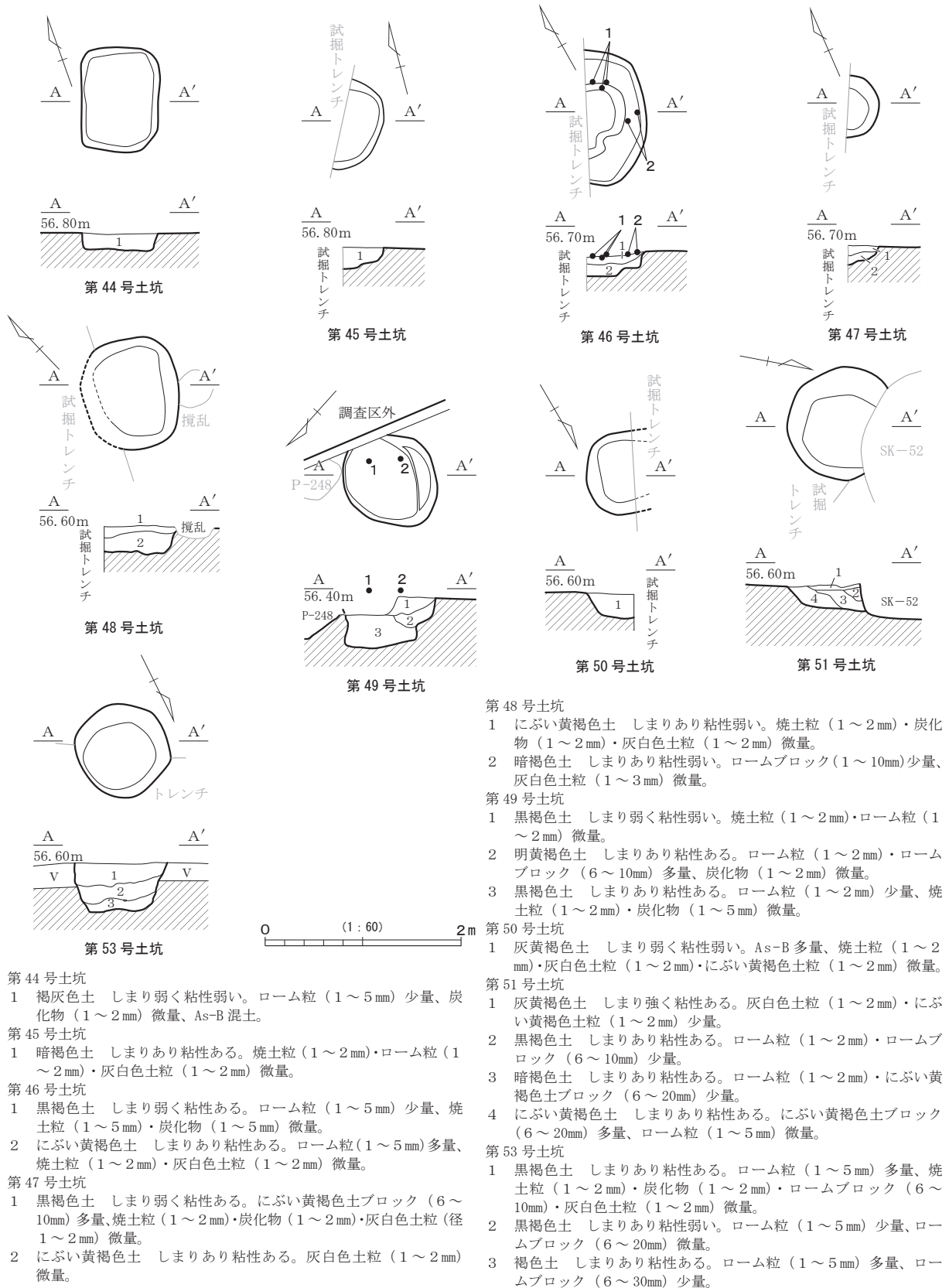
第 67 号土坑（第 55 図）

X =27690、Y =-59005 に位置する。第 31 号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。また、東側は調査区外に範囲がおよぶ。平面形および断面形状は不明である。規模は 1.05 m 以上×0.20 m 以上、深さ 0.72 m を測る。覆土はローム粒を含む黒色土を主体としている。遺物は出土しなかった。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、切り合い関係にある第 31 号住居跡の帰属年代を考慮すると 8 世紀以前と考えられる。

第 68 号土坑（第 56 図）

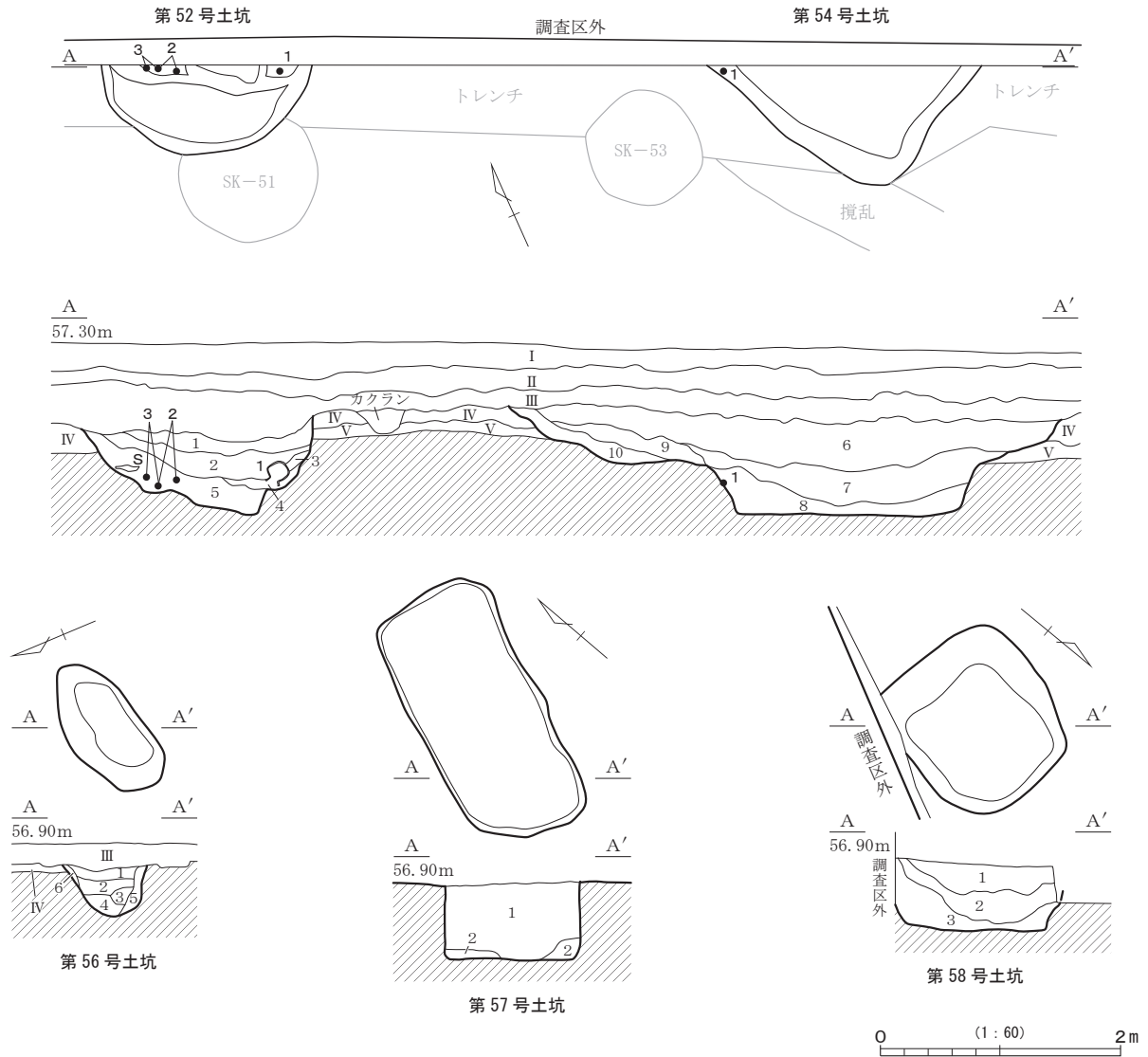
X =27710、Y =-59040 に位置する。第 38 号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。西側は調査区外に範囲がおよぶ。平面形は不明、断面形状は箱状を呈する。規模は 0.76 m 以上×0.23 m 以上、深さ 0.25 m を測る。覆土はローム粒・焼土粒を含んだ黒褐色土を主体としている。遺物は出土しなかった。出土遺物がないため詳細な帰属時期は不明であるが、切り合い関係にある第 38 号住居跡の帰属年代および覆土に As-B を含まないことを考慮すると 5 世紀以降～As-B 降下以前に帰

属するものと考えられる。



第52図 土坑遺構図(1)

第Ⅲ章 検出された遺構と遺物



第 52・54 号土坑

- 1 黒褐色土 しまり強く粘性ある。ローム粒 (1～5mm) 少量、焼土粒 (1～2mm)・灰白色土粒 (1～2mm) 微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1～5mm) 少量、ロームブロック (6～10mm)・灰白色土粒 (1～2mm) 微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1～2mm) 少量。
- 4 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1～5mm) 微量。
- 5 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1～5mm) 多量、ロームブロック (6～20mm) 少量、焼土粒 (1～2mm)・灰白色土ブロック (6～10mm) 微量。
- 6 黒褐色土 しまり強く粘性弱い。灰白色土粒 (1～2mm) 少量、焼土粒 (1～2mm) 微量。
- 7 黒褐色土 しまりあり粘性ある。焼土粒 (1～2mm)・炭化物 (1～2mm)・ロームブロック (6～10mm)・灰白色土粒 (1～2mm) 微量。
- 8 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6～20mm) 少量、焼土粒 (1～2mm)・炭化物 (1～2mm)・ローム粒 (1～5mm) 微量。
- 9 暗褐色土 しまり強く粘性ある。ローム粒 (1～5mm)・ロームブロック (6～20mm) 多量、焼土粒 (1～2mm)・炭化物 (1～2mm) 微量。
- 10 褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1～5mm)・ロームブロック (6～50mm) 多量。

第 56 号土坑

- 1 灰黄褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1～5mm)・灰白色土粒 (1～2mm) 微量。
- 2 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1～5mm) 少量。
- 3 にぶい黄褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1～5mm) 少量。
- 4 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性弱い。ローム粒 (1～3mm) 少量。
- 5 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。灰白色土粒 (1～2mm) 微量。
- 6 黒褐色土 しまり強く粘性弱い。灰白色土粒 (1～2mm) 少量。

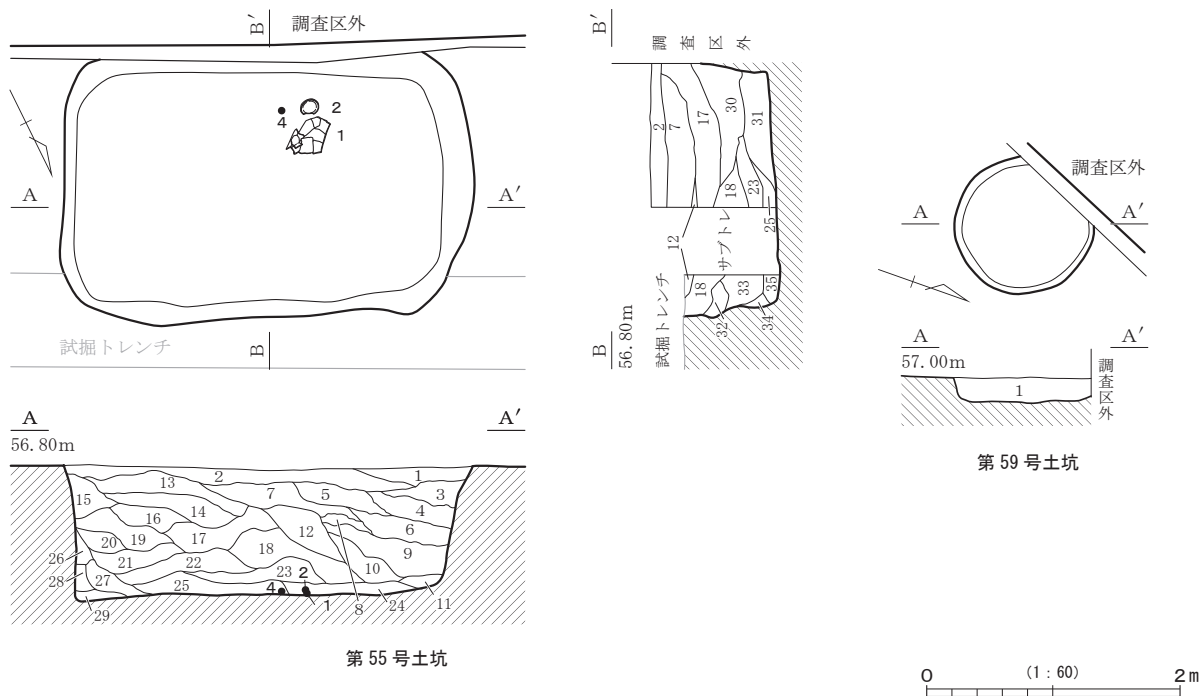
第 57 号土坑

- 1 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒 (1～2mm)・灰白色土粒 (1～2mm) 少量、As-A 微量。
- 2 褐色土 しまりあり粘性弱い。ロームブロック (6～20mm) 多量。

第 58 号土坑

- 1 黄褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1～5mm) 多量、ロームブロック (6～20mm) 少量、灰白色土粒 (1～2mm) 微量。
- 2 黒褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1～5mm) 少量、炭化物 (1～2mm) 微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1～5mm)・ロームブロック (6～20mm) 微量。

第 53 図 土坑遺構図 (2)



第55号土坑

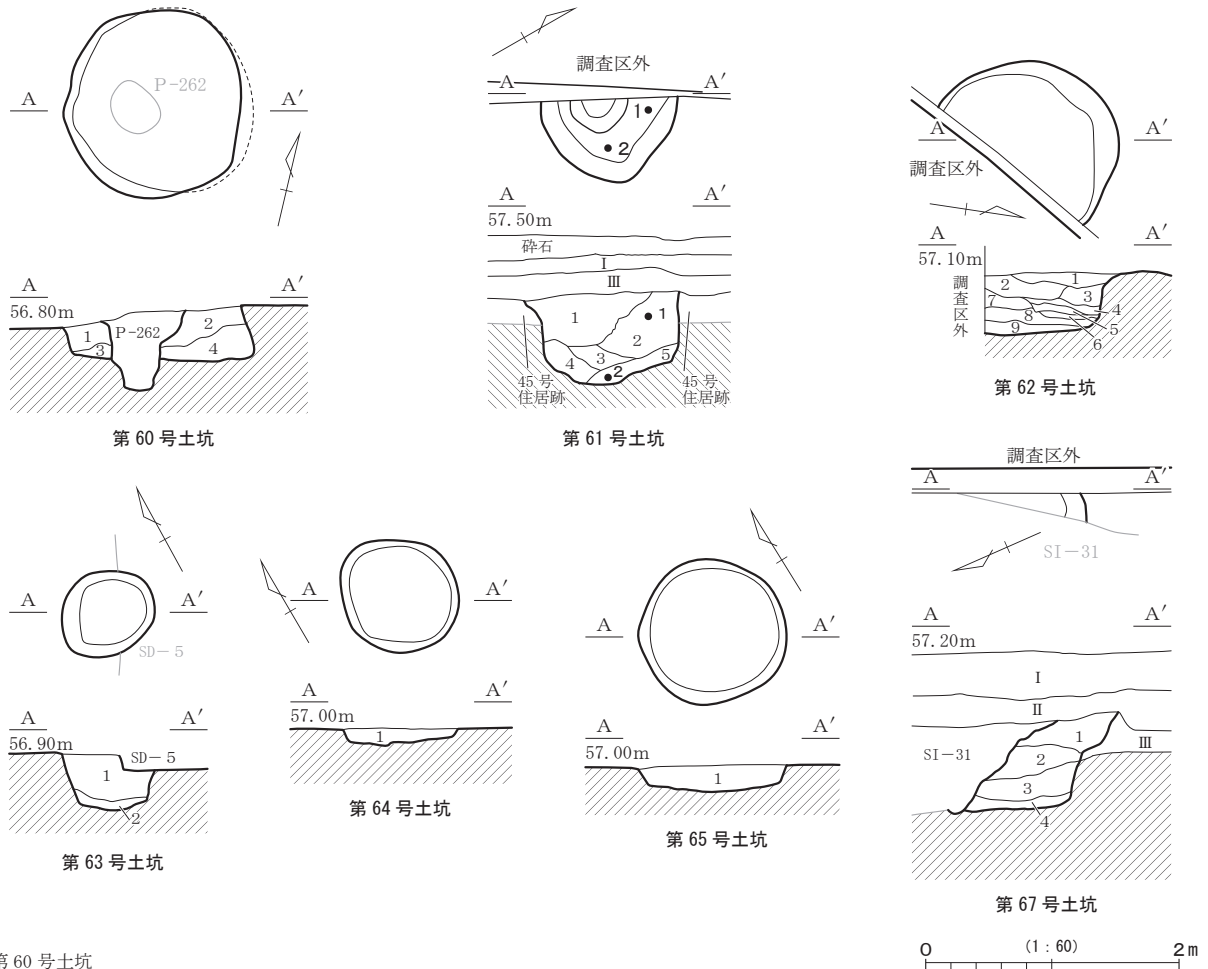
- 1 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性弱い。炭化物(1~2mm)・ローム粒(1~2mm)・ロームブロック(6~10mm)・灰白色土粒(1~2mm)微量。
- 2 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性弱い。ローム粒(1~2mm)・灰白色土粒(1~2mm)少量、焼土粒(1~2mm)・炭化物(1~2mm)・ロームブロック(6~10mm)微量。
- 3 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒(1~2mm)多量、焼土粒(1~2mm)・炭化物(1~5mm)・灰白色土粒(1~2mm)微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)・ロームブロック(6~30mm)少量、炭化物(1~2mm)微量。
- 5 にぶい黄褐色土 しまり強く粘性弱い。ローム粒(1~5mm)多量、炭化物(1~2mm)・ロームブロック(6~50mm)・灰白色土粒(1~2mm)微量。
- 6 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)多量、ロームブロック(6~20mm)微量。
- 7 褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒(1~5mm)多量、ロームブロック(6~50mm)少量、炭化物(1~5mm)・灰白色土粒(1~2mm)微量。
- 8 暗褐色土 しまりあり粘性ある。炭化物(1~10mm)・ローム粒(1~5mm)多量。
- 9 褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒(1~5mm)・ロームブロック(6~10mm)多量、炭化物(1~10mm)・礫(10~20mm)・黒褐色土ブロック(10~20mm)微量。
- 10 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)多量、炭化物(6~20mm)少量、ロームブロック(6~10mm)微量。
- 11 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒(1~2mm)多量、ロームブロック(6~10mm)微量。
- 12 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)少量、灰白色土粒(1~2mm)微量。
- 13 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)・ロームブロック(6~10mm)・灰白色土粒(1~2mm)微量。
- 14 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)少量、ロームブロック(6~10mm)・灰白色土粒(1~2mm)微量。
- 15 暗褐色土 しまり弱く粘性ある。礫(10mm)・ローム粒(1~2mm)微量。
- 16 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)・ロームブロック(6~10mm)多量、炭化物(1~5mm)・灰白色土粒(1~2mm)微量。

- 17 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)多量、ロームブロック(6~50mm)少量、炭化物微量。
- 18 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック(6~20mm)多量、ローム粒(1~2mm)少量、炭化物(1~2mm)微量。
- 19 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)多量、ロームブロック(6~20mm)・黒褐色土ブロック(50~100mm)微量。
- 20 暗褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒(1~5mm)少量、炭化物(1~5mm)・黒褐色土ブロック(10~20mm)微量。
- 21 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック(6~50mm)大量、黒褐色土ブロック(10~20mm)少量。
- 22 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)少量、炭化物(1~2mm)・ロームブロック(6~10mm)微量。
- 23 暗褐色土 しまりあり粘性ある。炭化物(1~5mm)・ローム粒(1~5mm)・ロームブロック(6~30mm)・黒褐色土ブロック(10~20mm)微量。
- 24 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~2mm)微量。
- 25 褐色土 しまり弱く粘性ある。ロームブロック(6~50mm)多量。
- 26 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~2mm)・ロームブロック(6~20mm)微量。
- 27 にぶい黄褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒(1~5mm)微量。
- 28 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性ある。礫(10~20mm)・ローム粒(1~2mm)微量。
- 29 にぶい黄褐色土 しまりあり。粘性強い。ロームブロック(6~20mm)多量、砂礫(1~2mm)少量。
- 30 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒(1~5mm)多量、ロームブロック(6~20mm)・黒褐色土ブロック(10~30mm)少量。
- 31 にぶい黄褐色土 しまり弱く粘性ある。ロームブロック(6~10mm)少量。
- 32 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒(1~2mm)多量、炭化物(1~2mm)微量。
- 33 暗褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒(1~2mm)・ロームブロック(6~20mm)・黒褐色土ブロック(10~20mm)微量。
- 34 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。砂礫(1~2mm)多量。
- 35 にぶい黄褐色土 しまり弱く粘性ある。砂礫(1~30mm)多量。

第59号土坑

- 1 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。灰白色土粒(1~2mm)少量。

第54図 土坑遺構図(3)



第 60 号土坑

- 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量。
- 2 黒色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~3mm) 少量。
- 3 黒色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量。
- 4 黒色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量、ロームブロック (6~30mm) 微量。

第 61 号土坑

- 1 褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1~5mm) 多量、灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1~5mm) 少量、炭化物 (1~5mm) 微量。
- 3 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~2mm) 微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量、炭化物 (1~2mm) 微量。
- 5 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 微量。

第 62 号土坑

- 1 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 少量、焼土粒 (1~2mm) 微量。
- 2 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 少量、褐色土ブロック (6~20mm) 微量。
- 3 黒褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1~2mm)・ロームブロック (6~10mm) 微量。
- 4 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ロームブロック (6~10mm) 少量、ローム粒 (1~2mm) 微量。
- 5 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~2mm)・ロームブロック (6~10mm) 微量。
- 6 褐色土 しまり強く粘性弱い。ロームブロック (6~10mm) 多量、ローム粒 (1~2mm) 少量。
- 7 黒褐色土 しまりあり粘性ある。焼土粒 (1~2mm)・炭化物 (1~2mm)・ローム粒 (1~5mm) 微量。
- 8 暗褐色土 しまりあり粘性ある。炭化物 (1~2mm)・ローム粒 (1~5mm) 微量。
- 9 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~2mm) 少量、焼土粒 (1~2mm) 微量。

第 63 号土坑

- 1 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量、礫 (6~10mm)・灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
- 2 褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量、ロームブロック (6~10mm) 微量。

第 64 号土坑

- 1 黒褐色土 しまりあり粘性弱い。灰白色土粒 (1~2mm) 少量、褐色土ブロック (6~10mm) 微量。

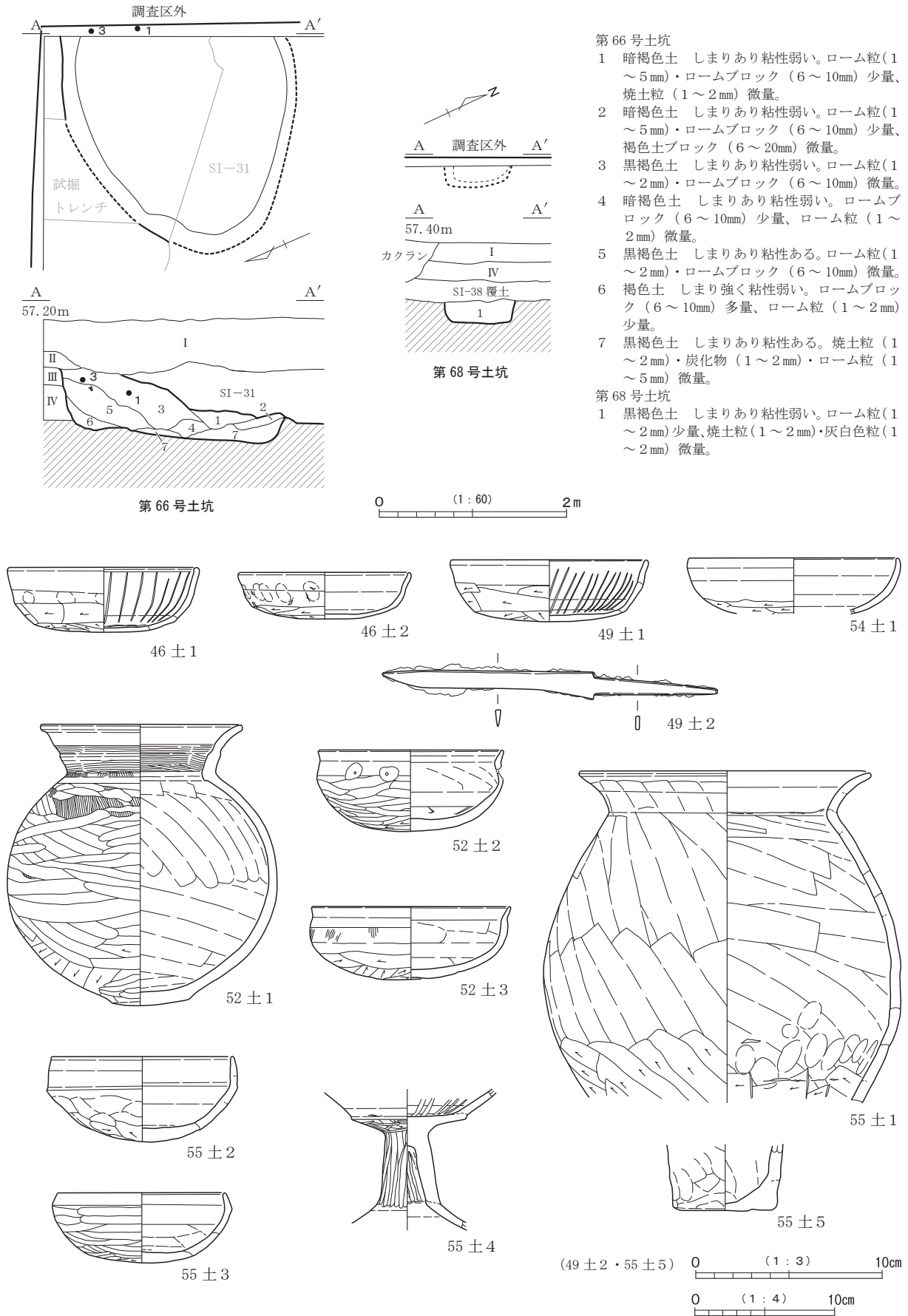
第 65 号土坑

- 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。褐色土粒 (1~2mm) 少量、焼土粒 (1~2mm)・ローム粒 (1~5mm)・灰白色土粒 (1~2mm)・褐色土ブロック (6~10mm) 微量。

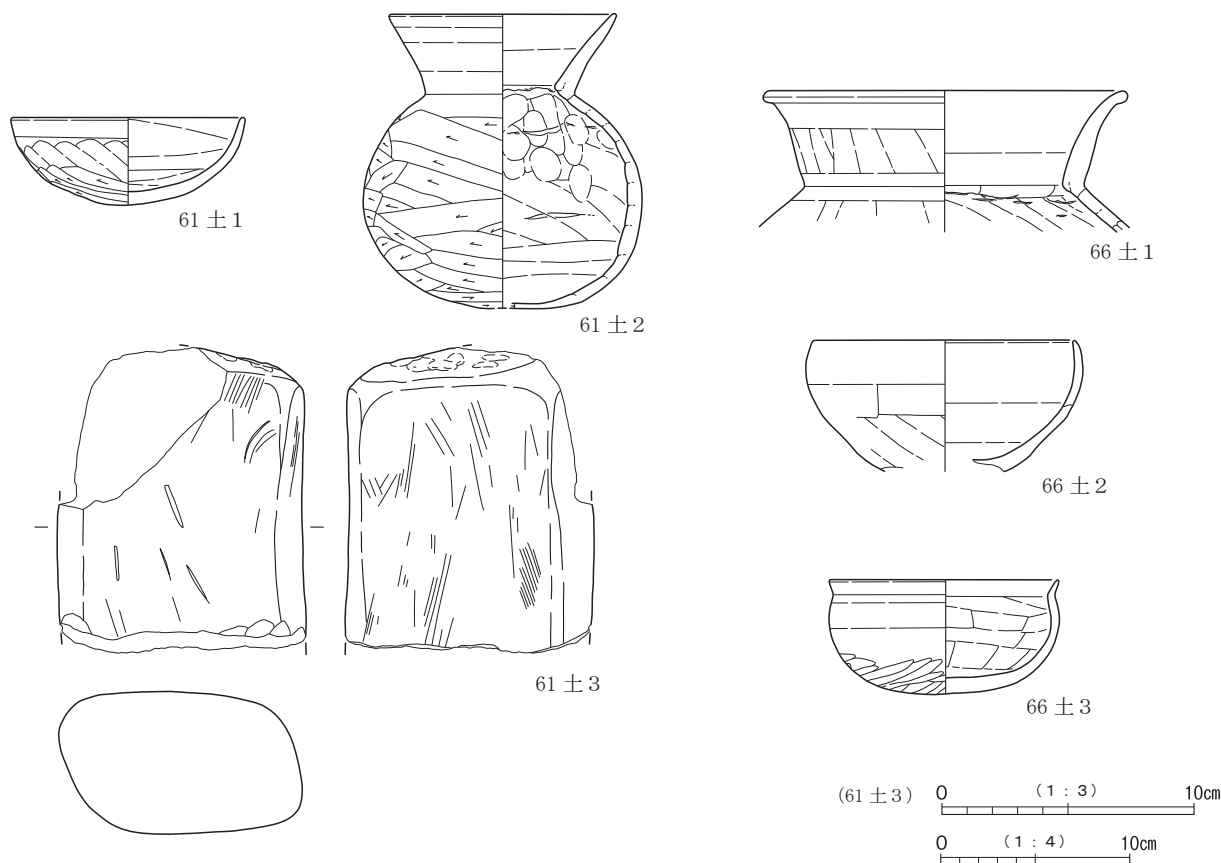
第 67 号土坑

- 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量。
- 2 黒色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~3mm) 少量。
- 3 黒色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量。
- 4 黒色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量、ロームブロック (6~30mm) 微量。

第 55 図 土坑遺構図 (4)



第56図 土坑遺構図(5)・出土遺物(1)



第 57 図 土坑出土遺物（2）

第 36 表 土坑出土遺物観察表（1）

46 土 1	土師器 坏	A．口径 13.5、器高 4.6、底径 9.9。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ユビオサエ→ヨコナデ。体部ケズリ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ→放射状暗文。底部ナデ→螺旋状暗文。D．白色粒・石英・黒色粒・輝石。E．外・内面：明赤褐色。F．完形。G．-。H.No1～3。
46 土 2	土師器 坏	A．口径 (12.2)、器高 3.3、底径 (10.2)。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ユビオサエ→ヨコナデ。底部ケズリ。内面：ヨコナデ。D．赤色粒・石英・白色粒・長石。E．外面：にぶい褐色、内面：にぶい赤褐色。F. 1/4。G．内外面黒色付着物、内面顕著。H.No4・5、SK46・49一括。
49 土 1	土師器 坏	A．口径 (14.0)、器高 4.4、底径 (10.8)。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体～底部ケズリ。内面：ヨコナデ→口縁部放射状暗文・底部螺旋状暗文。D．白色粒・黒色粒・雲母・長石・石英。E．外・内面：にぶい赤褐色。F. 1/4。G．内面黒色付着物。H.No1。
49 土 2	鉄製品 刀子	A．全長 18.0、刀部長 11.4、柄部長 6.6、幅 1.5、刀部幅 1.5、柄部幅 0.8、刀部厚 0.3、柄部厚 0.2、重さ 23.57。F完形。G．両開。H.No2。
52 土 1	土師器 壺	A．口径 14.2、器高 20.1、底径 5.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ハケ→上半ヨコナデ。胴部上半ハケ→ミガキ、下半ケズリ→ミガキ。底部ケズリ。内面：口縁部ハケ→上半ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。D．褐色粒・白色粒・輝石。E．外面：明赤褐色、内面：にぶい橙色。F．完形。G．外面煤付着。H.No4。
52 土 2	土師器 坏	A．口径 13.0、器高 5.8。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→上半ミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ→上半ヨコナデ。D．褐色粒・白色粒・雲母粒。E．外・内面：赤褐色。F. 3/4。G．外面口縁下に焼成後の穿孔 2カ所あり。外面に煤付着。H.No2・3。
52 土 3	土師器 坏	A．口径 14.0、器高 5.2、底部 4.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ハケ→ナデ→下半ケズリ。底部ナデ。内面：口縁部～体部上半ヨコナデ、下半ヘラナデ。D．褐色粒・白色粒・石英粒（透明）・雲母粒。E．外・内面：明赤褐色。F. 3/4。G．外面被熱赤色化。一部煤付着。H.No1・2。
54 土 1	土師器 坏	A．口径 (15.0)、器高 [4.0]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→下半ケズリ。内面：口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半ナデ。D．白色粒・輝石・石英。E．外・内面：にぶい赤褐色。F．口縁部 1/2 弱。H.No1。
55 土 1	土師器 甕	A．口径 (20.6)、器高 [23.7]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ→下半ヘラナデ。胴部ヘラナデ→下半ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。D．長石・チャート・石英・白色粒・輝石。E．外・内面：にぶい黄褐色。F．口縁部～胴部 1/2。G．外面煤付着。H.No6。
55 土 2	土師器 坏	A．口径 12.9、器高 6.1。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→下半ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。D．白色粒・石英・輝石・赤色粒。E．外面：にぶい赤褐色、内面：暗赤褐色。F．ほぼ完形。G．内外面煤付着、内面摩耗。H.No5。

第 37 表 土坑出土遺物観察表（2）

55 土 3	土師器 坏	A．口径 (12.0)、器高 5.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。D．白色粒・石英・輝石。E．外面：暗赤褐色、内面：赤黒色。F．1/3。G．外面煤付着。H．覆土。
55 土 4	土師器 高坏	A．口径－、器高 [9.8]、脚端部径－。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。坏部ケズリ→雑なミガキ。脚柱部ミガキ。脚端部ヨコナデ。内面：口縁部ヨコナデ・坏部ナデ→放射状暗文。脚柱部シボリ。脚端部ヨコナデ。D．長石・白色粒・赤色粒・黒色粒。E．外・内面：明赤褐色。F．坏部・脚柱部完形。G．内面坏部煤付着。H．No2。
55 土 5	手捏ね土器	A．口径－、器高 [3.6]、底径 5.0。B．粘土紐積み上げ。C．外面：体部・底部ナデ。内面：体部～底部ヨビナデ。D．石英・白色粒・黒色粒。E．外面：褐色、内面：黒褐色。F．体部～底部 1/4。G．内外面煤付着。H．一括。
61 土 1	土師器 埴	A．口径 12.2、器高 4.6。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→下半ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。D．白色粒・長石・黒色粒・石英・輝石。E．外・内面：赤褐色。F．完形。G．内外面煤付着。H．No3。
61 土 2	土師器 埴	A．口径 11.8、器高 15.5。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→ケズリ。底部ケズリ。内面：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。底部ヘラナデ。D．長石・赤色粒・黒色粒・石英。E．外・内面：にぶい褐色。F．ほぼ完形。G．外面煤付着。底部内面黒色の汚れ。H．No2。
61 土 3	石製品 砥石	A．長さ 12.1、幅 9.8、厚さ 5.6、重さ 1068.70。B．河原石を利用。C．表裏面と両側面を擦面として使用し、各面に線状の擦痕を残す。D．凝灰岩か。F．2/3。G．全面摩耗顕著。上面部敲打痕か。H．覆土。
66 土 1	土師器 壺	A．口径 (18.6)、器高 [7.5]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ナデ→ヨコナデ。内面：ヨコナデ。胴部ナデ。D．長石・石英・白色粒・赤色粒・黒色粒。E．外・内面：赤褐色。F．口縁部破片。G．外面面荒れ。H．No1。
66 土 2	土師器 埴	A．口径 (13.8)、器高 [7.0]。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面：ヨコナデ。D．白色粒・長石・石英。E．外面：黒褐色、内面：にぶい赤褐色。F．1/5。G．内外面煤付着。H．SI33 煙道掘方、SI44 一括。
66 土 3	土師器 坏	A．口径 (12.0)、器高 6.1。B．粘土紐積み上げ。C．外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ→下半ミガキ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。D．長石・石英・赤色粒・白色粒。E．外面：赤褐色、内面：にぶい赤褐色。F．1/3。G．外面体部煤付着。H．No2。

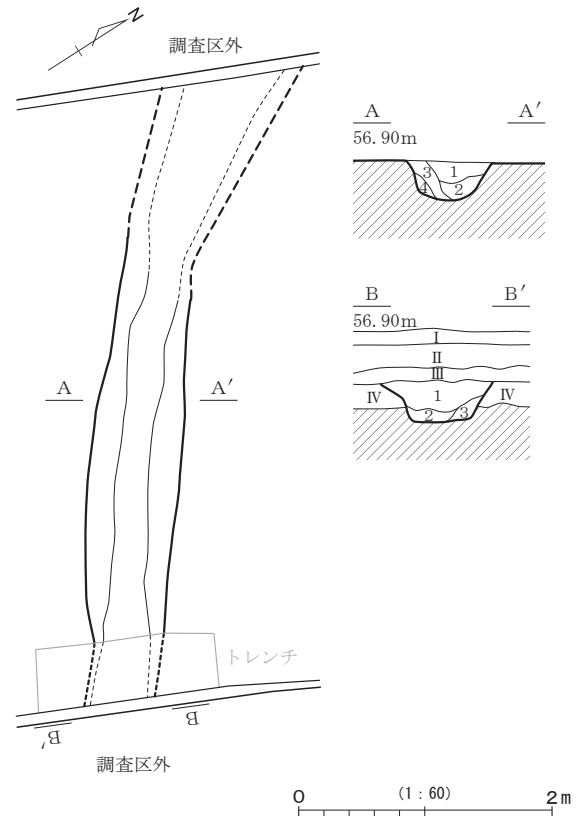
3. 溝 跡

第 2 号溝跡（第 58 図、図版 7）

X =27670、Y =-59020 に位置する。第 29 号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。北西および南東側は調査区外に範囲がおよぶ。走行方向はN－54°－Wを示し、直線的に走行する。規模は上幅が0.60 m～0.70 m、下幅0.25 m～0.37 m、深さ0.40 mである。断面形状は逆台形状を呈する。北西側で確認された第 3 号溝と形状および走行方向が類似していることに加え、両遺構の位置関係を考慮すると同一の溝である可能性が考えられる。覆土はローム粒・焼土粒・褐色土粒・褐色土ブロックを含む黒褐色土・暗褐色土を主体としている。遺物

A－A'・B－B'

- 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。焼土粒（1～2mm）・ローム粒（1～2mm）・灰白色土粒（1～2mm）微量。
- 2 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。褐色土ブロック（6～10mm）少量。
- 3 暗褐色土 しまり弱く粘性ある。褐色土粒（1～2mm）少量。
- 4 暗褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒（1～2mm）微量。

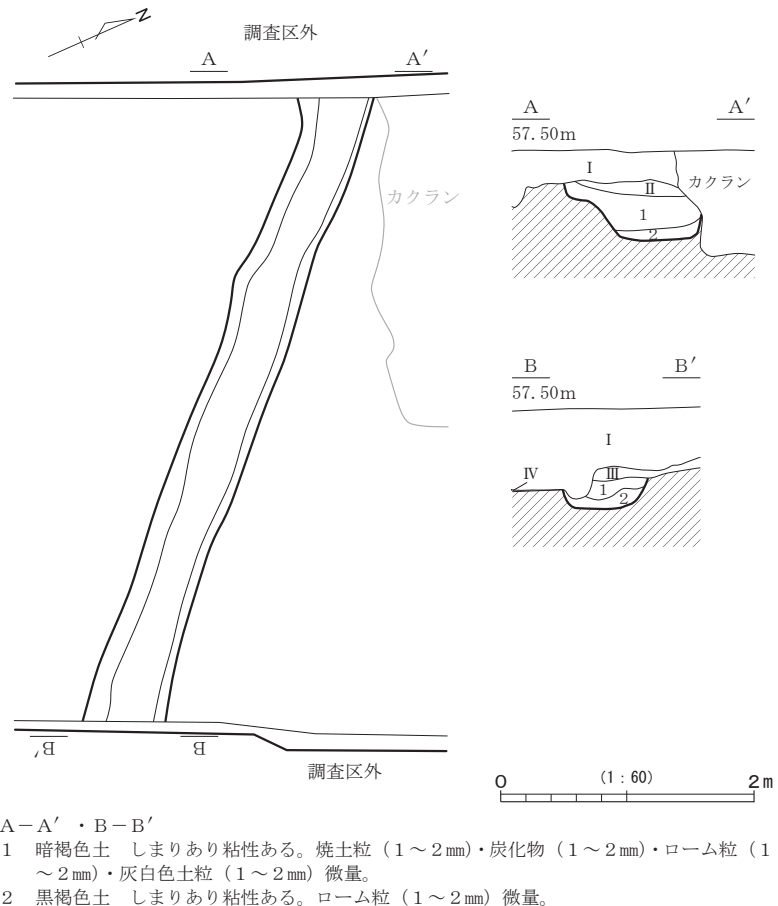


第 58 図 第 2 号溝跡遺構図

は出土していない。出土遺物がないため詳細な帰属時期は不明であるが、切り合い関係にある第 29 号住居跡の帰属年代および覆土に As-B を含まないことを考慮すると 5 世紀以降～As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。なお、本溝は覆土に流水の痕跡が認められないことと規模を考慮すると区画のために掘削された溝の可能性が想定される。

第 3 号溝跡 (第 59 図、図版 7)

X =27690・27695、Y =-59045・-59050 に位置する。第 40・41 号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。北西および南東側は調査区外に範囲がおよぶ。走行方向は $N-53^{\circ}-W$ を示し、直線的に走行する。規模は上幅が 0.50 m～0.60 m、下幅 0.28 m～0.35 m、深さ 0.43 m である。断面形状は逆台形状を呈する。南東側で確認された第 2 号溝跡と形状および走行方向が類似していることに加え、両遺構の位置関係を考慮すると同一の溝である可能性が考えられる。覆土はローム粒・焼土粒・炭化物・灰白色土粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物は出土しなかった。出土遺物がないため詳細な帰属時期は不明であるが、切り合い関係にある第



第 59 図 第 3 号溝跡遺構図

40・41 号住居跡の帰属年代および覆土に As-B を含まないことを考慮すると 5 世紀以降～As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。なお、本溝は覆土に流水の痕跡が認められないことと規模を考慮すると区画のために掘削された溝の可能性が想定される。

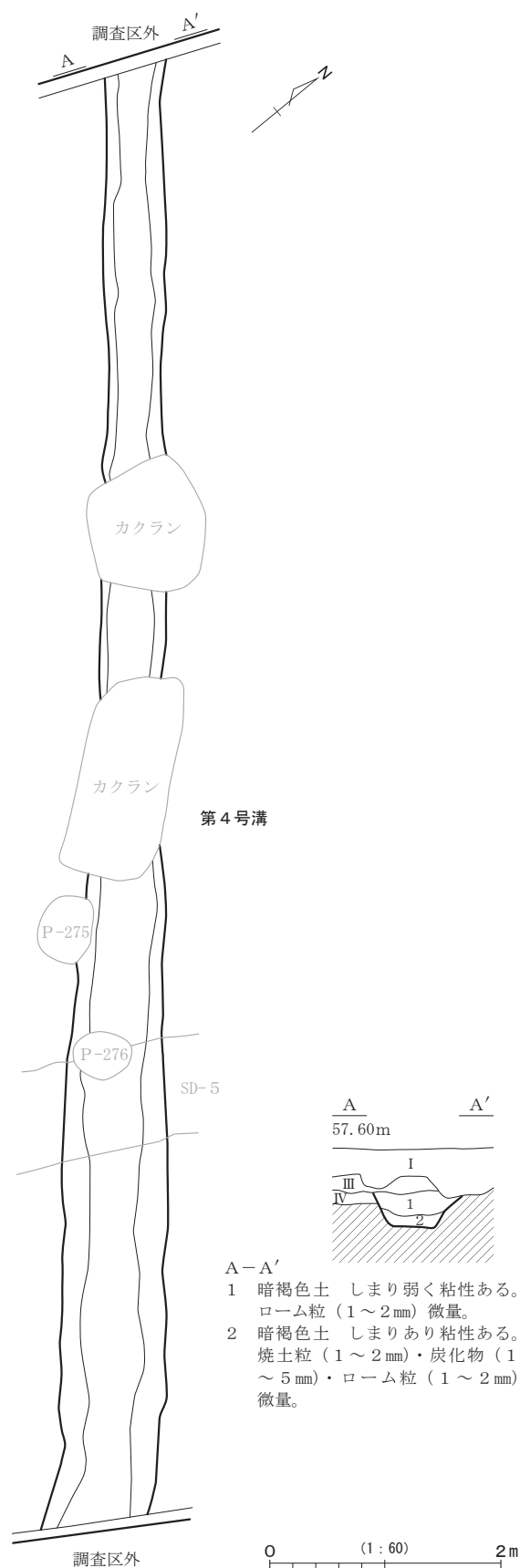
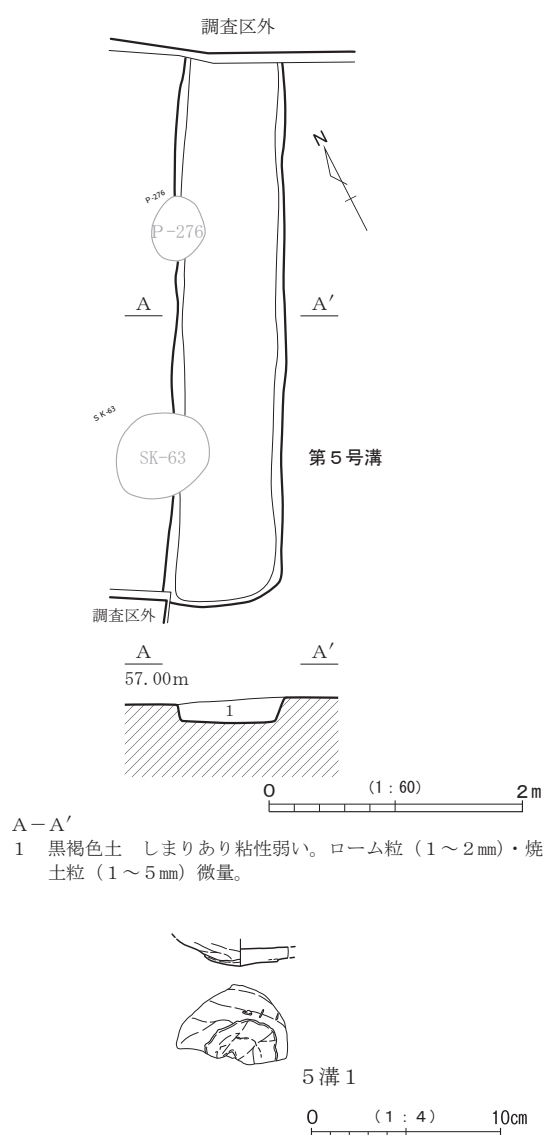
第 4 号溝跡 (第 60 図、図版 7)

X =27675～27685、Y =-59045～-59055 に位置する。第 45 号住居跡、第 5 号溝、P-271・275・276 と重複する。切り合い関係から第 45 号住居跡より新しく他より古い。北西および南東側は調査区外に範囲がおよぶ。また、一部カクランによる削平を受けていた。走行方向は $N-50^{\circ}-W$ を示し、直線的に走行する。規模は上幅が 0.45 m～0.93 m、下幅 0.21 m～0.55 m、深さ 0.36 m を測る。断面形状は逆台形状を呈する。覆土はローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土・褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・台付甕・坏、須恵器坏が覆土から僅かに出土している。出

土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、切り合い関係にある第 45 号住居跡の帰属年代および覆土に As-B を含まないことを考慮すると、9 世紀後半以降～As-B 降下以前に帰属するものと考えられる。なお、本溝は覆土に流水の痕跡が認められないことと規模を考慮すると区画のために掘削に使用された溝の可能性が想定される。

第5号溝跡 (第60図、第38表、図版7・19)

X = 27675・27680、Y = -59045・-59050 に位置する。第 63 号土坑、第 4 号溝跡、P-276 と



第 60 図 第 4・5号溝跡遺構図、第 5号溝跡出土遺物

重複し、切り合い関係から第4号溝より新しく他より古い。北東側は調査区外に範囲がおよぶ。走行方向はN-26°-Eを示し、直線的に走行する。規模は上幅が0.78m～0.93m、下幅0.70m～0.77m、深さ0.18mを測る。断面形状は逆台形状を呈する。覆土は黒褐色土を主体としている。遺物は土師器甕・坏、須恵器坏、棒状鉄製品が覆土から僅かに出土している（第60図5溝1）。出土遺物に乏しいため詳細な帰属時期は不明であるが、切り合い関係にある第4号溝跡の帰属年代および覆土にAs-Bを含まないことを考慮すると、9世紀後半以降～As-B降下以前に帰属するものと考えられる。なお、本溝は南西側には延伸しない点、覆土に流水の痕跡が認められない点。規模などを考慮すると区画のために掘削された溝の可能性が想定される。

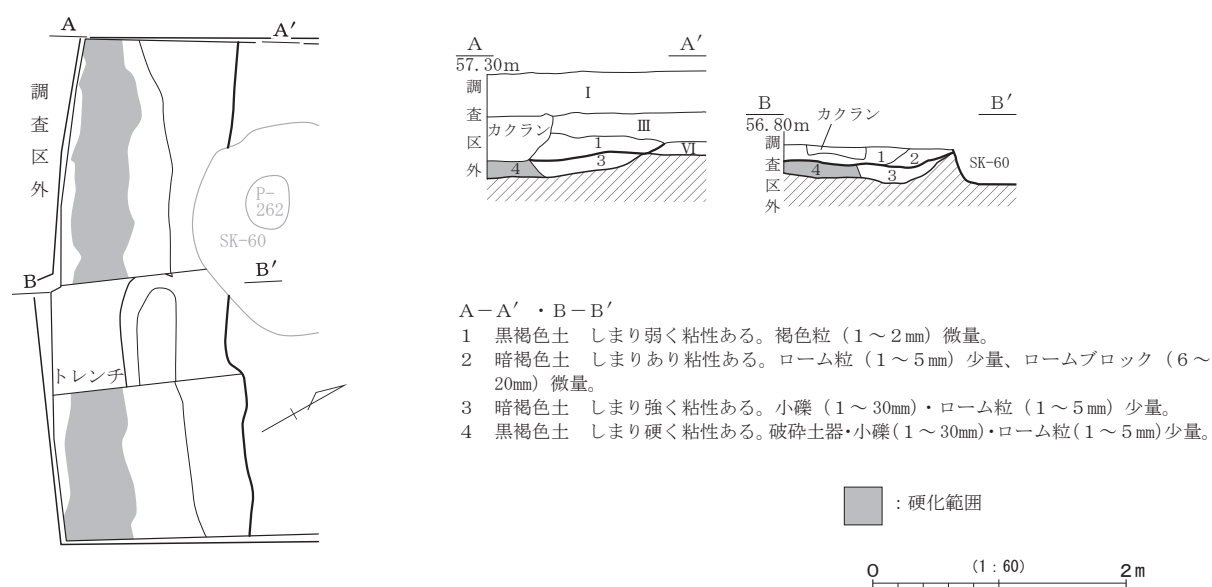
第38表 第5号溝出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口径-、器高[1.4]、底径3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面：ナデ。内面：ヨコナデ。D. 白色粒・雲母・石英・長石。E. 外・内面：にぶい褐色。F. 底部のみ1/2。G. -。H. 一括。
---	----------	---

4. 道状遺構

第1号道状遺構（第61図、図版8）

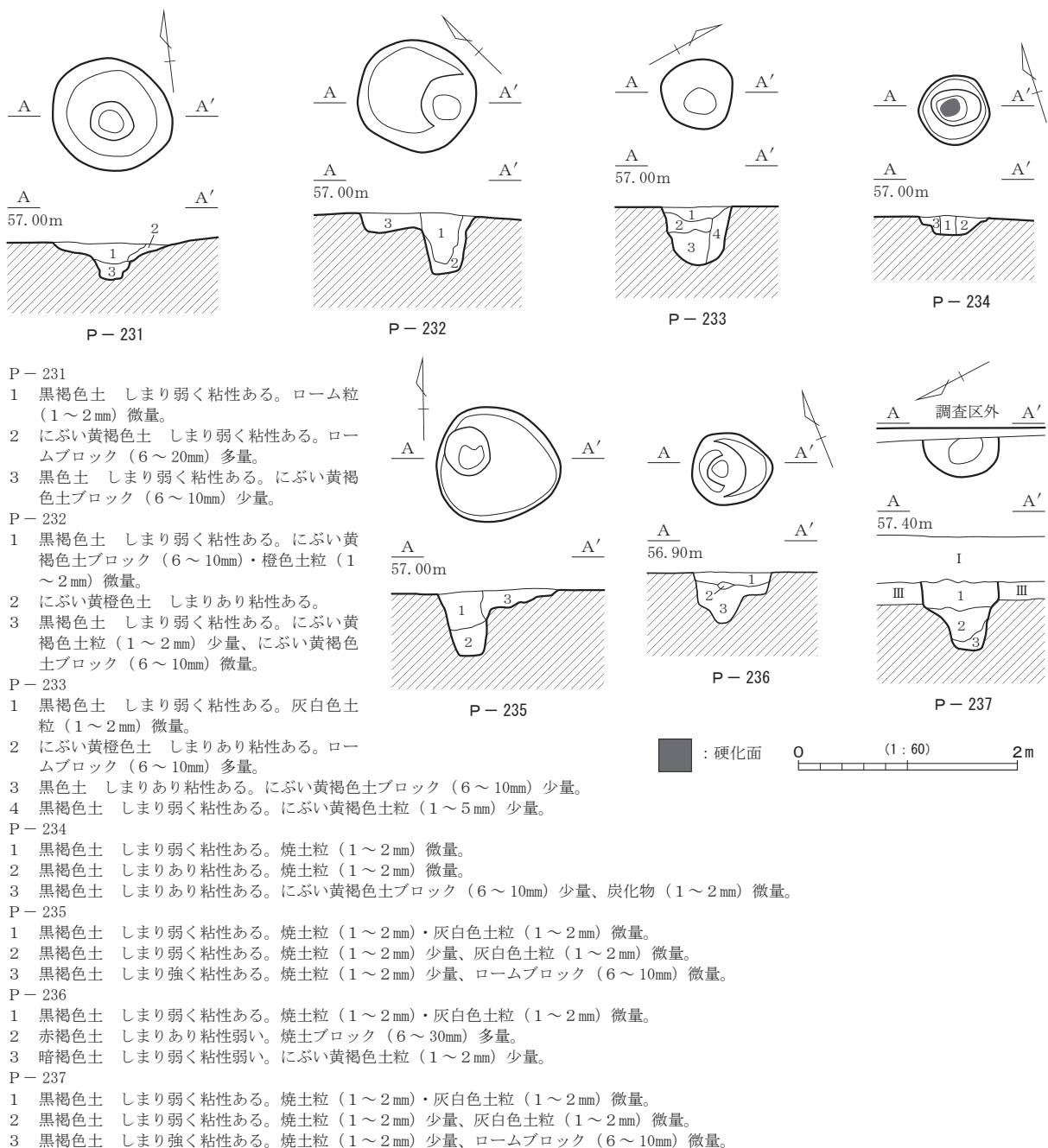
X=27655、Y=-59055・-59060に位置する。第60号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。北西および南東・南西側は調査区外に範囲がおよぶ。また、一部カクランにより削平されていた。走行方向はN-61°-Wの方向に直線的に走行する。規模は幅1.50m以上を測る。4層が非常に固くしまっていた。遺物は覆土中から土師器甕・坏、須恵器高台付碗の破片が僅かに出土した。本遺構の帰属時期は、第60号土坑との切り合い関係および覆土にAs-Bを含まないことを考慮するとAs-B降下以前と想定される。



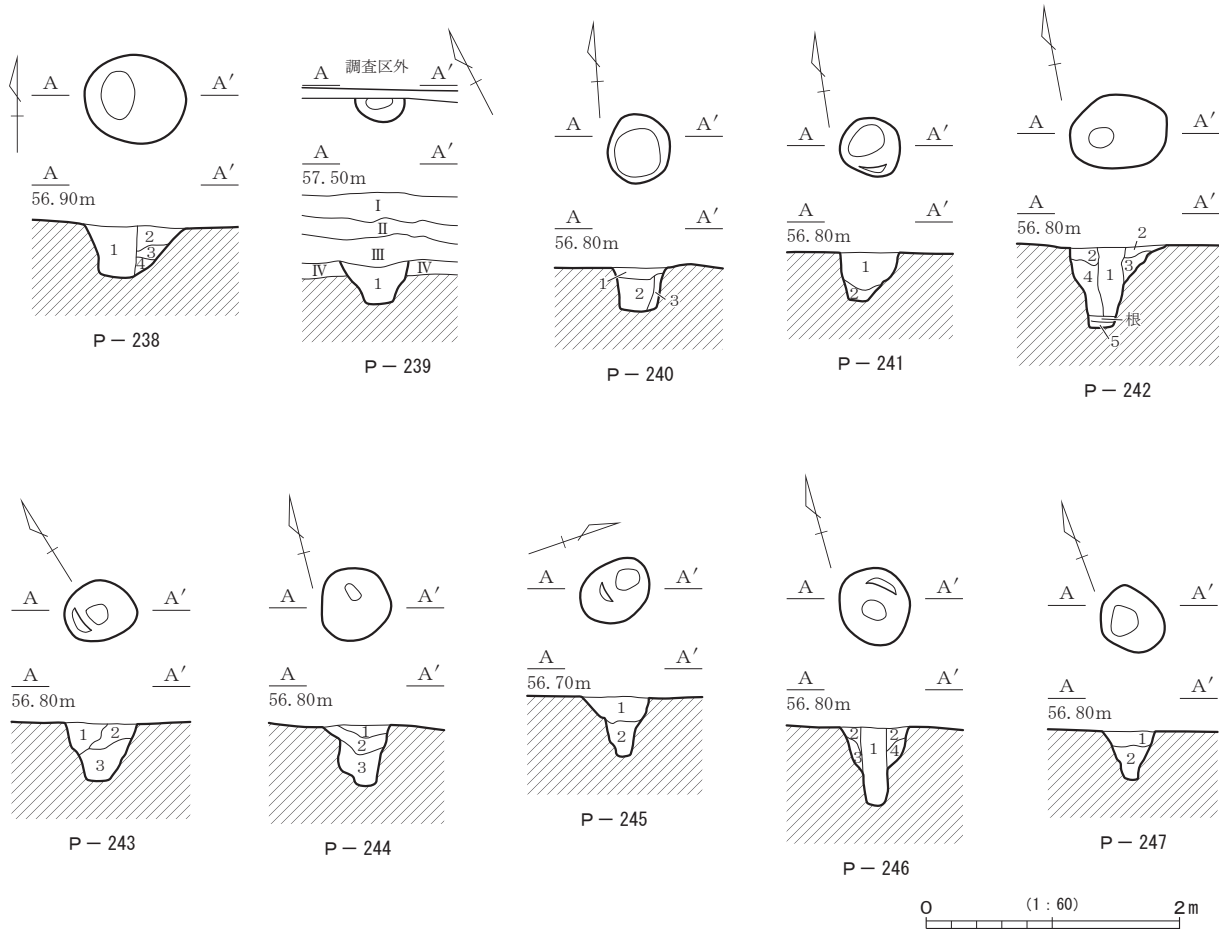
第61図 第1号道状遺構遺構図

5. ピット (第 62～66 図、第 39～41 表、図版 8・19)

58 基のピットを確認した。ピットは調査区南東部にやや集中する傾向があった。断面形状から柱穴が想定されるピットや、柱痕が認められるピットがあったことから掘立柱建物跡などの存在も想定されるが、今回の調査では把握することができなかった。ピットの帰属時期については遺物の出土が少ないため詳細が不明なものが多いが、全てのピットにおいて覆土中に As-B が認められなかったことから As-B 降下以前と考えられる。なお各ピットの詳細については第 39～41 表に示した。また、P-248・255 から出土した土師器坏については写真と観察表の掲載を行った。

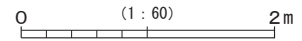
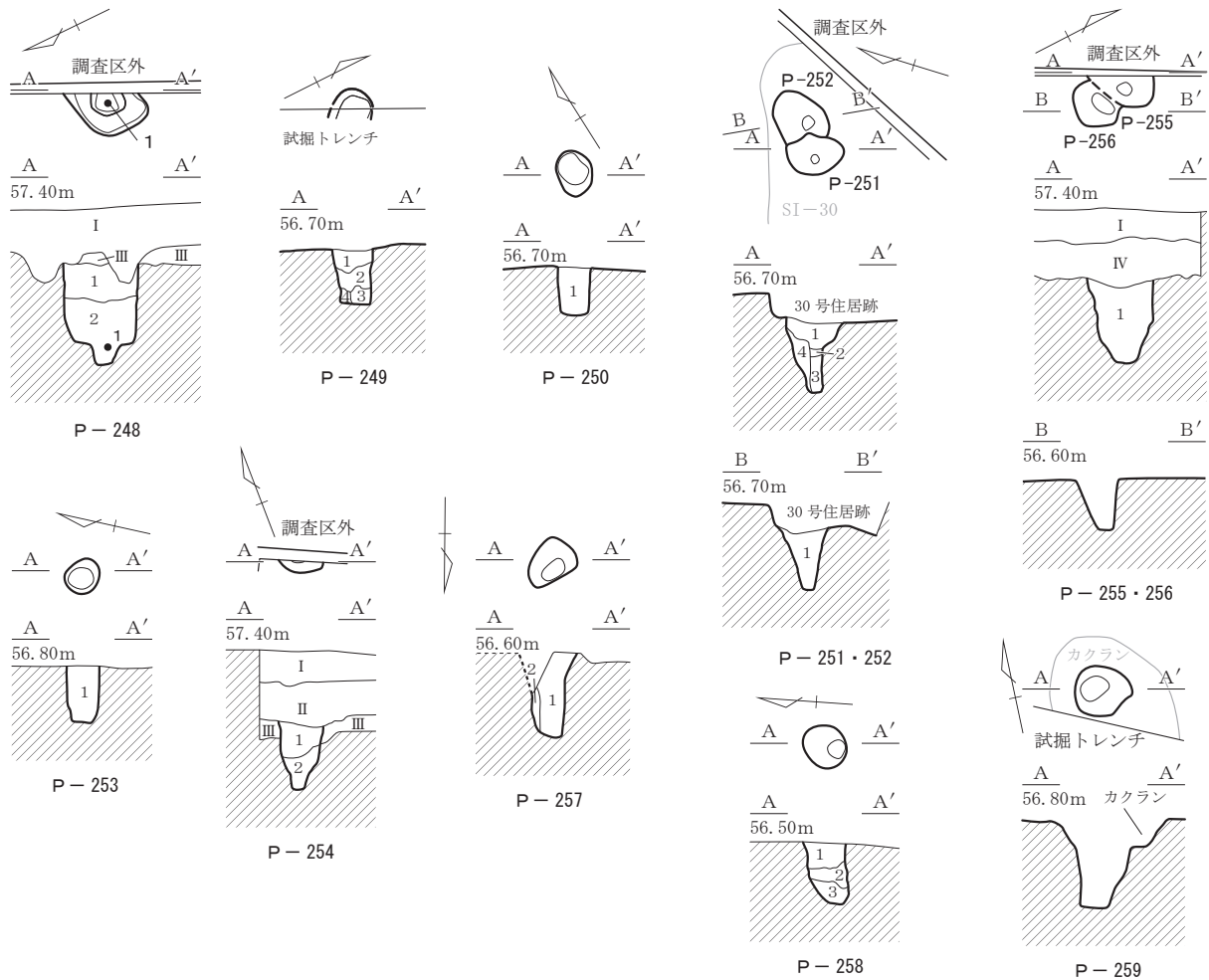


第 62 図 ピット遺構図 (1)



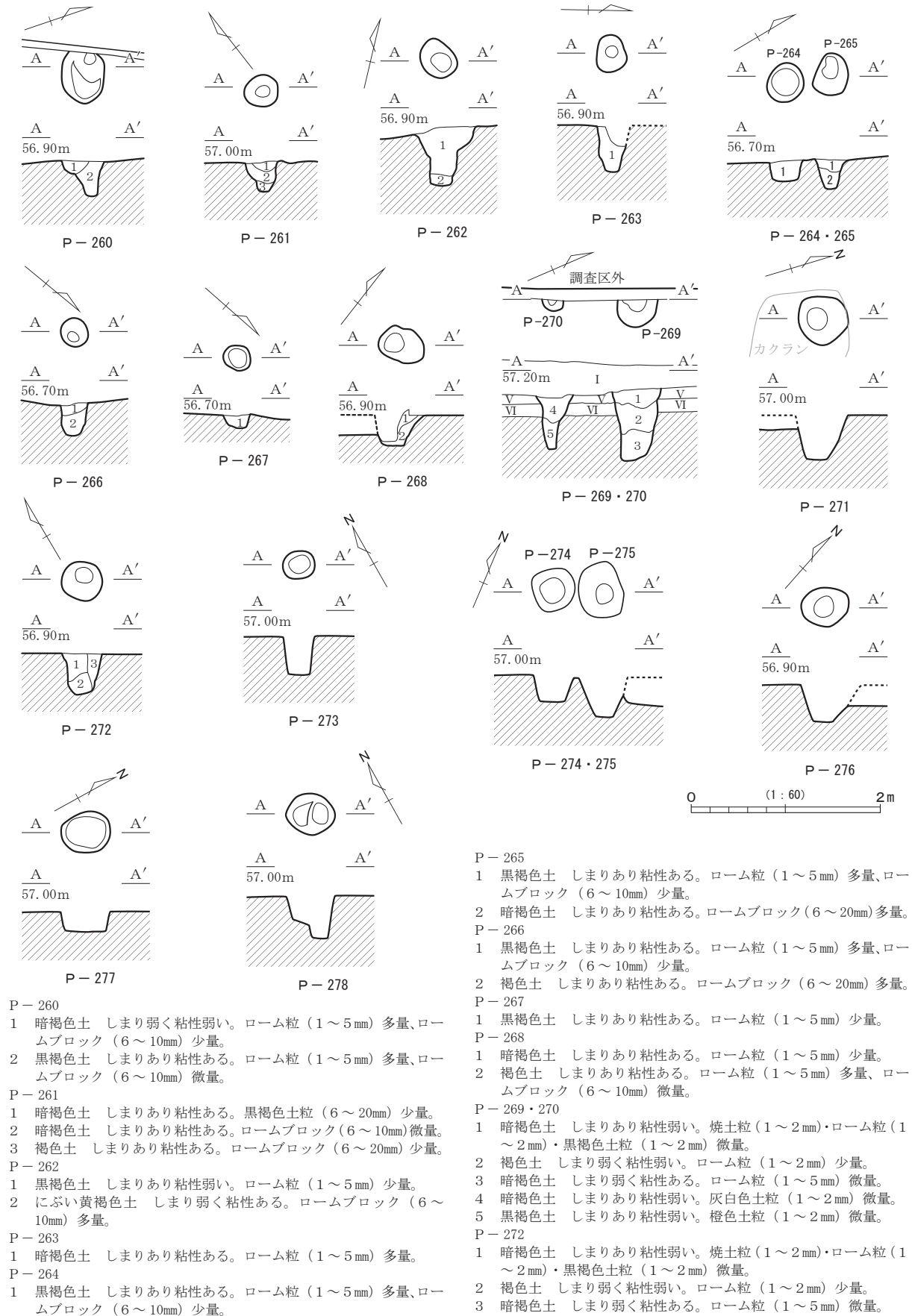
- P-238
- 1 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒 (1~5mm) 少量、炭化物 (1~2mm)・灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
 - 2 黒褐色土 しまりあり粘性弱い。焼土粒 (1~2mm)・炭化物 (1~2mm)・ローム粒 (1~2mm) 微量。
 - 3 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。にぶい黄褐色土粒 (1~2mm) 少量。
 - 4 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。にぶい黄褐色土粒 (1~3mm) 少量、焼土粒 (1~2mm) 微量。
- P-239
- 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~2mm)・灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
- P-240
- 1 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。炭化物 (1~2mm)・灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
 - 2 黒褐色土 しまりあり粘性ある。にぶい黄褐色土粒 (1~2mm) 微量。
 - 3 褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 少量、ローム粒 (1~2mm)・灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
- P-241
- 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。にぶい黄褐色土粒 (1~2mm) 微量。
 - 2 褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 少量、ローム粒 (1~2mm)・灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
- P-242
- 1 黒色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒 (1~5mm) 少量、焼土粒 (1~2mm)・ロームブロック (6~10mm) 微量。
 - 2 暗褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒 (1~2mm) 少量、灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
 - 3 黒褐色土 しまりあり粘性ある。にぶい黄褐色土ブロック (6~10mm) 少量、にぶい黄褐色土粒 (1~2mm) 微量。
 - 4 黒色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 多量。
 - 5 黒色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 多量。
- P-243
- 1 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量、灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
 - 2 暗褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量、焼土粒 (1~2mm) 微量。
 - 3 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量。
- P-244
- 1 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 少量、灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
 - 2 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量、焼土粒 (1~2mm) 微量。
 - 3 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 多量、ローム粒 (1~2mm) 微量。
- P-245
- 1 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量、炭化物 (1~2mm)・灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
 - 2 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6~10mm) 多量、ローム粒 (1~2mm) 少量。
- P-246
- 1 黒褐色土 しまり強く粘性弱い。ローム粒 (1~5mm) 少量、にぶい黄褐色土ブロック (6~10mm) 微量。
 - 2 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。にぶい黄褐色土ブロック (6~10mm) 少量、炭化物 (1~2mm) 微量。
 - 3 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6~20mm) 少量、炭化物 (1~2mm) 微量。
 - 4 にぶい黄褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック (6~20mm) 多量。
- P-247
- 1 黒褐色土 しまり弱く粘性弱い。にぶい黄褐色土粒 (1~2mm) 微量。
 - 2 黒褐色土 しまりあり粘性ある。にぶい黄褐色土ブロック (6~10mm) 多量、ローム粒 (1~2mm) 微量。

第 63 図 ピット遺構図 (2)

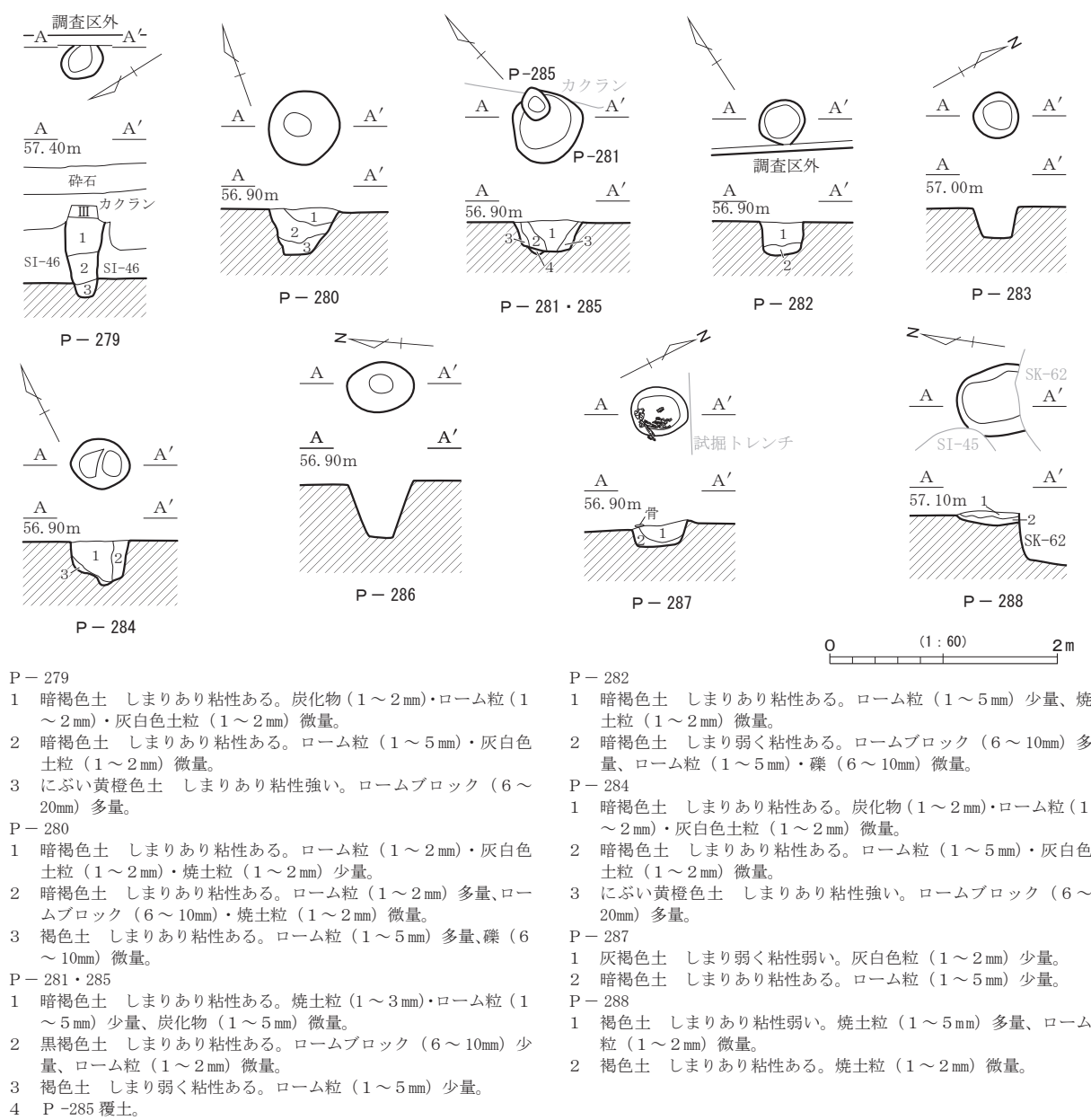


- P-248
 1 黒褐色土 しまりあり粘性弱い。焼土粒 (1~2mm)・橙色土粒 (1~2mm) 微量。
 2 暗褐色土 しまりあり粘性ある。橙色土ブロック (10~100mm) 少量、焼土粒 (1~2mm) 微量。
- P-249
 1 黒褐色土 しまりなく粘性ない。にぶい黄褐色土ブロック (30~50mm) 多量。
 2 黒褐色土 しまりなく粘性ない。にぶい黄褐色土ブロック (10mm) 少量。
 3 黒褐色土 しまりあり粘性ない。ロームブロック (10~20mm) 少量。
 4 黒褐色土 しまりあり粘性ない。ロームブロック (10~20mm) 多量。
- P-250
 1 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。炭化物 (1~2mm)・ローム粒 (1~5mm)・灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
- P-251
 1 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~2mm) 多量、炭化物 (1~2mm)・灰白色土粒 (1~3mm) 微量。
 2 黒色土 しまり弱く粘性弱い。ロームブロック (6~10mm) 多量。
 3 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量。
 4 暗褐色土 しまりあり粘性弱い。ローム粒 (1~5mm) 多量、ロームブロック (6~10mm) 少量。
- P-252
 1 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~2mm)・灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
- P-253
 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量。
- P-254
 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 多量。
 2 褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 少量。
- P-255
 1 褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量、ロームブロック (6~10mm)・灰白色土粒 (1~2mm) 微量。
- P-257
 1 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 少量。
 2 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 少量。
- P-258
 1 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 多量。
 2 褐色土 しまり弱く粘性弱い。ローム粒 (1~5mm)・ロームブロック (6~10mm) 少量。
 3 暗褐色土 しまりあり粘性ある。ローム粒 (1~5mm) 多量。

第64図 ピット遺構図 (3)



第 65 図 ピット遺構図 (4)



第 66 図 ピット遺構図 (5)

第 39 表 ピット一覧表 (1)

番号	位置	平面形	規模 (長×短×深・m)	出土遺物	備考
P-231	X =27665 Y =-59025	楕円形	1.14 × 1.00 × 0.35	土師器 (甕・坏)・土錘。	
P-232	X =27665 Y =-59025	円形	1.06 × 1.00 × 0.54	土師器 (甕・坏)。	
P-233	X =27660 Y =-59020	円形	0.65 × 0.63 × 0.56	土師器 (坏・高坏)。	
P-234	X =27665 Y =-59020	円形	0.66 × 0.63 × 0.18	土師器 (甕・坏)。	
P-235	X =27665・ 27670 Y =-59020	楕円形	1.13 × 1.07 × 0.67	土師器 (甕・坏)。	
P-236	X =27670 Y =-59020	楕円形	0.72 × 0.66 × 0.48	土師器 (甕・坏)。	

第40表 ピット一覧表(2)

番号	位置	平面形	規模(長×短×深・m)	出土遺物	備考
P-237	X =27670 Y =-59015	楕円形	0.70 × [0.35] × 0.44	土師器(甕・坏)。	
P-238	X =27670 Y =-59015	楕円形	0.80 × 0.71 × 0.45	土師器(甕・坏)。	
P-239	X =27670 Y =-59025	楕円形	0.39 × [0.18] × 0.13	土師器(甕・坏)。	
P-240	X =27670・ 27675 Y =-59015	楕円形	0.55 × 0.50 × 0.41	土師器(甕・坏)。	
P-241	X =27670・ 27675 Y =-59020	円形	0.47 × 0.43 × 0.45		
P-242	X =27675 Y =-59020	楕円形	0.75 × 0.58 × 0.64	土師器(甕・坏)。	
P-243	X =27675 Y =-59015・ -59020	楕円形	0.58 × 0.48 × 0.50	土師器(甕・坏)。	
P-244	X =27680 Y =-59015	円形	0.57 × 0.55 × 0.66	土師器(甕・坏)。	
P-245	X =27680 Y =-59015	楕円形	0.59 × 0.46 × 0.72	土師器(甕・壺・坏)。	
P-246	X =27675 Y =-59015	楕円形	0.62 × 0.55 × 0.64		
P-247	X =27680 Y =-59015	楕円形	0.53 × 0.46 × 0.37		
P-248	X =27675・ 27680 Y =-59015	不明	[0.35] × 0.33 × 0.35	土師器(坏)。	SI-30と重複。
P-249	X =27685 Y =-59010	不明	0.32 × [0.17] × 0.40		SI-32と重複。
P-250	X =27680 Y =-59015	楕円形	0.37 × 0.28 × 0.41	土師器(甕・坏)。	
P-251	X =27680 Y =-59015	楕円形	0.45 × 0.33 × 0.62	土師器(坏)。	SI-30・P-252と重複。
P-252	X =27680 Y =-59015	楕円形	[0.41] × 0.39 × 0.60	土師器(甕・坏)。	SI-30・P-251と重複。
P-253	X =27710 Y =-59035	楕円形	0.29 × 0.25 × 0.19	土師器(壺)。	SI-36と重複。
P-254	X =27715 Y =-59040	不明	0.35 × [0.09] × 0.42	土師器(甕)。	SI-38と重複。
P-255	X =27710・ 27715 Y =-59040	不明	[0.31] × [0.27] × 0.42	土師器(坏)。	SI-38・P-256と重複。
P-256	X =27710 Y =-59040	不明	0.41 × [0.30] × 0.40		SI-38・P-255と重複。
P-257	X =27710 Y =-59040	楕円形	0.42 × 0.31 × 0.75	土師器(坏)。	SI-36と重複。
P-258	X =27710 Y =-59040	楕円形	0.37 × 0.31 × 0.51	土師器(坏)。	SI-36と重複。
P-259	X =27710 Y =-59035	不整形	0.56 × 0.39 × 0.83	土師器(甕・甗・坏)。	
P-260	X =27705 Y =-59045	楕円形	[0.54] × 0.45 × 0.55		
P-261	X =27690 Y =-59045	円形	0.36 × 0.34 × 0.38	土師器(坏)。	
P-262	X =27655 Y =-59060	楕円形	0.41 × 0.35 × 0.27		SK-60と重複。

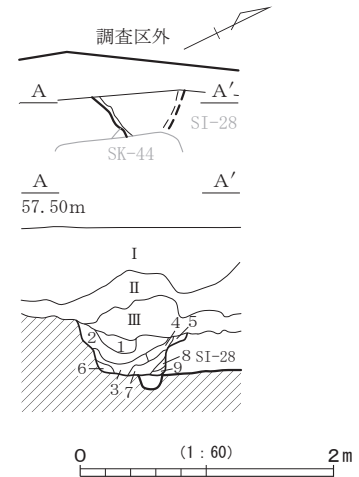
第41表 ピット一覧表(3)

番号	位置	平面形	規模(長×短×深・m)	出土遺物	備考
P-263	X =27685 Y =-59050	楕円形	0.40 × 0.32 × 0.54	土師器(甕・坏)。	SI-42と重複。
P-264	X =27685 Y =-59050	楕円形	0.42 × 0.37 × 0.10	土師器(甕・坏)。	SI-42と重複。
P-265	X =27685 Y =-59050	楕円形	0.45 × 0.34 × 0.34	土師器(坏)。	SI-42と重複。
P-266	X =27685 Y =-59050	円形	0.31 × 0.28 × 0.46		SI-42と重複。
P-267	X =27685 Y =-59050	楕円形	0.30 × 0.27 × 0.17	土師器(甕・坏)。	SI-42と重複。
P-268	X =27685・ 27690 Y =-59050	不整形	0.50 × 0.36 × 0.46		SI-42と重複。
P-269	X =27685 Y =-59055	不明	0.29 × 0.42 × 0.46	土師器(坏)。	
P-270	X =27680 Y =-59055	不明	0.14 × 0.12 × 0.32		
P-271	X =27680 Y =-59050	円形	0.54 × 0.52 × 0.46	土師器(甗・坏・高坏)。	SD-4と重複。
P-272	X =27680 Y =-59050・ -59055	楕円形	0.43 × 0.39 × 0.47	土師器(坏)。	
P-273	X =27680 Y =-59050	楕円形	0.34 × 0.29 × 0.40	土師器(甕・坏)。	
P-274	X =27680 Y =-59050	円形	0.45 × 0.44 × 0.28	土師器(甕・坏)。	
P-275	X =27680 Y =-59050	楕円形	0.59 × 0.46 × 0.40	土師器(坏)。	SD-4と重複。
P-276	X =27680 Y =-59050	楕円形	0.51 × 0.42 × 0.18		SD-4・5と重複。
P-277	X =27675 Y =-59050	楕円形	0.52 × 0.44 × 0.20	土師器(坏)。	
P-278	X =27675 Y =-59045	円形	0.28 × 0.28 × 0.12	土師器(甕・坏)。	SI-46と重複。
P-279	X =27675 Y =-59045	楕円形	0.38 × [0.29] × 0.14	土師器(壺)。	SI-46と重複。
P-280	X =27680 Y =-59050	楕円形	0.65 × 0.61 × 0.44		
P-281	X =27680 Y =-59050	円形	0.62 × 0.64 × 0.32	土師器(甕・坏)。	P-285と重複。
P-282	X =27675 Y =-59050	円形	0.41 × [0.39] × 0.24	土師器(甕・坏)。	
P-283	X =27680 Y =-59050	円形	0.41 × 0.40 × 0.26	土師器(坏・高坏)。	
P-284	X =27680 Y =-59050	楕円形	0.52 × 0.43 × 0.45		
P-285	X =27680 Y =-59050	楕円形	0.29 × 0.22 × 0.44		P-281と重複。
P-286	X =27690 Y =-59045・ -59050	楕円形	0.59 × 0.44 × 0.51	土師器(甕・坏)。	
P-287	X =27705 Y =-59035	楕円形	0.50 × 0.43 × 0.24	獣骨。	
P-288	X =27660 Y =-59055	不明	0.60 × [0.55] × 0.14		SK-62と重複。

6. 性格不明遺構

第1号性格不明遺構（第67図、図版8）

X = 27670、Y = -59035 に位置する。第28号住居跡、第44号土坑と重複し、切り合い関係から第28号住居跡より新しく第44号土坑より古い。西側は調査区外に範囲がおよぶ。規模は北東－南西が0.74 m以上、北西－南東が0.32 m以上、深さ0.45 mを測る。底面には起伏が認められ灰白色粘質土が検出された。覆土は、焼土粒・ローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土を主体としている。遺物は出土しなかった。本遺構の帰属時期は、重複する遺構との切り合い関係および覆土にAs-Bが含まれないことを考慮すると8世紀前半以降～As-B降下以前と想定される。なお、本遺構は覆土に焼土や灰白色粘質土が多く混入しており、他の土坑と差が認められたことから性格不明遺構として扱った。断面観察をした結果、第28号住居跡とは切り合いがあるものと判断したが、位置関係を考慮すると第28号住居跡のカマドであった可能性も考えられる。

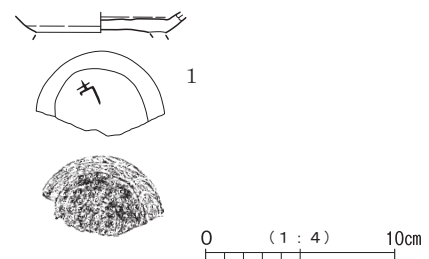


- A-A'
- 1 赤褐色土 しまり弱く粘性ある。焼土粒（1～5 mm）多量。
 - 2 灰白色土 しまり強く粘性強い。焼土粒（1～5 mm）微量。
 - 3 黒褐色土 しまり弱く粘性ある。ローム粒（1～5 mm）微量。
 - 4 黒色土 しまり弱く粘性あり。焼土粒（1～2 mm）多量、炭化物（1～5 mm）微量。
 - 5 黒褐色土 しまり強く粘性強い。ローム粒（1～5 mm）微量。
 - 6 黒褐色土 しまりあり粘性ある。ロームブロック（6～10 mm）多量。
 - 7 黄橙色土 しまり強く粘性強い。ロームブロック（6～10 mm）多量。
 - 8 黒色土 しまり強く粘性ある。ローム粒（1～5 mm）、灰白色粒（1 mm）微量。
 - 9 黒色土 しまり弱く粘性ある。灰白色粘土（6～30 mm）少量。

第67図 第1号性格不明遺構遺構図

7. 遺構外出土遺物（第68図、第43表、図版19）

遺構外出土遺物は1点を図示した。須恵器碗の底部片で底部に墨書が認められる。



第68図 遺構外出土遺物

第42表 遺構外出土遺物観察表

1	須恵器 高台付碗	A. 口径 -, 器高 [1.2]。B. 粘土紐積み上げ→ロクロ成形。C. 外面：体部回転ナデ。底部回転糸切→高台貼付・回転ナデ。内面：回転ナデ。D. 長石・白色粒・黒色粒。E. 外面：黄灰色、内面：暗黄灰色。F. 底部のみ 1/2。G. 還元焰焼成。底部墨書。H. SI42、4区。
---	-------------	--

第IV章 まとめ

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡20軒、土坑25基、溝跡4条、道状遺構1条、ピット58基、性格不明遺構1基である。検出された竪穴住居跡の形状や出土遺物から、古墳時代中期から平安時代の集落が形成されていることがわかった。ここでは今回の調査で得られた成果と周辺の調査事例を加味して考察し、まとめとしたい。

1. 本地点検出の竪穴住居跡について

本地点で確認された竪穴住居跡は、古墳時代中期から平安時代前期に帰属する。【註1】

古墳時代中～後期の竪穴住居跡は10軒（第27・29・32・35・38・39・40・41・42・45号竪穴住居跡）である。隅丸方形を呈し、主軸方位は主に南東－北西を指すが、第29・32号竪穴住居跡は南北もしくは南西－北東を示しており様相を異にする。主柱穴は4基配置され、南東壁際に入出口ピットをもつ住居跡がみられる。貯蔵穴は東隅もしくは南隅に位置する。炉は住居中央北西寄りに位置している。第32号竪穴住居跡においては炉跡は検出されなかったものの、第31号住居跡により削平を受けた北東壁側中央床面において焼土ブロックと灰白色粘土ブロックの散布が認められており、カマドが付設されていたと想定される。第40号住居跡は東壁にカマドを付し、炉跡を有する第41号住居跡より新しい。第40号住居跡は古墳時代後期初頭に近い扱いになろう。

飛鳥時代から奈良時代前半の竪穴住居跡は7軒（第28・31・33・34・36・37・43号竪穴住居跡）である。隅丸長方形を呈し、主軸方位は南西－北東または東西を指す。カマドは短辺である北東壁または東壁に付設される。柱穴は第28・31号竪穴住居跡で確認されており、4本主柱であったと想定される。

奈良時代後半から平安時代前期の竪穴住居跡は3軒（第26・30・46号竪穴住居跡）である。隅丸長方形を呈し、主軸方位は前時期と同じく南西－北東を指す。カマドは第26号住居跡のみ検出され、短辺である北東壁に付設している。柱穴は、第26号住居跡で4基確認されている。

2. 小島仕切沢遺跡A・B地点および小島仕切沢南遺跡A地点（平成30年度調査）における集落の変遷

本庄台地北縁部に所在する本遺跡および隣接する小島仕切沢南遺跡では、これまで2度の調査が行われており（小此木2019、福岡・宮田2023）、本調査は3地点目にあたる。これらの積み重ねにより徐々にではあるが、当地域の集落の様相が明らかになりつつある。そこで、本遺跡および小島仕切沢南遺跡に形成された集落の変遷について一度まとめておきたい。

第69・70図は本遺跡および小島仕切沢南遺跡で検出された竪穴住居跡の位置を各時期毎に表したものである。竪穴住居跡の時期は各報告の統一をはかるため、古墳時代中期末葉（5世紀中葉から後葉）、同時代後期初頭（5世紀末）、飛鳥時代から奈良時代前半（7世紀後半から8世紀前半）、奈良時代後半から平安時代前期（8世紀後半から9世紀前半）の4時期に区分した。

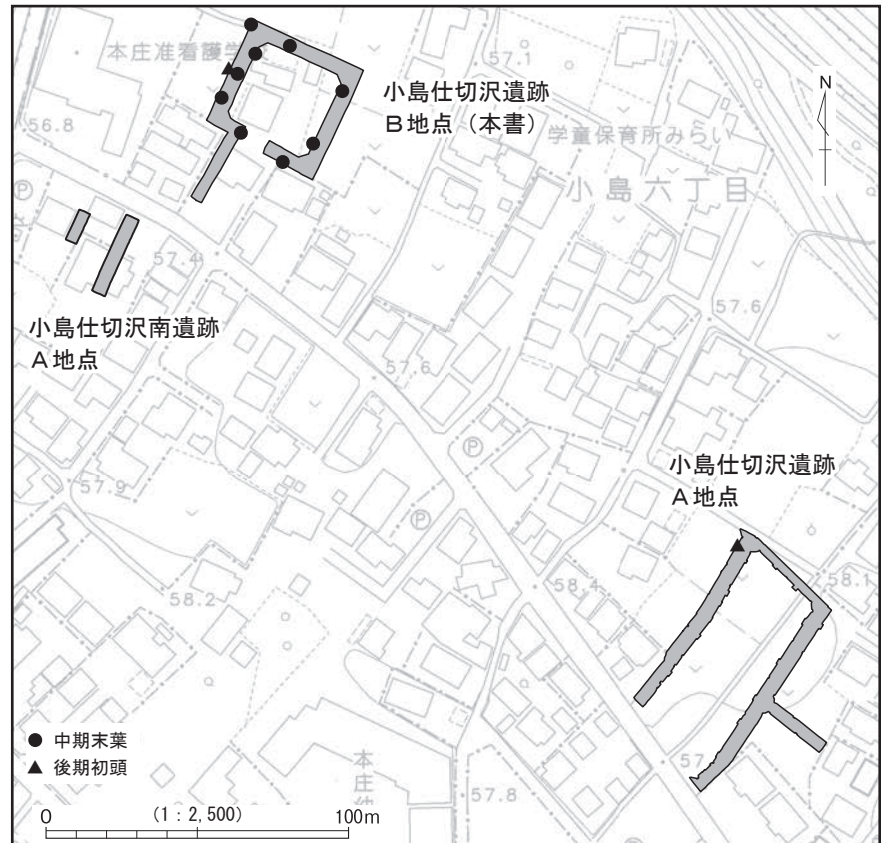
古墳時代中期末葉の竪穴住居跡は本地点でのみ検出されており、調査区のやや北西側に寄る傾向がみとれる。検出された9軒のうち、第32号竪穴住居跡を除く8軒が炉跡を有していた。カマド導入期直前の集落が本地点を中心に形成され、さらに本地点以西まで展開していることが予想される。なお、古墳時代後期初頭の竪穴住居跡は、本遺跡において2軒確認されている。本遺跡に当該期の

第Ⅳ章 まとめ

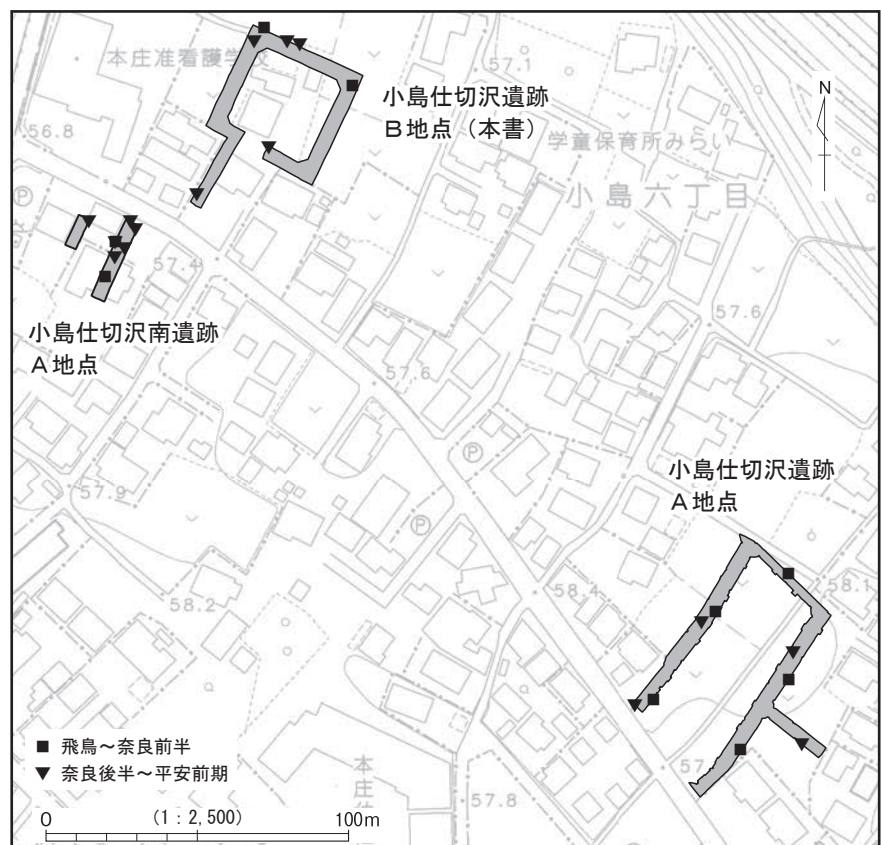
集落が営まれていたと思われるが、未調査部分が多くその規模は不明である。本遺跡の周辺にも当該時期の遺跡は少なく、分布の希薄な地域であったといえる。

飛鳥時代から奈良時代前半の竪穴住居跡は3地点全てでみられる。前時期から分布範囲が拡大し、件数も増加する。小島仕切沢南遺跡では、住居跡同士の重複が激しいことから、人口流入による集落の急速な拡大をうかがい知ることができる。小島地区周辺は古代の賀美（加美）郡と児玉郡の境界付近にあたる地域と推定されており、この時期における竪穴住居跡の増加は律令制による集落の再編成があった影響とも考えられる。

奈良時代後半から平安時代前期の竪穴住居跡は、前時期から継続して全ての地点で確認される。本遺跡A地点では調査区南東側に集中し軒数が増加する一方、本地点では軒数が減少し、調査区南東側に分布が移る。小島仕切沢南遺跡A地点については前時期と同じような配置をとるが、軒数は減少する。本地点お



第 69 図 古墳時代中・後期における竪穴住居跡配置図



第 70 図 飛鳥時代から平安時代前期における竪穴住居跡配置図

よび小島仕切沢南遺跡A地点における軒数の変化は、人口の減少というよりもむしろ、集落の中心が南東方面へ移行する過程を示しているものと考えられる。なお、平安時代中期以降の集落は、全地点で確認されていない。

簡単ではあるが、小島仕切沢遺跡および小島仕切沢南遺跡の集落についてまとめてみた。両遺跡とも未調査部分が多く不十分ではあるが、集落の消長と動向を確認することができた（宮田）。

3. 土器集積遺構について

本地点で確認された竪穴住居跡における特筆すべき点として、第33・37号竪穴住居跡でみられた土師器坏の大量出土が挙げられる。周辺においても同様の遺構が散見されているため、ここではこれらを土師器坏の集積遺構（以降集積遺構と呼称する）と捉えて検討を試みたい。

まず、小島仕切沢遺跡周辺における集積遺構5例をまとめて記述する【註2】。

本遺跡B地点から飛鳥時代に帰属する2例が確認された（本報告）。第33号竪穴住居跡は覆土上層から中層にかけて若干の高低差をもって土器が集積されていた。その多くが完形の土師器坏で、ほぼすべて正位の状態で数枚単位で積み重ねられて整然と並べられており、作為的な様相を呈している。また、土器集積の脇からは馬歯が出土している。第37号竪穴住居跡の土器集積はカマド前で確認された。覆土中層から床面直上にかけて高低差をもって広がっている。主体となる土師器坏は第33号竪穴住居跡と同様に重ねられた状態で出土していたが、正位の状態だけでなく傾倒もしくは逆位のものもあり、様々な状態で検出されている。また床面付近において土師器坏・甕・鉢類が散乱しているようにもみえ、第33号竪穴住居跡のような整然と並べられた状況は認識できなかった。なお、第26号竪穴住居跡でも貯蔵穴とその周囲から土器が多量に出土しているが、第33・37号竪穴住居跡のように土器が積み重なった様子は窺えなかったため、集積遺構からは除外して扱った。

本遺跡A地点では18号竪穴住居跡と22号竪穴住居跡の2例が確認されている（小此木2019）。前者は飛鳥時代に位置づけられ、床面が埋没していない段階で、多方向からの廃棄又は集積を想定している。後者は平安時代とされ、住居中央付近に焼土範囲があり、それを囲むように土器が出土している。坏は正位や逆位で重なっていた。火打ち金が共伴することから、火を用いた行為が指摘されている。いずれも土師器の坏を組成の主体としている。

石神境遺跡では1例確認される（太田2014）。SI-8の覆土上層～下層にかけて多量の土師器坏が出土している。中には焼き歪んだ個体が散見されており、実用

には供されず廃棄された不良品だと結論付けている。また、土師器坏とともに高坏が出土している。時期についての明言はないが、飛鳥時代の範疇であろう。

以上を踏まえて、5例の集積遺構の傾向をまとめてみたい。まず、本遺跡とA地点の出土遺物の重量を器種ごとに集計した

第43表 集積遺構出土土器の総量

地点	遺構名	須恵器			土師器		計
		坏	蓋	壺・甕	坏類	甕類	
A	SI-18	3,189 (7%)			26,473 (55%)	18,129 (38%)	47,791
	SI-22	280 (1%)			20,710 (53%)	17,725 (46%)	38,715
B	SI-33	-	-	145 (1%)	8,840 (66%)	4,352 (33%)	13,337
	SI-37	30 (0%)	-	607 (2%)	18,357 (72%)	6,397 (25%)	25,391

単位：g

ものが第 43 表である。すべての住居で土師器の坏が過半数以上を占めているのがわかる。遺物の出土状態は、坏を重ねるという共通点が 3 軒で確認される。しかし、出土位置は竪穴全体に広がるもの、一部に集中するもの、焼土範囲を避けるような出土状態と様々である。また、出土層位も上～下層に散在するもの、中層以下や一層にまとまるものもあり統一感に欠けている。所属時期による差異も見られなかった。共伴遺物も、馬歯や火打ち金など共通項は乏しい。

集積遺構は、住居が完全に埋没する前の窪地を用いて土師器の坏を重ねて集積し、重量比率では土師器の坏が過半数以上を占める傾向が読み取れた。一方で、平面的・層位的には共通項が少ない結果となった。埋没途中の住居跡に土師器の坏を集積する以外は、明確な規則性は定められていない行為だったのであろうか（宮本）。

4. 出土遺物について

本地点からは土師器を主体として、石製品、鉄製品、土製品など豊富な遺物が出土している。古墳時代の遺物で特筆すべきものは、子持勾玉と袋状鉄斧が挙げられる。そのほか、飛鳥時代以降は前述した集積遺構の関係で土師器の坏の出土量が目立つ。中には本来丸底である底部に突起を持つ個体もみられた。突起を持つ坏は数こそ少ないものの、本遺跡 A 地点や小島仕切沢南遺跡 A 地点ならびに周辺遺跡でもみられる特徴的な遺物である。ここで取り上げた以上 3 点の遺物について、以下に若干の考察を述べる。

（1）子持勾玉

子持勾玉は第 31 号竪穴住居跡から出土している。石材は蛇紋岩で、形状は縦に長い C 字状、断面は楕円形を呈し、腹部・背部・側面に突起を持つ。全体にノミによる粗い加工痕が残り、頭部に孔が穿たれていないことを考慮すると、未成品と考えられる。森分類（森 1949）では、形態的特徴から第Ⅱ型式（5 世紀後半）の所産と考えられる。一方、検出された第 31 号住居跡は 8 世紀代の住居跡であるため、子持勾玉は住居廃絶時に混入したのだらう。

本市における集落遺跡からの出土事例は、秋山大町遺跡に続いて 2 例目となる（鈴木・宮本 2010）。秋山大町遺跡では 6 世紀代の住居跡・溝跡から出土しており、住居跡出土は滑石製、溝跡出土は蛇紋岩製である。なお、隣接する小島仕切沢南遺跡では、飛鳥時代以降の住居跡から 5 世紀の所産とされる石製勾玉や剣形石製品が出土しており、いずれも住居廃絶時に混入したものと捉えている（福岡・宮田 2023）。

子持勾玉や剣形石製品は祭祀的な遺物に位置づけられる。今回の調査では祭祀遺構は未検出であるため、本集落内で子持勾玉を用いた祭祀的行為があったかどうかは定かではない。一方で、子持勾玉が未成品であること、集落北西に旭・小島古墳群が位置していることから、本集落における石製品製作工房の存在も想定される。本遺跡では今後、祭祀遺構あるいは工房跡を想定して調査を行う必要があるといえる。

（2）袋状鉄斧

袋状鉄斧は第 42 号竪穴住居跡から出土している。袋状鉄斧の身部は鍛造で、袋部は鍛延折り曲げの一体造りである。袋部の横断面は楕円形で、折り返しは密着せず刃先側から柄側に向かって徐々に開いている。明瞭な肩部を形成し、刃部は刃先部に向かって緩やかに広がっている。刃先は摩耗している様子が窺える。

袋状（有袋式）鉄斧に関して、古瀬清秀氏は有肩鉄斧（A類）と無肩鉄斧（B類）に分類しており、さらに全長と刃部幅の計測値から3群のまとまりをもち、それぞれ機能の違いを示すという見解を述べている（古瀬 1987）。本資料を古瀬氏の分類に当てはめると、明瞭な肩部を持つことからA類に属し、さらに全長 8.9cm、刃部幅 5.7cm であることからA 1 類（全長 6～13 cm、刃部幅 4～8 cm）に分類される。古瀬氏はA 1 類を手斧としての機能を有し、集落から比較的多く出土することから日常生活における木器製作加工、製材に使用したと想定している。

本市での袋状鉄斧の出土は、生野山将軍塚古墳（柳田 1964）と東五十子城跡遺跡（太田 2009）に続き 3 例目で、住居内出土は 2 例目となる。生野山将軍塚古墳第 2 主体部に副葬されていた有肩袋状鉄斧は、本遺跡の鉄斧より肩部が水平で身部と袋部は別造りであると想定されている。鉄斧の形状や生野山将軍塚古墳が前期古墳であることから、本遺跡出土の鉄斧が新しいと思われる【註 3】。東五十子城跡遺跡 10 号住居はカマドを持たない古墳時代中期の住居跡である。住居内からは土師器、鉄製品、石製品、炭化した竹製編物片、不明木製品といった豊富な遺物が出土したことで著名である。鉄斧も 2 点出土し、それぞれ有肩袋状鉄斧と無肩袋状鉄斧である。有肩袋状鉄斧は、本遺跡出土の鉄斧と形状に近い。出土遺構の時期も同時期であり、本遺跡出土の鉄斧とともに古墳時代中期における袋状鉄斧の形態的特徴をうかがい知ることができる良好な資料といえよう（宮田）。

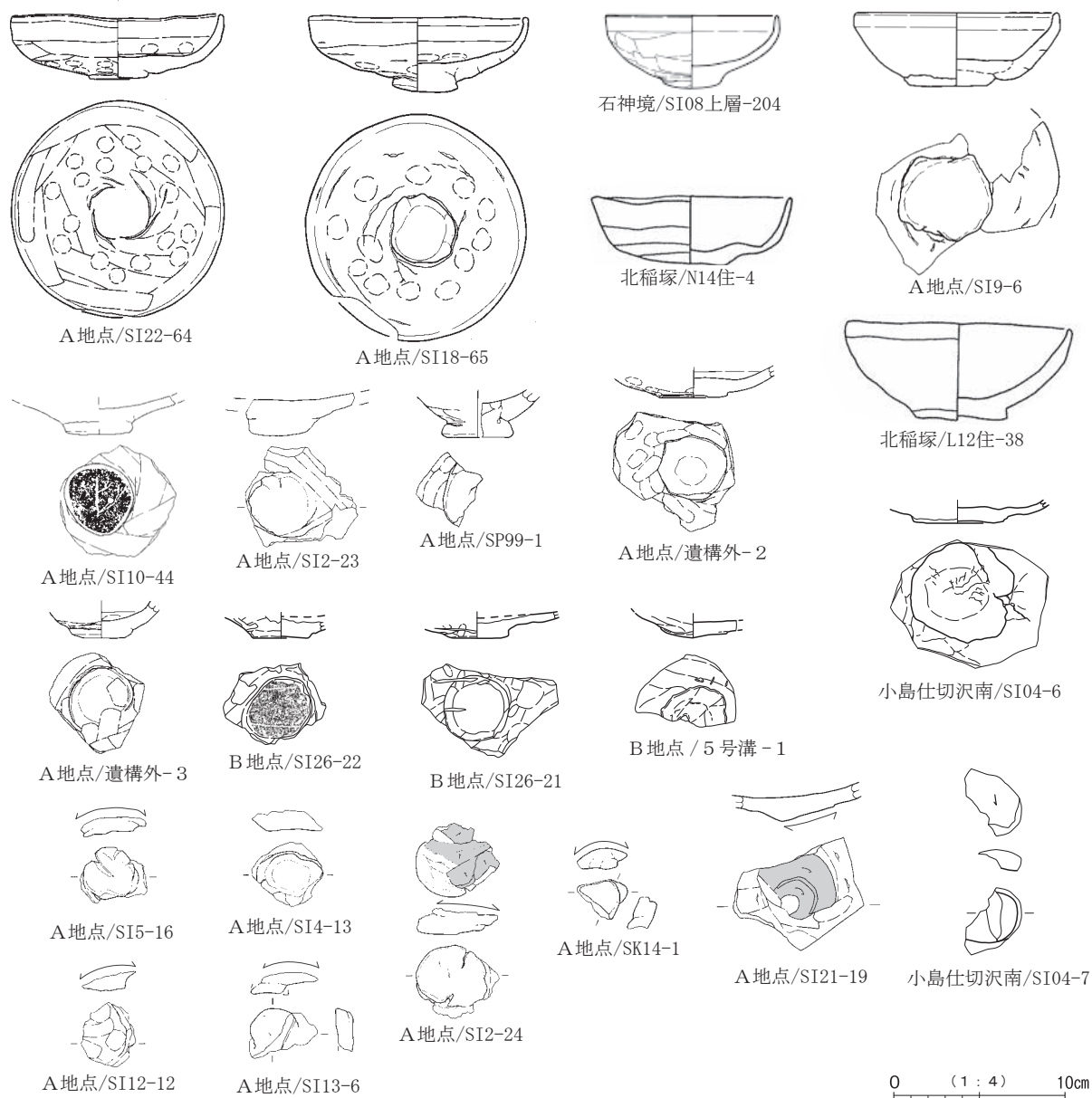
（3）底部に突起を有する土師器坏と土師器製作の可能性

小島仕切沢遺跡A地点の報告で底部に突起を持つ土師器坏について言及している（小此木 2019）。その後の調査においても同様の坏の類例は増加し、本遺跡でも 3 点の資料を追加した（第 71 図）。

底部に突起の付いた土師器坏は埼玉県内で古墳時代後期前半からみられる。深谷市に所在する新屋敷遺跡や上敷免北遺跡、城北遺跡で報告され、田中広明氏や山川守男氏によって製作工程の復元がなされている（田中 1989・1991・1992・1995、山川 1995）。底部の突起は本来、体部調整の際にケズリ落とされるもので、底部が残存している個体は製作途中品、つまり未製品としてみなされている。また、前述の遺跡においては削りかすと想定された粘土片も出土しており、土師器製作の証左とされている。本遺跡周辺でも社具路遺跡（長谷川 1987）と北稲塚第Ⅱ地点遺跡（外尾 2007）において古墳時代後期の突起を持つ坏が出土している。

飛鳥時代になると石神境遺跡（SI-8）、本遺跡（SI-26）、小島仕切沢南遺跡A地点（SI-22）、北稲塚遺跡（L-12 住、N-14 住）で出土しており、平安時代までみられる。これらのうちで器形のわかる個体は 6 個体ある（第 71 図）。口縁部が内湾し浅い体部に丸底を呈する北武蔵型坏の形状のものが 3 点、器壁が厚く口縁部が短く直立するものが 2 点、口縁部が長く外反するものが 1 点である。どの器形も完成品に同型のものが存在する。器壁が厚い個体はケズリ調整前の未製品だと思われる。突出する底部のみの破片は 17 点確認される。この中には、本体からケズリ取られた突起も含まれている。さらに、木葉痕を有する個体が 2 点あり、製作時の多様性をうかがい知る資料となる。

ここまで底部に突起のある土師器坏についてまとめてみた。本庄台地周辺では、調査事例の増加から飛鳥時代から平安時代の遺構も多く検出されているが、底部に突起のある土師器坏は管見の限り認められない。未製品であるこの土器が焼成され、出土する背景を勘案すると、やはり土師器坏を製作していたと考えるのが自然である。製作時に発生する削りかすもA地点で出土している。これに加えて、不良品と思しき焼き歪みや亀裂の入った個体が本遺跡と石神境遺跡、北稲塚遺跡で複数個体出土するほか、A地点の 1 号竪穴状遺構は土師器焼成遺構の可能性も報告される（小此木 2019）。さらに、



第71図 底部に突起のある坏集成

A地点の古代に帰属する竪穴住居跡からは、鉄製刀子の出土が目立つ。具体的な数値で示すと、当該期の竪穴住居跡 20 軒から計 13 点の刀子が出土し、その保有軒数率は 65% となっている。土師器製作時の工具として刀子を使っていたならば、この出土数は相応しい結果だと思われる。よって、小島仕切沢遺跡は土師器の坏の製作遺跡とみてほぼ間違いないだろう。加えて、本遺跡は本庄台地縁辺に立地しており、すぐ北には低地へと繋がる崖が存在している。土器を製作する際に必要不可欠な粘土も、崖の露頭から採取できたのではないだろうか。

5. 結語

雑駁ではあるが、調査のまとめを述べてきた。本遺跡で最も特異な事例とすれば集積遺構であろう。集積遺構は祭祀遺構とも見受けられたが、土器が重なった状態は供献した状態ではなく祭祀具として

使用した後にまとめて置いたものという論考がある（篠原 2025）。これに拠るならば、本遺跡の集積遺構は、祭祀遺構そのものではなく撤収後の姿として残った状態だと捉えられようか。しかし、使用された土器が土師器坏にほぼ限定される異質さは目を見張るものがある。出土した坏の中に底部に突起がある未製品や亀裂のある不良品を含むことも考慮し、同器種を生産していた遺跡ならではの祭祀形態があった可能性も指摘したい（宮本）。

【註 1】年代観については、小此木 2019、松本・的野 2019 を参考とした。

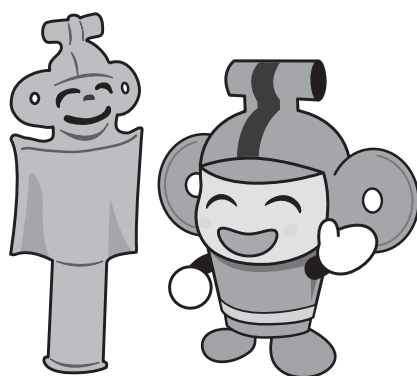
【註 2】北稲塚遺跡（外尾 2007）でも 2 基、集積遺構らしき住居跡が報告されている。しかし、報告内において出土状況の明確な記述がないため、遺構写真から判断したにすぎない。よってここでは、集積遺構とは扱わずに存在に触れる程度にとどめておく。0-7 住はカマド前の覆土上～下層に遺物が集中する。L-12 西住は堅穴の南西隅の覆土中～下層から遺物が出土している。2 基の遺構は土師器の坏が主に図示され、出土遺物から奈良時代に帰属すると思われる。写真から読み取るに、坏が重ねられている様子はないようである。

【註 3】恋河内昭彦氏のご教示による。

〔参考文献〕

- 太田博之 2009 「埼玉県本庄市東五十子城跡遺跡 10 号住居出土の鉄器」『考古学雑誌』第 93 巻第 2 号 51-70 頁
- 太田博之 2014 『石神境遺跡・天神林Ⅱ遺跡』本庄市紀要育委員会
- 小此木真理 2019 『小島仕切沢遺跡』本庄市教育委員会
- 鈴木徳雄・宮本久子 2010 『秋山大町遺跡・秋山諏訪平遺跡Ⅲ』本庄市遺跡調査会
- 古瀬清秀 1987 「農具」『古墳時代の研究』第 8 巻 古墳Ⅱ 副葬品 雄山閣出版
- 外尾常人 2007 『北稲塚第Ⅱ地点遺跡』上里町教育委員会
- 本庄市史編集室 1995 『本庄市史』資料編 本庄市
- 福岡佑斗・宮田忠洋 2023 『小島仕切沢南遺跡－A 地点の調査－』本庄市教育委員会
- 柳田敏司 1964 「埼玉県児玉郡生野山將軍塚古墳発掘調査概報」『上代文化』第 34 輯 國學院大學考古学会
- 篠原祐一 2025 「祭祀の新解釈」『山梨県埋蔵文化財センターシンポジウム 古墳時代中期の遺物集積遺構を考える』山梨県埋蔵文化財センター
- 田中広明 1989 「上毛野・北武蔵の古墳時代後期の土器生産－土器生産の転換と在地首長制－」『東国土器研究』2 号 72-87 頁，東国土器研究会
- 田中広明 1991 「古墳時代後期の土師器生産と集落への供給」『埼玉考古学論集』田中広明ほか 1992 『新屋敷東・本郷東前』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 田中広明 1995 「関東西部における律令制成立まで土器様相と歴史的動向－群馬・埼玉県を中心として－」『東国土器研究』4 号 155-178 頁，東国土器研究会
- 長谷川勇ほか 1987 『社具路遺跡発掘調査報告書』本庄市教育委員会
- 松本 完・的野義行ほか 2019 『葉師堂東遺跡Ⅱ（C・D 地点）』本庄市教育委員会
- 丸山 修 2018 『北稲塚遺跡発掘調査報告書』上里町教育委員会
- 森 浩一 1949 『堺市百舌鳥赤畑カトンボ古墳の研究』古代学研究
- 山川守男 1995 『城北遺跡』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

写真図版



本庄市マスコット

はにぽん



小島仕切沢遺跡B 地点遠景（西から）



小島仕切沢遺跡B 地点全景（左下が北）

図版 2



第 26 号住居跡（南西から）



第 26 号住居跡カマド（南西から）



第 26 ～ 28 号住居跡遺物出土状態（南西から）



第 26 号住居跡D 1 遺物出土状態（南西から）



第 27 号住居跡（南から）



第 28 号住居跡（南西から）



第 29 号住居跡（南から）



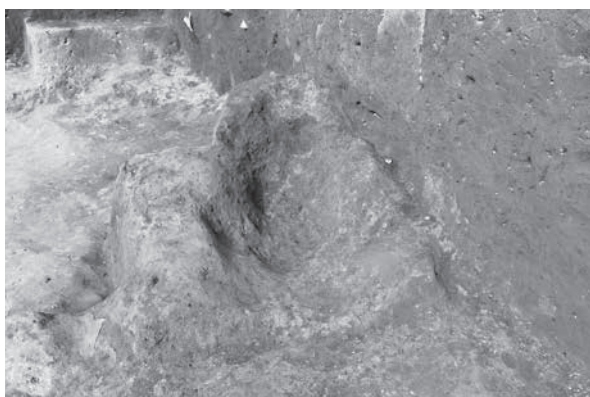
第 29 号住居跡遺物出土状態（北東から）



第30号住居跡（南西から）



第31号住居跡（南西から）



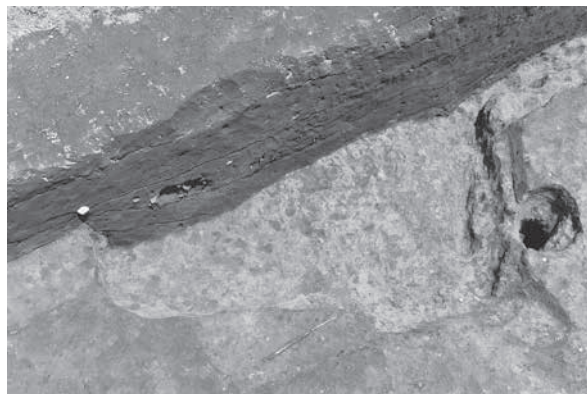
第31号住居跡カマド（南西から）



第31号住居跡遺物出土状態（北西から）



第32号住居跡（南西から）



第33号住居跡（南西から）

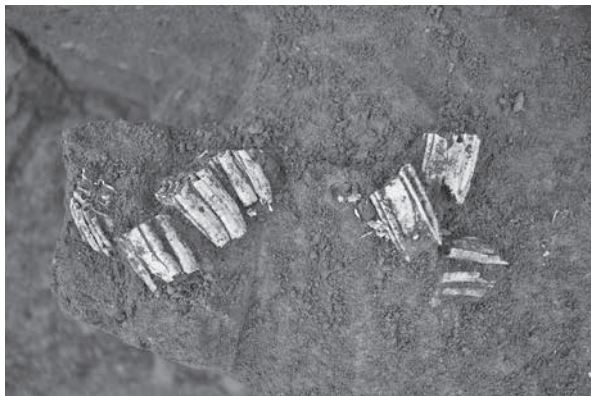


第33号住居跡遺物出土状態（南西から）

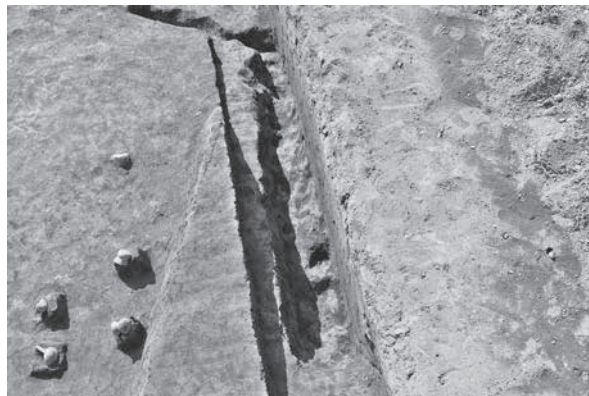


第33号住居跡遺物出土状態（南から）

図版 4



第 33 号住居跡動物骨出土状態（南から）



第 34 号住居跡（南東から）



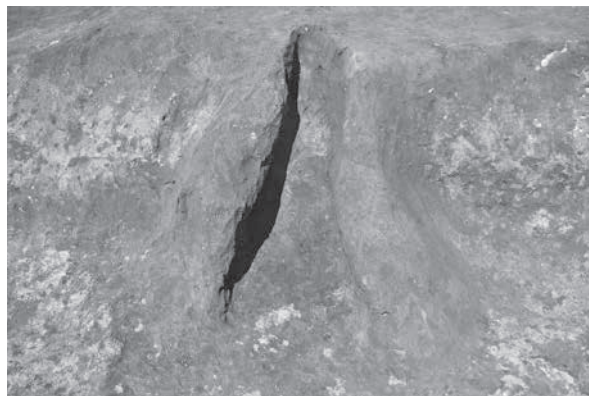
第 35 号住居跡（南東から）



第 36 号住居跡（西から）



第 37 号住居跡（南西から）



第 37 号住居跡カマド（南西から）



第 37 号住居跡遺物出土状態（南西から）



第 38 号住居跡（南東から）



第39号住居跡（南西から）



第40号住居跡（西から）



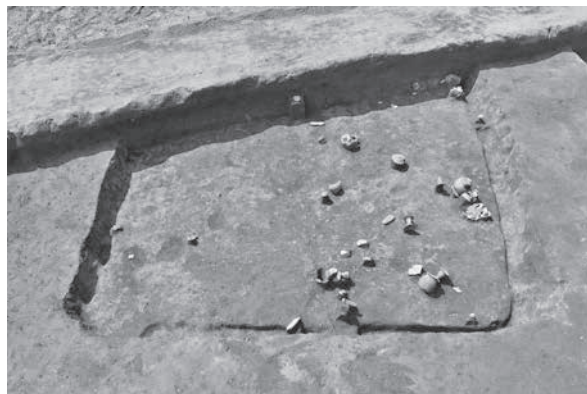
第41号住居跡（北東から）



第40・41号住居跡遺物出土状態（北東から）



第42号住居跡（南東から）



第42号住居跡遺物出土状態（南東から）



第42号住居跡遺物出土状態（南東から）



第42号住居跡遺物出土状態（北東から）

図版 6



第43号住居跡（南西から）



第44号住居跡（南東から）



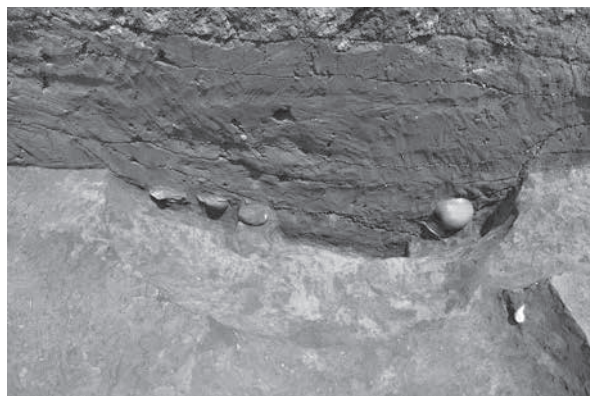
第44号住居跡遺物出土状態（南東から）



第45号住居跡（南西から）



第45号土坑遺物出土状態（南東から）



第52号土坑遺物出土状態（南西から）



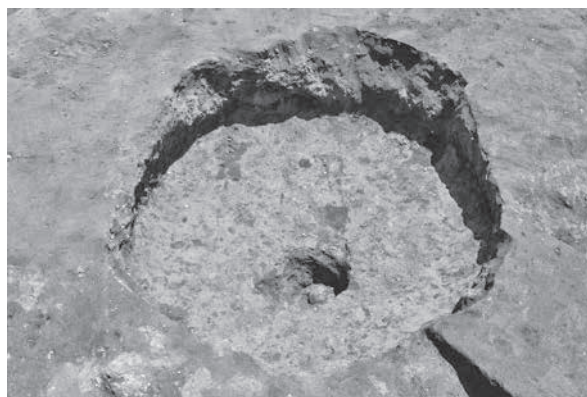
第52号土坑遺物出土状態（南西から）



第55号土坑遺物出土状態（北東から）



第 55 号土坑遺物出土状態（北東から）



第 60 号土坑（南から）



第 61 号土坑遺物出土状態（南東から）



第 62 号土坑（北から）



第 2 号溝跡（北西から）



第 3 号溝跡（北西から）



第 4 号溝跡（南東から）



第 5 号溝跡（南西から）

図版 8



第1号道状遺構（南東から）



第1号道状遺構土層断面（南東から）



調査区南西部ピット群（北東から）



P-287 獣骨出土状態（南東から）



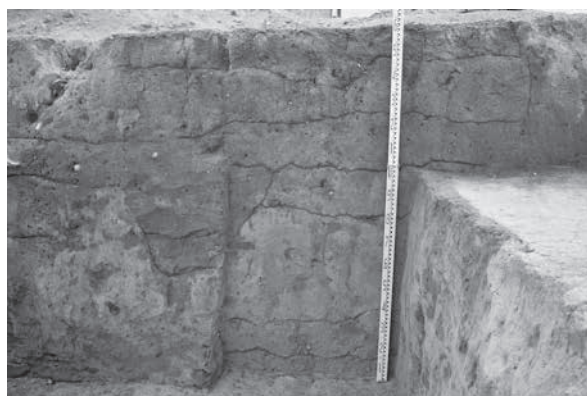
第1号性格不明遺構（南東から）



第1号性格不明遺構土層断面（北東から）



基本層序A（北東から）



基本層序B（北東から）



26 住 -1



26 住 -2



26 住 -5



26 住 -6



26 住 -3



26 住 -4



26 住 -7



26 住 -8



26 住 -9



26 住 -10



26 住 -11



26 住 -12



26 住 -13



26 住 -14



26 住 -15



26 住 -16



26 住 -17



26 住 -18



26 住 -19



26 住 -20



26 住 -23



26 住 -24



26 住 -25



26 住 -26



26 住 -21



26 住 -22



26 住 -27

竖穴住居跡出土遺物 (1)

图版 10



豎穴住居跡出土遺物 (2)



31 住 -1



31 住 -2



31 住 -3



31 住 -4



31 住 -5



31 住 -6



31 住 -7



31 住 -8



31 住 -9



31 住 -10



31 住 -11



31 住 -12



31 住 -13



31 住 -14



31 住 -15



31 住 -16



31 住 -17



31 住 -18

竖穴住居跡出土遺物（3）

图版 12



32 住 -1



32 住 -2



32 住 -3



32 住 -4



32 住 -7



32 住 -5



32 住 -6



32 住 -8



32 住 -9



32 住 -10



32 住 -11



32 住 -12



32 住 -13



32 住 -14



33 住 -1



33 住 -2



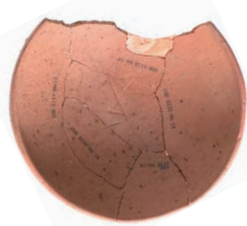
33 住 -4



33 住 -3



33 住 -5



33 住 -6



33 住 -7



33 住 -8



33 住 -9



33 住 -10



33 住 -11



33 住 -12



33 住 -13



33 住 -16



33 住 -17



33 住 -14



33 住 -15



竖穴住居跡出土遺物 (4)



竖穴住居跡出土遺物 (5)

图版 14



37 住 -12



37 住 -13



37 住 -14



37 住 -15



37 住 -16



37 住 -17



37 住 -18



37 住 -19



37 住 -20



37 住 -21



37 住 -22



37 住 -23



37 住 -24



37 住 -25



37 住 -26



37 住 -27



37 住 -28



37 住 -29



37 住 -30



37 住 -31



37 住 -32



37 住 -33



37 住 -34



37 住 -35



37 住 -36



37 住 -37



37 住 -38



37 住 -39



37 住 -40



37 住 -41



37 住 -42



37 住 -43



37 住 -44



37 住 -45



37 住 -46



37 住 -47

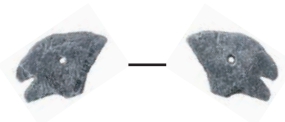
竖穴住居跡出土遺物 (6)



38 住 -1



38 住 -3



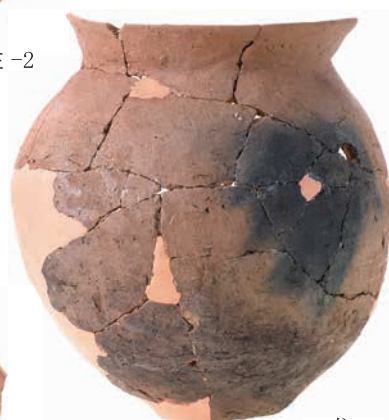
38 住 -4



39 住 -1



38 住 -2



39 住 -2



39 住 -4



39 住 -3



40 住 -1



39 住 -5



39 住 -6



40 住 -2



40 住 -3



40 住 -4

图版 16



41 住 -1



41 住 -2



41 住 -3



41 住 -4



41 住 -5



41 住 -6



42 住 -1



42 住 -2

竖穴住居跡出土遺物 (8)



42 住 -3



42 住 -4



42 住 -5



42 住 -6



42 住 -7



42 住 -8



42 住 -9



42 住 -10



42 住 -11



42 住 -12



42 住 -13



42 住 -14



43 住 -1



43 住 -2



43 住 -3



44 住 -1



44 住 -4



44 住 -2



44 住 -3



44 住 -5



44 住 -7



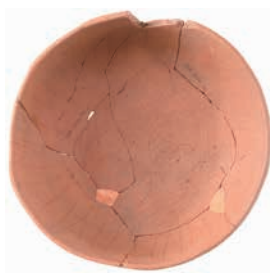
44 住 -8



44 住 -9



44 住 -6



46 土 -1



46 土 -2



49 土 -1



49 土 -2





土坑出土遺物（2）・溝出土遺物・ピット出土遺物・遺構外出土遺物

報 告 書 抄 録

フリガナ	オジマシキリザワイセキ ービーチテンノチョウサー							
書 名	小島仕切沢遺跡 ーB地点の調査ー							
副 書 名	宅地造成に伴う道路付設工事に先立つ埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	本庄市埋蔵文化財調査報告書					巻 次	第 78 集	
編著者名	福岡佑斗・車崎正彦・宮田忠洋							
編集機関	本庄市教育委員会							
所 在 地	〒 367-8501 埼玉県本庄市本庄 3 丁目 5 番 3 号 TEL 0495-25-1185							
発 行 日	西暦 2025 年（令和 7 年） 3 月 3 日							
フリガナ	フリガナ	コード		北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡					
オジマシキリザワ 小島仕切沢 イセキ 遺跡 ビーチテン B地点	埼玉県本庄市 小島六丁目 1357-1、1359-2、 1359-3、1360-1、 1360-2、1360-5 1367-1、 1420	112119	53-011	36° 14′ 51″	139° 10′ 35″	20240402 ～ 20240731	980 m ²	宅地造成に 伴う道路付 設工事
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集 落	縄 文	住居跡 10 軒 土坑 4 基		縄文土器（諸磯 b 式） 石器（剥片） 土師器（甕・小形甕・甌・壺・ 埴・坏・高坏・埴）、須恵器（ハ ソウ）、土製品（手捏ね土器・ 棒状・焼成粘土塊）、石製品 （子持勾玉・有孔円板・砥石）、 鉄製品（袋状鉄斧）		古墳時代（5 世紀後半） ～平安時代（9 世紀前 半）の竪穴住居跡を検 出した。 第 31 号竪穴住居跡から 子持勾玉未成品が出土 している 第 42 号竪穴住居跡から 袋状鉄斧が出土してい る。	
		古 墳						
	集 落	飛 鳥 奈 良 平 安	住居跡 10 軒 土 坑 21 基 溝跡 4 条 道状遺構 1 条	土師器（甕・小形甕・台付甕・ 甌・壺・鉢・坏）、須恵器（甕・ 壺・蓋・坏・高台付）、土製 品（ミニチュア土器・土錘・ 紡錘車・棒状・焼成粘土塊）、 石製品（紡錘車・有孔円板・ 砥石・薦編石・棒状礫）、鉄 製品（鉄鏃・釘・刀子・鎌・ U 字状）、動物骨（馬歯・小 動物頭骨）		第 33・37 号住居跡では 祭祀に関連する可能性 がある土器の集積が確 認された。第 33 号住居 跡では馬の頭骨も伴っ ている。		
		時期不明	ピット 58 基 性格不明遺構 1 基					

本庄市埋蔵文化財調査報告書第 78 集
小 島 仕 切 沢 遺 跡
－ B 地点の調査－

令和 7 年 2 月 21 日 印刷

令和 7 年 3 月 3 日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄 3 丁目 5 番 3 号

印刷／朝日印刷工業株式会社

群馬県前橋市元総社町 67 番地